京都府公立大学法人京都府立医科大学

2024 年度

看護実践キャリア開発センター

事業報告書

Kyoto Prefectural University of Medicine Nursing Practice Career Development Center

発刊にあたり

平素は京都府立医科大学看護実践キャリア開発センターへの格別のご高配を賜り、心より感謝申し上げます。

看護実践キャリア開発センターは、今年で開設 16 年目となりました。昨年度の第３期最終評価では、事業の焦点化や学習環境の整備、実践と評価の整合性などの課題が明らかになりましたが、それらの解決を目指しつつ、第４期もジェネラリストレベル以上の看護職を対象とした教育プログラム等を精力的に展開しています。

2024 年７月には、文部科学省「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業（社会的な要請に対応できる看護師の養成）」に当センターが申請した「Project KPUM 重症患者に対応できるジェネラリストナース養成プロジェクト」が採択されました。4 月には京都府立医科大学附属病院が救命救急センターに指定され、より高度なクリティカルケアを提供できる看護師の養成が求められているところです。このプロジェクトでは、2024 年度は附属病院の看護師を、2025 年度・2026 年度は京都府内の看護師を対象に、半年間の教育プログラムを実施します。特定行為研修で用いる e-learning、認定看護師や専門看護師による講義と演習、4 週間の On the Job Training、施設見学実習などによる充実したプログラムの提供を目指しています。

キャリアセンター事業の中では、特定行為研修や Project KPUM が占める割合が大きくなっていますが、看護倫理ベーシック研修や看護職キャリア交流会、看護専門分野別講座、看護研究支援研修など、これまで広く公開してきた事業も継続しています。次年度も、京都府内における看護職のキャリアパス形成支援の一助を担うべく、当センター関係者一同、引き続き尽力してまいります。地域の皆様には、今後ともご支援・ご協力を賜りたく、どうぞよろしくお願い申し上げます。

令和７年３月吉日

京都府公立大学法人　京都府立医科大学
看護実践キャリア開発センター
センター長　毛利貴子

目　次

発刊にあたり

Ⅰ．体制 …… 1

１．実施体制 …… 2

２．会議日程 …… 3

Ⅱ．部門報告 …… 4

１．キャリアパス構築部門 …… 5

２．教育プログラム開発・運営部門

１）看護学科キャリア教育 …… 7

２）看護倫理ベーシック（旧 看護倫理Ⅰ） …… 8

３）臨地実習指導に携わる看護師のための支援研修 ……11

４）看護専門分野別講座 ……17

がん看護、手術看護、救急看護、慢性心不全看護、皮膚排泄ケア
認知症看護、糖尿病看護、摂食嚥下障害看護、精神看護

５）看護研究支援研修 ……19

６）ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業（社会的な要請に対応できる看護師の養成）

Project KPUM 重症患者に対応できるジェネラリストナース養成プロジェクト ……25

３．教育・研究支援連携推進部門

１）e-learning ……55

・看護学科

・附属病院

・北部医療センター

２）看護職キャリア交流会（旧 看護研究支援研修） ……58

４．評価プロジェクト部門 ……61

Ⅲ．委託事業 ……63

１．特定行為研修 ……64

２．スキルス・ラボ活用 ……71

Ⅰ.体制

1.キャリアパス構築部門

Ⅰ．京都府立医科大学看護実践キャリア開発センター（以下キャリアセンター）について

１）目的

社会のニーズに対応した看護実践能力の向上を目指した教育支援、看護師の生涯を通じたキャリア形成支援のために、地域に開かれた教育プログラムの開発、教育指導者の養成、教育環境の充実を図り、看護職の人材育成に寄与すること。

２）事業の対象

日本看護協会クリニカルラダーⅢ以上のジェネラリストレベル以上の看護師。

３）事業部門と活動内容（図１）

キャリアパス構築、教育プログラム開発・運営、教育・研究支援連携推進、評価プロジェクトの４部門、特定行為研修運営事務局とスキルスラボの委託事業から成る。

キャリアセンターにおける４つの部門と活動内容

(1) キャリアパス構築部門

(2) 教育プログラム開発・運営部門

・看護学科キャリア教育（１～4 年生）

・看護倫理ベーシック研修

・臨地実習指導に携わる看護師のための支援研修

・看護専門分野別講座

・看護研究支援研修

・ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業（社会的な要請に対応できる看護師の養成）
Project KPUM 重症患者に対応できるジェネラリストナース養成プロジェクト

・with コロナ新時代の潜在保健師・看護師リカレント教育（2023 年度以降休止）

・緩和ケアを推進する看護師養成（2024 年度以降休止）

(3)教育・研究支援連携推進部門

・e-learning 整備・活用　・看護職キャリア交流会　・研究支援の調整

(4)評価プロジェクト部門

委託事業

・特定行為研修運営事務局

・スキルスラボ管理

図１．看護実践キャリア開発センターにおける各部門の概要

Ⅱ．キャリアパス構築部門

キャリアパス構築部門は、キャリアパスの全体構想およびキャリアセンター将来構想を検討する部門である。当センターがめざす看護職のキャリア形成支援（図２）に沿って、事業を展開している。

2024 年度、「看護倫理ベーシック研修」では、「倫理的職場風土の構築」をテーマに講演とワークショップを開催した。講演 32 名、ワークショップ 29 名が参加し、倫理的な職場環境の構築についてディスカッションを行った。「看護職キャリア交流会」では、「看護管

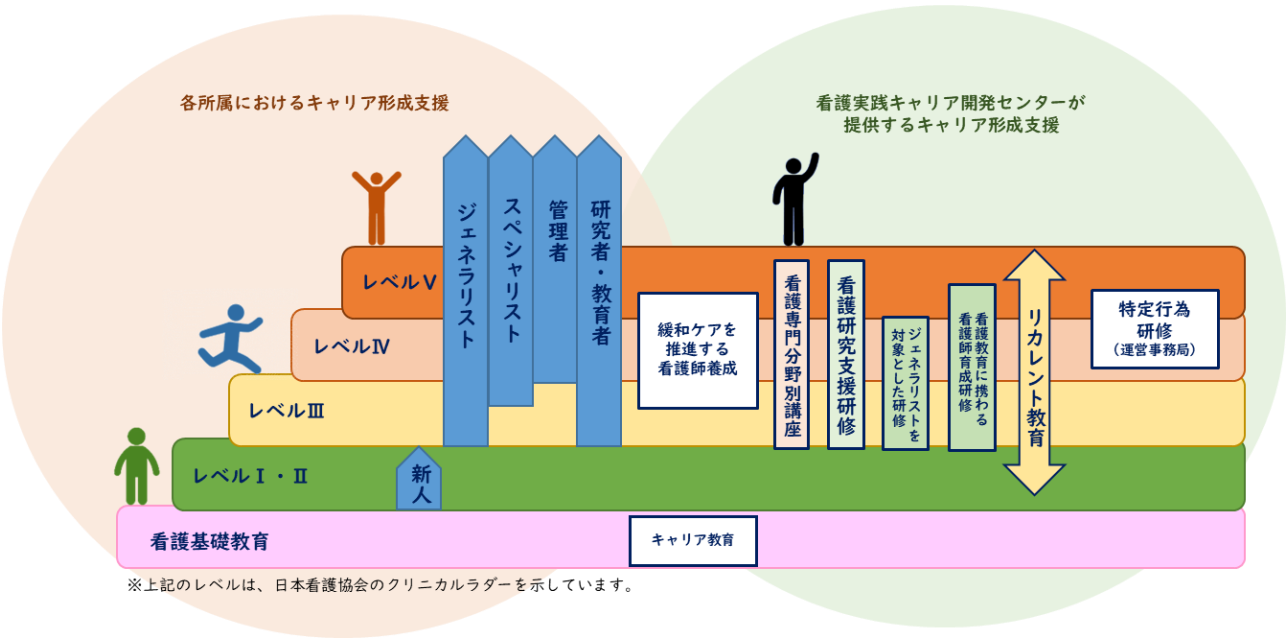


図２．看護師のキャリアパスと看護実践キャリア開発センターが展開するキャリア形成支援

理ことはじめ」をテーマに講演とワークショップを開催した。講演 30 名、ワークショップ 26 名が参加し、看護管理者のキャリア開発支援とスタッフのキャリア発達の視点から、人材育成の課題について理解を深めた。看護専門分野別講座では、34 講座が開講し、院内外あわせて 2338 名がオンデマンド動画を視聴した。今年３年目となった「臨地実習指導に携わる看護師のための支援研修」では、８名の附属病院看護師が全 4 回の講義・教員のシャドーイングに参加し、看護基礎教育における臨地実習の意義や指導者の役割、学生の特徴を踏まえた指導のあり方について学んだ。「看護研究支援研修」は、今年度より看護学科教員が質的研究・量的研究の講義、演習を行った。対面講義と演習、オンデマンドを組み合わせることにより、京都府北部地域からの参加も可能となった。

Ⅲ．キャリアセンターの今後に向けて

キャリアセンターは、2020 年度より一人前看護師教育からジェネラリスト以上を対象としたキャリアパス形成支援に方向性を転換し、スペシャリスト、管理者、教育・研究者へのキャリア形成を見据えた教育事業、個々のニーズに沿った細かいサポートを展開している。2024 年度は、令和 6 年度文部科学省「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」に採択されたことにより、Project KPUM という大型プロジェクト始動という記念すべき年となった。あわせて、2025 年度救急領域コースの新規開設に向けて、申請準備が進められた。京都府内で急性期医療に従事する看護師のレベルアップと施設間連携を目指し、クリティカルケアに特化したジェネラリスト教育に重きを置いたセンター事業の開始である。今後は、看護倫理や看護研究、専門分野別講座など、従来の事業もよりブラッシュアップし、京都府内の看護職のキャリア形成を支援するセンターとして一層地域に貢献できるよう励んでいきたい。

報告者：京都府立医科大学医学部看護学科　看護実践キャリア開発センター　毛利貴子

２．教育プログラム、開発・運営部門

1）看護学科「キャリア教育」

はじめに

看護学科「キャリア教育」は 2009 年「循環型キャリア教育」の一貫として位置づけられ、1 年生から段階的に 4 年生まで習得できる様にプログラムされている。看護職としての将来像が描けるように教育内容を精選し構成した計画となっている。

I.　キャリア教育のねらい

看護学科の学生が，①社会や職業社会への「移行期」にあたり、自らの将来・人生をしっかりと設計できるキャリア設計能力②職業生活の中で何を実現したいのか、職業に対してどういう意味づけを持つのかというキャリア・職業観の育成③自分はどのような道を歩むのかというキャリア・職業の選択力④専門職業人として何をなすべきなのかという職業専門能力などを明確にする。

生涯教育の課題をふまえて身につける能力の育成

① 夢や目標を育む（あるべき姿から生き方を考える思考力）
② 職業観を育む（職業人としての自立力）
③ 自ら考え学ぶ力を育む（個人としての学習と自立する能力）
④ 自己表現力を育む（論理的思考力やコミュニケーション能力）
⑤ 専門職業人として協調して働くための能力を育む（強調する能力）

II.　学生に対するキャリア教育

	対象学生	日時	担当	内容		
1	1 年生 「総合講義」	5 月 24 日（金） 2.3 限目	看護倫理・ 看護管理学領域 宮田	キャリア開発論 自己分析 キャリアデザイン作成	講義 演習 演習	社会人基礎力と専門職化組織におけるキャリア開発 自己理解 自己の課題の明確化と目標設定
2	2 年生 （地域看護学）	9 月 30 日（月） 5 限目	地域看護学領域 教員・卒業生	保健師の仕事	講義 交流	保健師の仕事と教育内容 保健師のやりがい
3	2 年生 （助産学）	9 月 24 日（木） 5 限目	助産看護学領域 教員・卒業生	助産師の仕事	講義 交流	助産師の仕事と教育内容 助産師のやりがい
4	3 年生 （3 年生担任 教授・副担任）	9 月 26 日（木）	看護部長 先輩看護師	病院で働くこと 部署の選び方 新人としての体験 看護師の喜び	講義 交流	病院の紹介 就職しての看護師の体験
	3 年生	9 月 26 日（木）	看護倫理・ 看護管理学領域 宮田	看護職のキャリア開発 就職活動について 自己分析：看護就業レディネス尺度 キャリアデザイン作成	講義 演習	ジェネラリスト・スペシャリストの紹介 志望動機などの書き方 自己課題の明確化 目標達成の評価と課題の再設定
5	4 年生	4 月 5 日（金） 13：00~16：00 大講義室	看護倫理・ 看護管理学領域 宮田	看護職のキャリア開発 就職活動について 自己分析：看護就業レディネス尺度	講義 演習	ジェネラリスト・スペシャリストのキャリアの紹介 志望動機などの書き方 自己の課題の明確化 課題の設定
6	4 年生 （4 年生担任 教授・副担任）	4 月 5 日（金） 10：00~12：00 大講義室	看護部長 先輩看護師	病院で働くこと 部署の選び方 新人としての体験 看護師の喜び	講義 交流	病院の紹介 就職しての看護師の体験
7	インターンシップ	希望時	学生が連絡	病院の看護ケア	体験 見学	希望病棟での見学・体験
8	個別指導と相談	希望時	担任・副担任 ゼミ担当教員	相談	相談	就職・キャリア相談 学習支援・課外活動支援

III.　評価

1.3.4 年生と担当教員（宮田）が一貫した講義を行い、シームレスなキャリア支援を実施した。講義においては、自己理解を深め、それを踏まえて自ら専門職としてのキャリアデザインを描くことにより、学生個々の目標設定が可能となった。また、領域別実習開始前の 3 年生への附属病院や先輩看護師の講義は、臨床での看護師の業務のイメージの具体化につながり、将来の自身の看護師像を描くことに有益であった。以上のことから、看護師としての職業的社会化を促進につながるキャリア教育が実施できたと考える。

京都府立医科大学医学部看護学科　看護実践キャリア開発センター　宮田千春

2）看護倫理ベーシック

1． 目的：「倫理的職場風土の構築および看護師の倫理的行動について基本的な知識を修得する」
2． テーマ：「倫理的職場風土の構築」
3． 対象：京都府内の看護職（JNA ラダーのすべてのレベル）
4． 開催日時：2024 年 12 月 13 日（金）13 時～
5． 会場：京都府立医科大学看護学舎第一講義室
6． タイムスケジュール

13:00～14:00	【第 1 部講演】「倫理的職場風土の構築」 京都府立医科大学　大学院保健看護学研究科 看護倫理・看護管理学　教授　宮田千春
14:10～15:10	【第 2 部ワークショップ】「倫理的な職場環境を目指して・・」 ワークショップは、臨床現場での事例（悩みや取組）に関する情報共有から、倫理的職場風土の構築のための看護管理者・スタッフ其々の役割について考える意見交流の場とした。 6 グループに分け、ディスカッションをした。 ＜個人ワーク＞ 1.「看護師の倫理的行動尺度」を基に自己評価 2.「看護組織の倫理風土尺度」を基に自部署の評価 ＜ディスカッション＞ 1.の評価を基に自己の倫理的感受性についての自己開示 2.についての職場風土の改善のために何が必要なのかを考える ブース A・B　ファシリテーター：看護実践キャリア開発センター　師長　濵崎　一美 ブース C・D　ファシリテーター：副センター長　越智　幾世 ブース E・F　ファシリテーター：京都府立医科大学　大学院保健看護学研究科　宮田　千春
15:30~	閉会挨拶　：京都府立医科大学　医学部看護学科　老年・在宅看護学領域　教授　毛利貴子

7． 参加状況：参加者：32 名（講演 32 名　ワークショップ 29 名）
8． アンケート結果：回答者：26 名（回答率　81%）

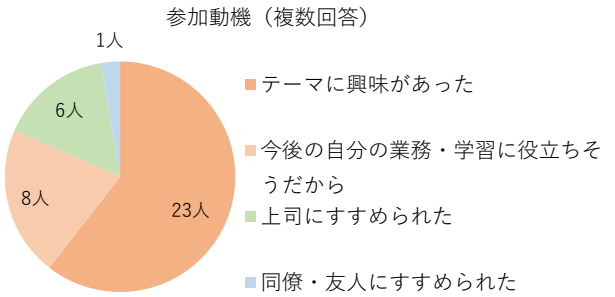
1） 所属：アンケート回答者の内訳は、他施設の医療機関 19 人（73%）、京都府立医科大学附属病院 6 人（23%）であった。

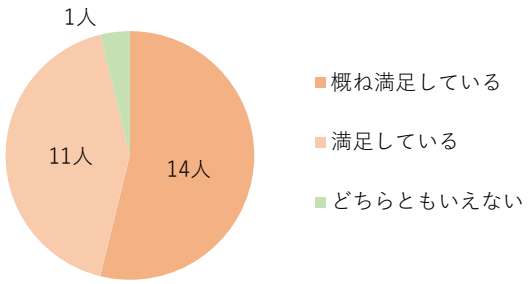
2） 職種：看護師 26 人（100%）

3） 参加動機：「テーマに興味があった」23 人（60.2%）、次いで、「今後の自分の業務・学習に役立ちそうだから 8 人(21%)であった。

4） 研修全体の満足度について

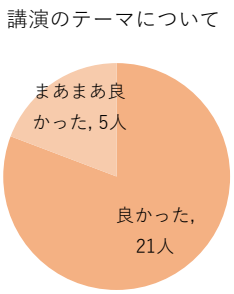
「満足している」「概ね満足している」を合わせると 96%を超えた。

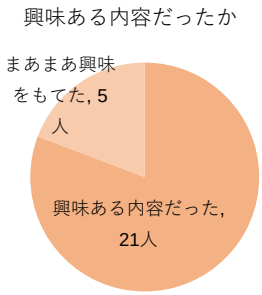




5） 講演会について

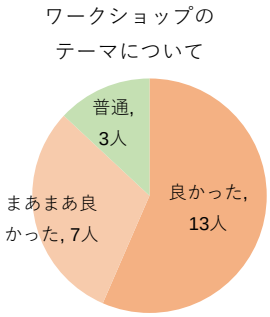
講演テーマの選定では「良かった」が 80.7%であり、内容に関しては、「興味ある内容だった」が 80.7%、講演時間についても「ちょうどよかった」が 84.6%と高評価であった。
また、今後に活かせるかについては、「そう思う」16 人「概ねそう思う」が 9 人で 96.1%と高値であった。

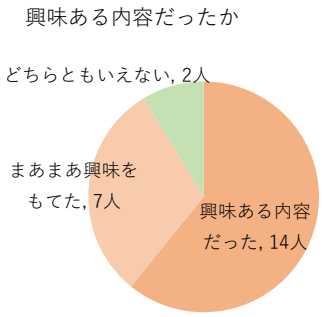




6） ワークショップについて

ワークショップのテーマが「良かった」が 56.5%であった。
ワークショップについても、「興味ある内容だった」が 60.8%であった。





7） 自由記載

・患者さんベースの講義が多い中職場風土という、1 番大切なテーマでした。人手不足の中で、やはりみんなに知って欲しいと思いました。伝えられるかな。

・基本的なところからの講義もあり、看護師倫理についても考えることができました。今回参加した動機は、どのように考え行動していくことが風土づくりに必要なのか、何が問題となるのか、では問題はどこから見えてくるのかなどが勉強したくて参加しました。とりあえずは個々人と腹を割って話ができるよう関わっていきたいと思います。来年度や、他の研修にも参加していきたいと思います。ありがとうございました。

・貴重な機会をありがとうございました！講演のみの参加でしたが、機会があればまたワークショップまで参加したいと感じた研修でした！

・自分の価値観、特徴をまず知り、組織文化を作る要因になっていることを認識することが大切であることが明確になった。自病棟、病院内で今後どのように倫理的な感性を持ったスタッフを増やすか、モヤっとした時にカンファレンスを開催して、まずは増やしていくところから頑張ります。

・ワークショップでグループメンバーとの話が軌道に乗り、意見交換がされているタイミングで用紙の交換、講師やファシリテーターの話が入るということがたびたびあり、意見交換が中断されるという場面が多かったのが残念でした。

・自分の役割を考えれば考えるほど、上司、病院組織の変革の必要性を感じ、でも、なかなか手強くて…という悩みやジレンマを毎日抱えながら、多くないスタッフのため、リーダー業務、夜勤をこなす現状に疲れています。研修での自施設以外の方々と交わりは、自分がやっていることが間違っていないことと、こんなことをやってみようということの再認識の場であり、受けてよかったというのが、率直な感想です。ありがとうございました。

・グループの方の話をもっと聞きたいと思ったのでワークショップの時間がもう少し長くあればよかったなと感じました。

・さまざまな経験年数、立場の方から話を聞く機会で良かったです。倫理はこの先も仕事を続けていく上で大切なことです。悩んでいたことも、間違ってないんだなと受け止めることができ、研修に参加させていただいてとても良かったと思います。

・看護組織の倫理風土について、自己チェックした後ディスカッションができたので、多施設の方と共有できたと思います。倫理的な感性の高い方が集まっておられましたので、会話が弾みました。組織文化については、また改めてご講義が聞けると良いと思いました。

・グループワークに入るまでの自己課題の評価がわかりづらく、確認に時間がかかりました。添付資料で評価指標があれば、グループワークがもっと効率よくできた様に思います。

・次回は組織の改善、リーダーシップなどに関連したテーマがよいです。

・リーダーシップや若手指導について興味がありますので、今後の講義の題材として検討していただけると幸いです。

９．今年度の課題と今後の展望

○ 課題：研修内容については高評価であったが、グループワークの導入・使用する評価表の説明およびファシリテートに改善の必要性がある。

展望：グループワークの導入時の目的や進行要領、使用する資料・評価表などを丁寧な説明を実施する。ファシリテーター間での事前打ち合わせにおいて、ファシリテート時の注意点や認識の統一を図り、円滑かつ有益なワークショップを目指す。

○ 課題：今後の研修として希望するテーマへの意見があった。（リーダーシップや教育）

展望：次年度のテーマについては、今回の看護倫理ベーシックをより深める研修とするか他のテーマをとするかは、臨床の看護職のニーズを踏まえ、看護の質の向上に向けたテーマを検討していく。

報告者　京都府立医科大学医学部看護学科　看護実践キャリア開発センター　宮田千春

3）臨地実習指導に携わる看護師のための支援研修

Ⅰ．研修の概要

対象：①JNA クリニカルラダーレベルⅢ以上の看護師（ジェネラリストⅠ以上、キャリア支援委員会経験者）

②附属病院において看護学実習指導に従事する看護師

目的：看護基礎教育における臨地実習の意義、目的、実習指導者としての役割を理解し、効果的な実習指導を行うために必要な知識・技術を学ぶ。

目標：①臨地実習指導の基盤となる看護基礎教育の基本的知識を習得する。

②臨地実習の展開方法と指導者の役割について知る。

③対象となる学生像を踏まえた上で、効果的な指導方法について学習する。

④各領域の実習の特徴、押さえるべき内容について理解する。

⑤臨地実習の場に参加し、患者理解に関する教授方法について学ぶ。

⑥受講生自身の臨地実習指導のレディネス、コンピテンシー、課題について検討し、実習指導者像を具体化する。

方法：講義、演習（臨地実習指導教員へのシャドーイング）、グループワーク

評価：アンケート①（研修前・全研修修了後）看護学生の実習指導や教育において感じること、大切にしていること、実習指導上の困難感尺度 20 項目（図１）

アンケート②（各回終了後）研修内容について、各講義内容についての理解、満足度、意見や要望など

レポート（全研修終了後）テーマ「看護基礎教育に求められる臨地実習指導者のあり方とは-」

Ⅱ．研修の実際

内容とスケジュール：次ページ表１参照

参加者：８名（キャリアラダーBⅢ２名、J５名、S１名）。

A7、D3、D6、D7、子ども東、子ども西、C5、NICU から参加。

担当者

講義：吉岡さおり教授、郷良淳子教授、宮田千春教授、滝下幸栄准教授、原田清美准教授、占部美恵講師、山本容子講師、内藤知佐子氏（愛媛大学）

演習：占部美恵講師、佐伯良子講師、山口未久講師、山本裕子学内講師、山田親代学内講師、中口尚始助教、原田幸恵助教、西ケ峰晴奈助教、田中真紀副看護部長、神澤暁子総括看護師長

表 1 研修会の日程と内容

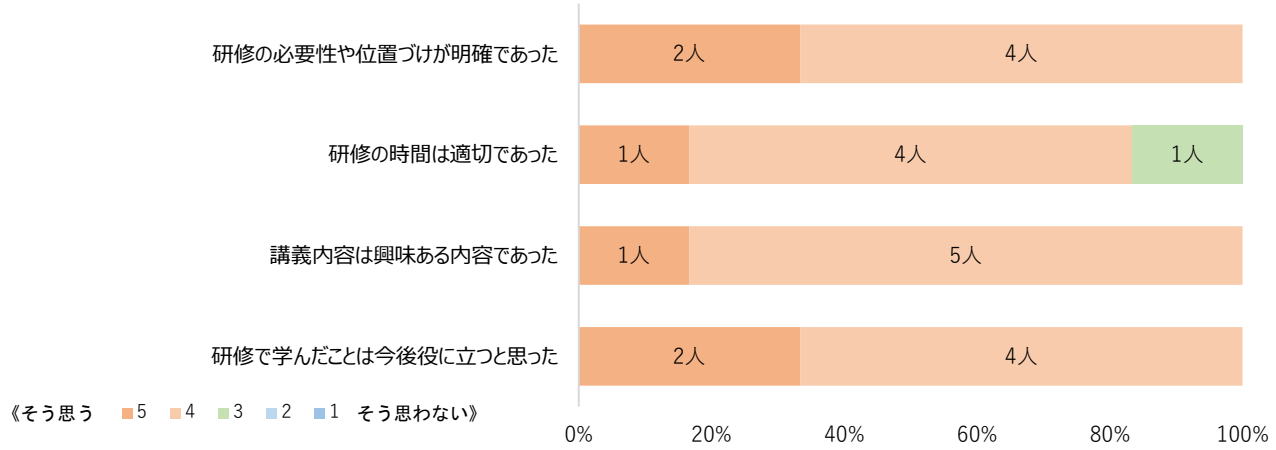
開催日	時間	内容	講師	会場
7 月 17 日 （水）	13:00 ～ 13:10	開会のあいさつ 研修会の概要説明	センター長 看護学科 教授 毛利 貴子	看護学舎 第 1 会議室
	13:10 ～ 14:10	看護基礎教育の現状 新指定規則におけるカリキュラムの概要 実習の位置づけ	副センター長 看護学科 准教授 滝下 幸栄	
	14:20 ～ 15:10	実習指導の概要 臨地実習における実習指導者の役割 実習指導の過程・方法（教員との協働）	看護学科長 看護学科 教授 吉岡 さおり	
	15:20 ～ 16:20	実習指導の対象となる学生の特徴 (世代論など)	看護学科 教授 郷良 淳子	
9 月 11 日 （水）	13:00 ～ 14:30	看護論 ・人間の健康や看護の考え方、看護実践の基盤となる倫理について学び、自己の看護観の明確化 ・実習における倫理的問題について看護者としてのスタンスや解決方法 実習指導方法論（実習評価のプロセス） 臨地実習における評価の意義、目的、方法 医療と看護の動向 医療制度の改革を含め医療の現状と看護に及ぼす影響、今後の看護師基礎教育課程の展望	看護学科 教授 宮田 千春	看護学舎 第 1 会議室
	14:40 ～ 16:00	実習でおさえたい学習内容 （各 20 分） 基礎看護学 成人看護学 精神看護学 小児看護学	基礎看護学：山本容子 成人看護学：吉岡さおり 精神看護学：占部美恵 小児看護学：原田清美	
11 月 14 日 （木）	13:00 ～ 15:30	講演：看護基礎教育において臨地実習指導者に求められるスキルと資質	愛媛大学 内藤 知佐子	オンライン ライブ配信
12 月 2 日 （月）	8:00 ～ 17:00	演習： ① 臨床現場での学習（シャドーイング） 臨地実習の場に出向き、「患者理解」を目的とした教員の個別指導場面に同席し、教授方法について学ぶ。 ② グループワーク 学び（教授方法、学生の反応など)についてグループディスカッションし、共有する。 ③ 学習内容、自己の課題についてレポートにまとめる。	センター長 毛利 貴子 副センター長 越智 幾世 田中 真紀 神澤 暁子 ファシリテーター 看護学科助教 （学内講師）	シャドーイング C4 、C6 、D3 、A7、NICU、子ども西、子ども東 グループワーク 看護学舎 第 4 講義室
		まとめ	毛利貴子	

Ⅲ．研修における受講生の評価

第１回：看護基礎教育の現状、実習指導の概要、実習指導の対象となる学生の特徴についての講義

・受講者８名、アンケート回答者６名（回収率 75%）

・研修内容について



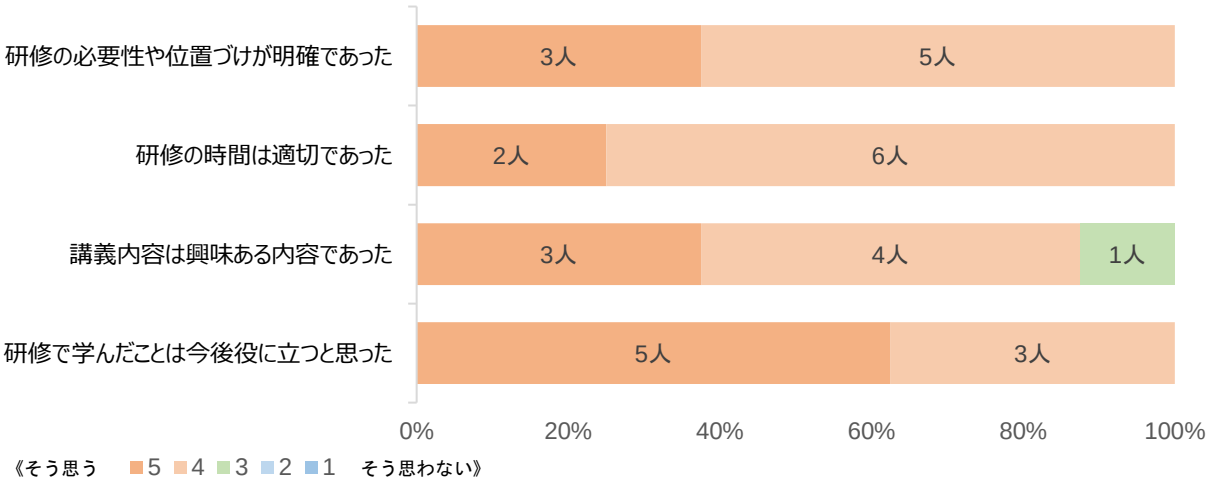
・自由記述：○大変興味深かったです。今後、私も教員の方とともに実習生の指導にあたりたいと思いました。

○この 3 年間連続でプリセプターをしたので、新人の傾向は分かったつもりでいたのですが、改めて特徴や対応を聞き、今後の新人看護師への教育にも活かしていきたいと思います。学生をメインで指導するのは初めてなので、自分の偏見をなくして学生を育てる目線を養っていけるように努力していきたいと思います。教員の先生方の体験談の話の共通点として今時の子はどこか一歩引いている、必要最低限をすれば良いと言う考え方の学生や新人は増えているなぁと感じています。ただ一緒に働いていく中でチームとして巻き込んで一緒に考える事はハラスメントになるのか…と言う迷いもあります。正解がない看護だからこそ自分の思いを伝えるのは難しいですが、押し付けにならないよう、効果的な指導方法をこの研修で学んでいきたいと思います。

第２回前半：看護論、実習指導方法論、医療と看護の動向　後半：実習でおさえたい学習内容（領域担当者より）

・受講者８名、アンケート回答者８名（回収率 100%）

・研修内容について



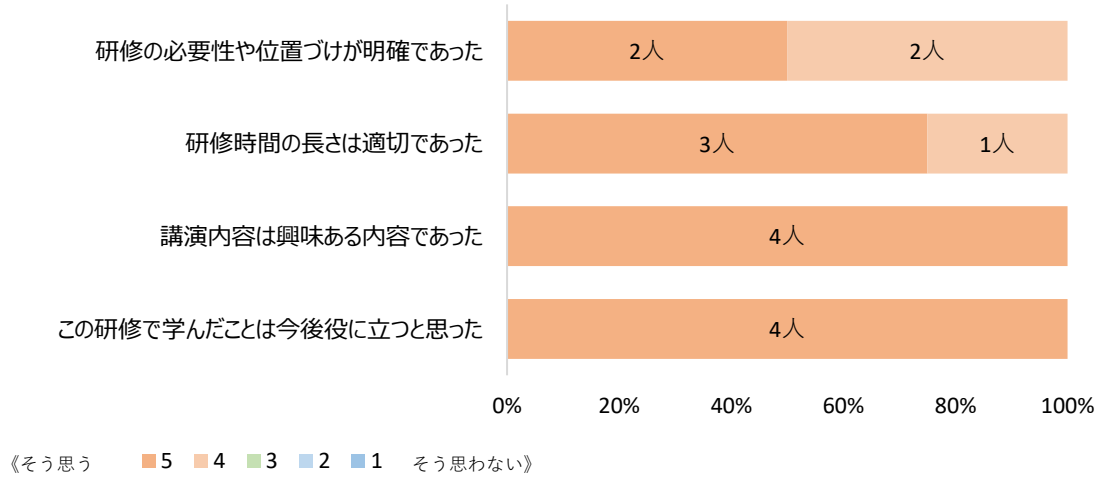
第３回：看護基礎教育における臨地実習指導者に求められるスキルと資質

・受講者８名、アンケート回答者４名（回収率 50%）

・研修内容について

・自由記述：○講義内容はとても面白くて、研修生にも飽きさせないように話してくださるのがとても良かったです。現代の教育の流れとして、新人に寄りそい、話に耳を傾けるなど指導者に色々求められがちだが、なぜそのような指導が必要なのか理由を聞く事で納得できた。指導者側に寄り添う言葉かけもすごくありがたかったです。

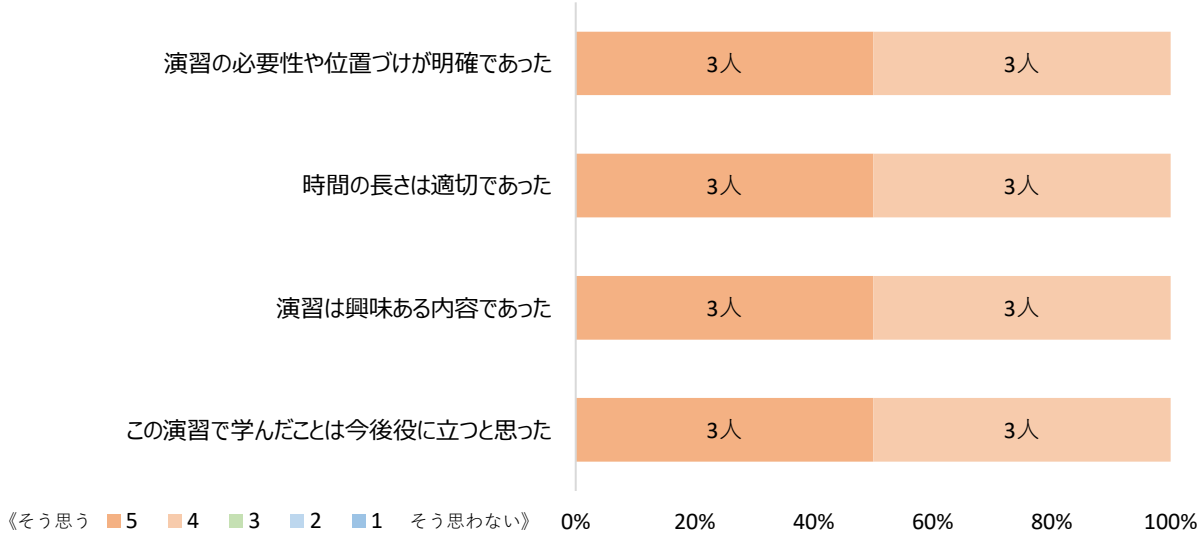
○指導者は学生にとっての心理的安全性の担保できるよう病棟の環境を整えていく必要があると学びました。



第４回：臨床指導のシャドーイングとグループワーク

・受講者８名、アンケート回答者６名（回収率 75%）

・研修内容について



・自由記述：学生と成人患者が接する場面が少なかったため、そのような場面での教員の対応を見てみたいと感じました。

実習指導上の困難感：研修前と研修後に調査を行った（図１）。「学生の学習ニーズを理解できない」「実習目標の到達レベルを理解できない」など、研修後に「非常にそう思う」人数がゼロになった項目があるが、「学生の個人差に応じた対応ができない」「学生の記録を指導するのが難しい」など「そう思う」人数が増加した項目もみられた。

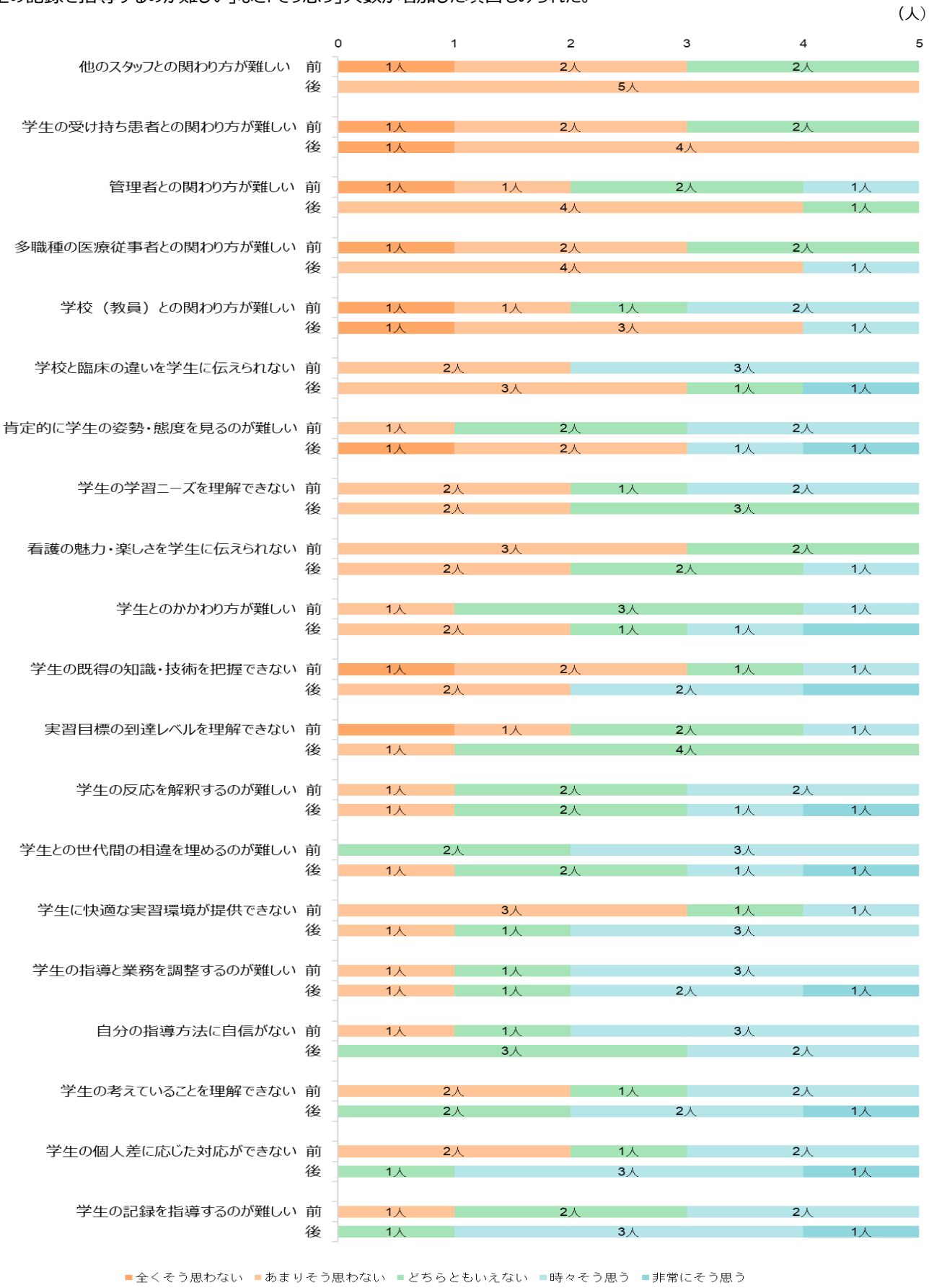


図１．実習指導上の困難感　研修前後の比較（人数）n=5

Ⅳ．今後の課題

・各回の研修後アンケートにおいて、回収率が低い回がみられた。Google form を用いた調査を行っているが、研修修了後すぐに勤務に戻るとスマートフォン・パソコンからアンケートにアクセスすることに手間がかかり、そのまま失念してしまうと考えられる。対面で講義や演習をした場合は、その場で直接記載してもらう方法で研修評価を行うことを次年度は検討したい。

・臨地実習指導のシャドーイングにおいて、病棟で患者と学生が接する場面を見ることが少なかったという意見があった。教員と事前にその日の実習内容を打ち合わせ、実際の学生のケア場面や指導場面に同行できるように調整する必要がある。また、今年度、受講生は看護学舎で学生と教員が集合する時からシャドーイングとして参加することを計画した。実習直前の学生の様子、教員が学生に行っている当日の実習目標や行動計画についての指導、声かけや配慮の実際を学ぶことができていい気づきがあったとの評価を得た。

報告者：京都府立医科大学医学部看護学科　看護実践キャリア開発センター　毛利貴子

4）看護専門分野別講座

I.　概要

附属病院のCN/CNS（専門看護師/認定看護師）などのスペシャリスト、医師、看護学科教員による質の高い講義を、時間や場所にとらわれずに受講できるオンデマンド形式で提供することで、個別のペースで学習を進め、継続的な学習を支援する。

II.　目的

看護師のキャリア支援としてスペシャリストによる専門性の高い講義を、府内および附属病院関連の医療施設に提供することにより、地域における看護実践能力の質の向上を目指す。また、スペシャリストの教育能力の向上をはかる機会とする。

III.　方法

配信期間:原則として１か月間とするが、発信者の希望により延長可能とする。

配信頻度:毎月 2～5 講座。

配信方法:オンライン経由。学内の Google Workspace を使用。附属病院内は電子カルテコンテンツ Ub point でも配信。

IV.　結果

① 今年度は 9 分野 34 講座の配信を行った。うち 2 分野 4 講座は、附属病院内限定の配信であった。

② のべ参加者数は、2338 名（2023 年度 35 講座 3978 名）であった。（表 1 参照）

③ 内訳は、学内が附属病院 703 名（2023 年度 1320 名）、北部医療センター44 名（63 名）、学外 1591 名（2595 名）であり、学外の医療施設からの視聴が 70%を占めた。（図 1 参照）

④ 摂食嚥下障害看護講座と小児クリティカルケア講座で、院内のみのであったが複数月（3～6 か月）にまたがる配信を行い、視聴者数の増加につながった。

⑤ 演習は、摂食嚥下障害看護の 1 講座で実施し、参加者は 2 名であった。

⑥ 各講義の評価として視聴後アンケートを実施している。各講義の満足度評価の数値指標として 5 段階で総合評価を行っている。最高点の 5 点の割合が 45%で最も多く、次いで 4 点が 42%であり（図 3）であり、平均 4.3 点と高い評価が得られている。

⑦ アンケートの回答率は 35.6～89.2%と講座により差が大きいが、平均 57.6%と低い現状がある。

V.　今年度の課題と今後の展望

受講者数は、講義によって差はあるものの、年度後期にかけて減少の傾向にあった（図 1 参照）。また、受講者の看護師経験年数が 21 年目以上との回答が約半数を占めており、本来ターゲットとなる 3 年目までの看護師の受講者数が少ない現状がある。

オンデマンド配信では、自己のペースで学習を進められる利点があるが、アンケートでは、一回の講義時間が長いとの意見もあり、臨床現場の多忙さや、若い世代のニーズをうけて、講義時間を短くする、配信期間を延長するなど、より気軽に視聴できる構成等の検討の余地がある。また、同テーマ・タイトルの場合は経年的に視聴者数が減少する傾向にあり、講義担当者へ内容を刷新するようフィードバックを行う。

訪問看護ステーションや看護師数の少ない医療施設にとっては、本講座は貴重な自己学習ツールになっており、継続が望ましい。今後は、学習ツールとしての質の担保、また地域のニーズにも応えられるコンテンツを提供できるよう調整を図っていく必要がある。そのためにもアンケートの回収率が上昇するよう改善策を検討する。

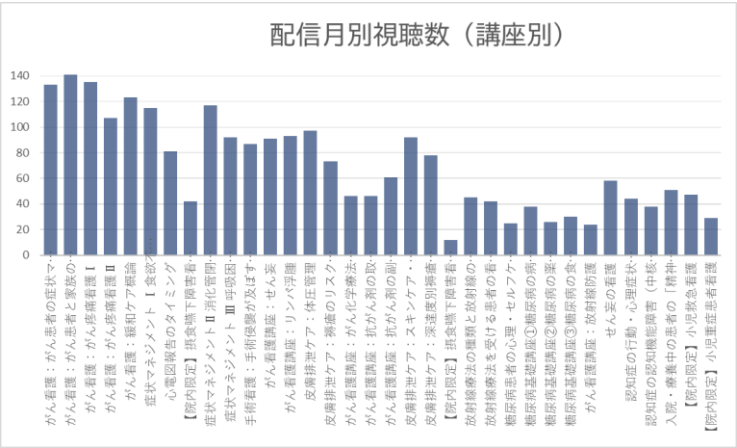


図１　配信月別視聴数

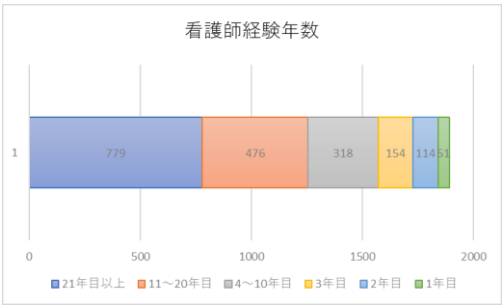


図２　視聴者の看護師経験年数

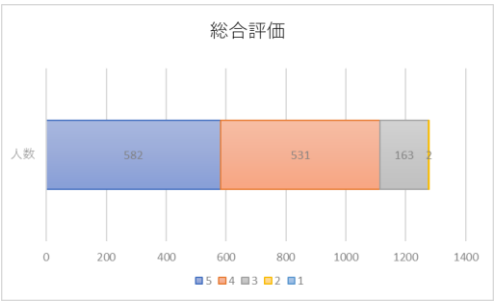


図３　講義の総合評価結果

表１　2024 年度　看護専門分野別講座　受講者数

		院内			院外			
		附属病院	北部医療センター	Ubポイント	病院	訪問看護	その他	総数
5月	がん看護：がん患者の症状マネジメントの考え方を深め看護に生かす	10	2	8	85	27	1	133
	がん看護：がん患者と家族の理解を深め看護に生かす	10	2	12	90	26	1	141
6月	がん看護：がん疼痛看護Ⅰ	10	0	10	86	29	0	135
	がん看護：がん疼痛看護Ⅱ	7	0	7	71	22	0	107
7月	がん看護：緩和ケア概論	9	0	9	83	20	2	123
	症状マネジメント　Ⅰ食欲不振・悪心・嘔吐・便秘	10	0	4	77	22	2	115
	心電図報告のタイミング	14	0	7	50	9	1	81
	【院内限定】摂食嚥下障害看護：摂食嚥下のメカニズムと摂食姿勢の調整	10		32				42
8月	症状マネジメントⅡ消化管閉塞・腹部膨満	19	2	15	62	19	0	117
	症状マネジメント　Ⅲ 呼吸困難・全身倦怠感	4	2	9	57	20	0	92
	手術看護：手術侵襲が及ぼす生体への影響について	16	2	13	53	3	0	87
9月	がん看護講座：せん妄	11	3	10	52	14	1	91
	がん看護講座：リンパ浮腫	9	2	10	44	27	1	93
	皮膚排泄ケア：体圧管理	12	2	27	38	17	1	97
	皮膚排泄ケア：褥瘡のリスクアセスメント	13	2	17	23	17	1	73
10月	がん看護講座：がん化学療法の概論～大腸がんを中心に～	7	2	8	23	5	1	46
	がん看護講座：抗がん剤の取り扱い　曝露対策	7	2	9	23	5	0	46
	がん看護講座：抗がん剤の副作用～症状マネジメントとセルフケア支援、便秘について～	10	3	10	29	8	1	61
	皮膚排泄ケア：スキンケア・スキンテア	10	2	18	47	14	1	92
	皮膚排泄ケア：深達度別褥瘡管理	10	1	11	43	13	0	78
	【院内限定】摂食嚥下障害看護：摂食機能療法について	8		4				12
11月	放射線療法の種類と放射線の作用	7	3	11	13	10	1	45
	放射線療法を受ける患者の看護・有害事象の予防とケア	7	3	11	13	7	1	42
12月	糖尿病患者の心理・セルフケア支援	6	1	1	4	13	0	25
	糖尿病基礎講座①糖尿病の病態・コントロールの方法	6	1	7	8	16	0	38
	糖尿病基礎講座②糖尿病の薬物療法	5	1	5	4	11	0	26
	糖尿病基礎講座③糖尿病の食事・運動療法	6	1	3	5	15	0	30
	がん看護講座：放射線防護	3	1	8	8	3	1	24
1月	せん妄の看護	14	1	18	17	8	0	58
	認知症の行動・心理症状（BPSD）の理解とアセスメント	10	1	12	10	11	0	44
	認知症の認知機能障害（中核症状）の理解とアセスメント	9	1	11	9	8	0	38
	入院・療養中の患者の「精神症状」への対応	12	1	10	14	14	0	51
	【院内限定】小児救急看護	23		24				47
	【院内限定】小児重症患者看護	17		12				29
	合計	341	44	383	1141	433	17	2359

報告者：京都府立医科大学附属病院　看護実践キャリア開発センター　濵崎一美

5）看護研究支援研修

Ⅰ．研修の概要

対象：①JNA クリニカルラダーレベルⅢ以上の看護師

②Excel の基本的操作ができる方（定員 15 名）

目的：看護研究の計画立案、データ収集、分析、考察、論文執筆を行うために必要な知識・技術を学ぶ。

方法：講義、演習、オンデマンド

評価：各回終了後のアンケートおよび全終了後のアンケート

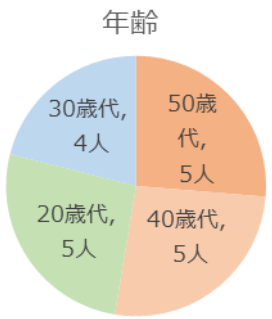
講義内容と目標、形式、担当者内容とスケジュール：下表参照

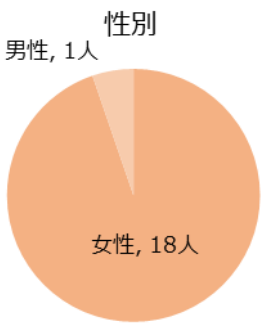
日時		講義・演習内容	目標	形式	担当者
第1回	6月19日 （水） 13:00-17:00	1.看護研究の意義と目的 2.リサーチクエスチョンと概念枠組み 3.研究デザインと研究計画書 4.文献の検索方法	・看護研究の意義・目的を理解し、看護実践における課題をリサーチクエスチョンとして言語化することができる ・研究計画書の内容および作成方法を理解することができる ・データベースを用いた文献検索を実施することができる （宿題：量的研究論文を読む）	講義	毛利貴子 図書館司書
第2回	7月10日 （水） 9:00-12:00	1.量的研究の特徴と目的 2.統計解析について 3.質問紙の作成方法 4.データのExcel入力方法	量的研究の特徴をふまえ、データ収集、分析方法を理解することができる	講義	毛利貴子
	13:00-17:00	1.データのSPSS入力方法 2.SPSSによるデータ分析 3.結果の解釈	数量データの分析方法を学び、結果を解釈することができる （宿題：質的研究論文を読む）	演習	毛利貴子 越智幾世他
第3回	9月18日 （水） 9:00-12:00	1.質的研究の特徴と種類 2.質的研究のデータ分析	質的研究の特徴をふまえ、データ収集、分析方法を理解することができる	講義	伊藤尚子
	13:00-17:00	1.質的データの分析方法 2.概念図の作成 3.結果の発表	質的データの分析方法を学び、抽象化や統合することができる	演習	伊藤尚子 毛利貴子 越智幾世他
第4回	9月18日～ 30日 公開予定	1.学会発表の方法 2.抄録作成のポイント 3.プレゼンテーションのコツ 4.パワーポイント・ポスター作成	・抄録・論文の作成方法を理解することができる ・効果的なプレゼンテーションの方法を理解することができる	オンライン （オンデマンド）	毛利貴子

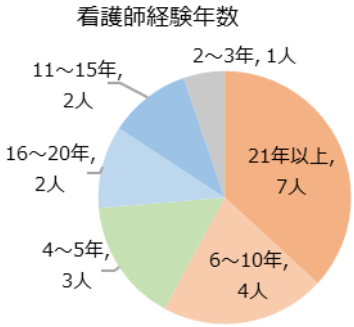
Ⅱ．各回の受講状況と評価

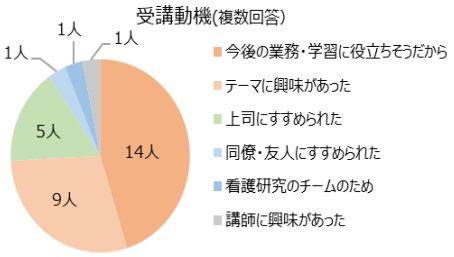
第 1 回　2024 年 6 月 19 日（水）「看護研究の意義と目的」毛利貴子/「文献検索演習」図書館司書

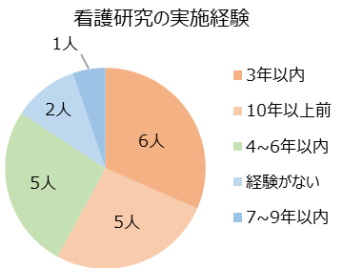
受講者：19 名（回収率 100%）

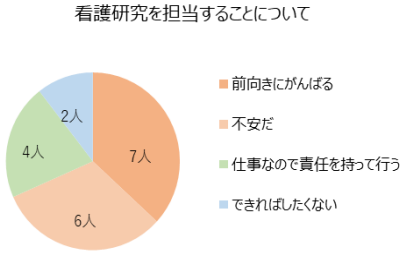




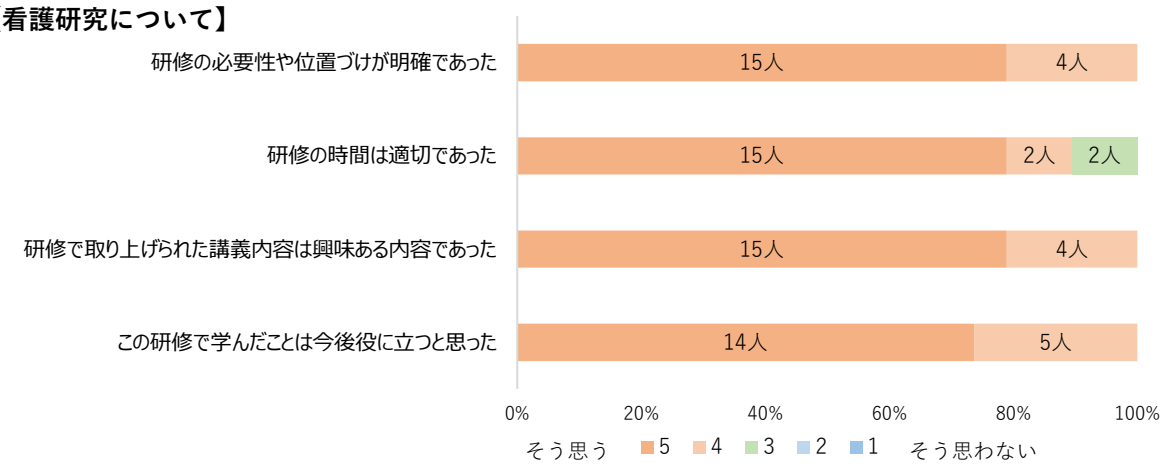




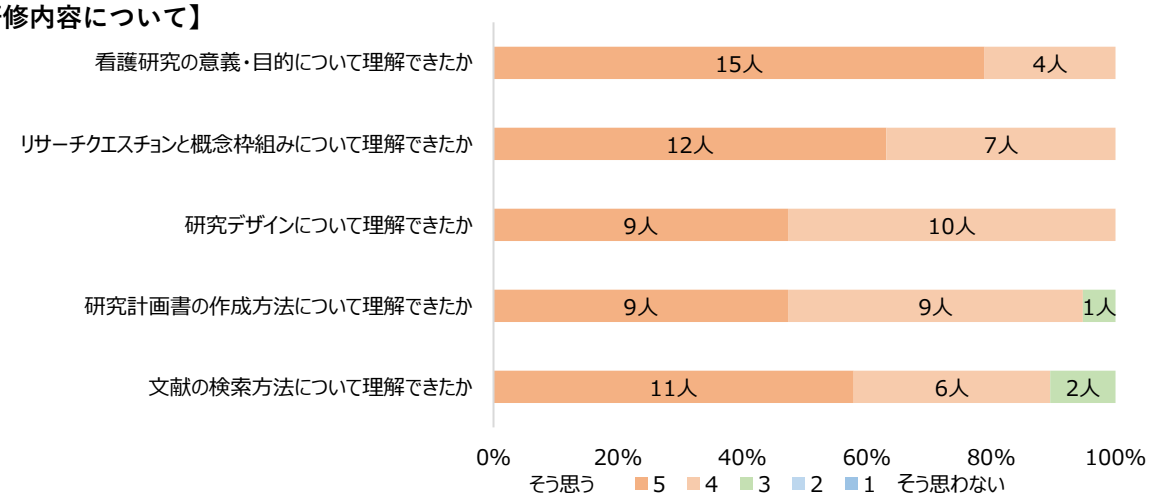


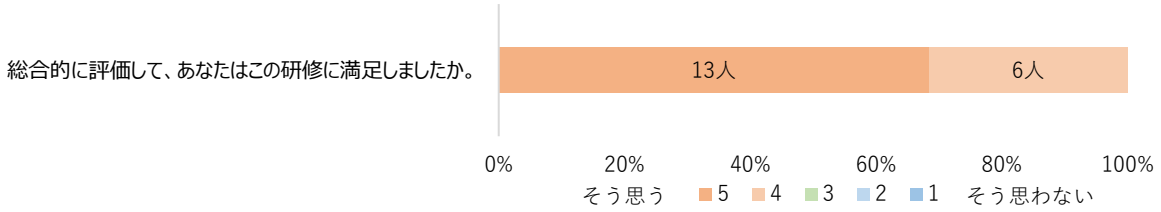


【看護研究について】



【研修内容について】





自由記述より：○文献検索方法や論文の書き方など１から学ぶことで今後の看護研究の関わりが良いものにできそうと感じました。

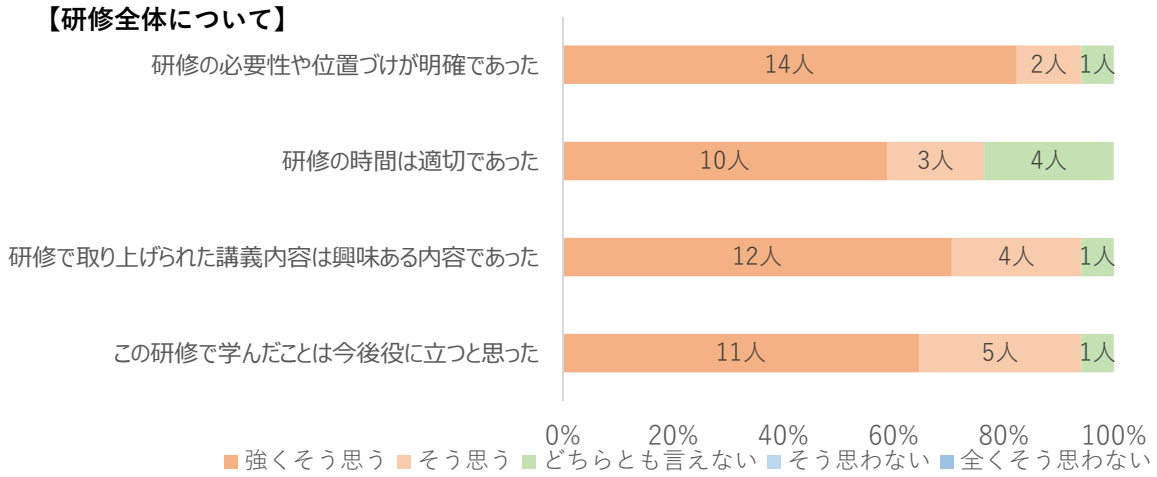
○研究計画書の作成方法についても具体的にイメージすることができ、不安が軽減しました。今後に活かそうと思います。

○大学の卒論以来だったので基本的なことを聞くことができてよかったです。文献検索にも困っていたので知れてよかったです。

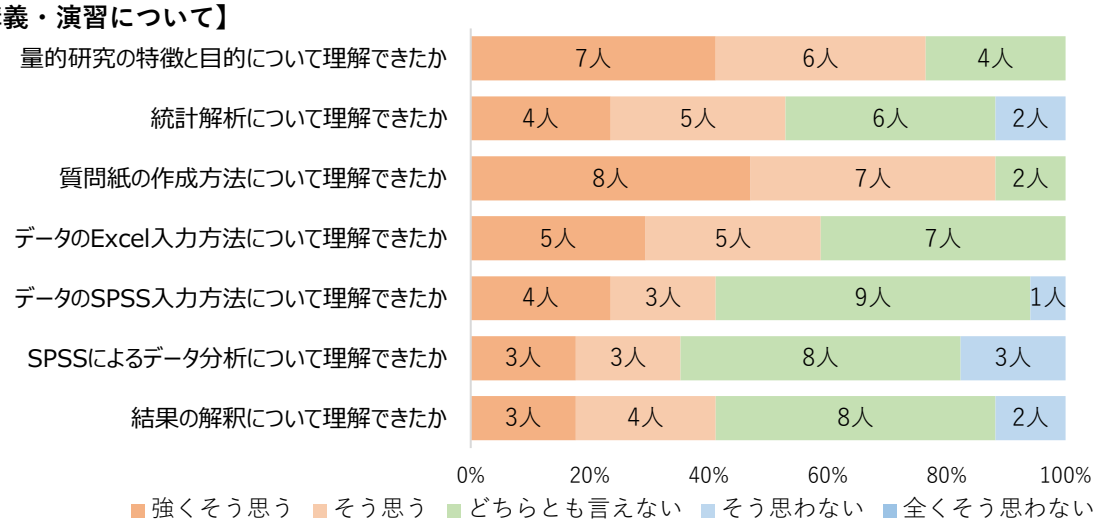
第 2 回 2024 年 7 月 10 日（水）「量的研究の特徴」毛利貴子/「SPSS を用いた演習」毛利貴子他

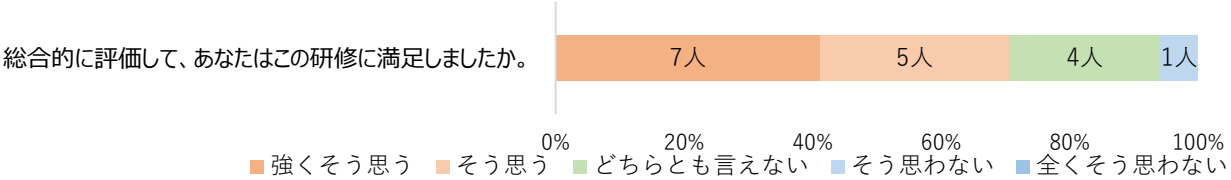
受講者：午前 18 名午後 17 名（回収率 95%）

【研修全体について】



【講義・演習について】





自由記述より：○量的研究の内容は難しかった。看護研究では質的研究を行うことが多く、なかなか使うことはないかもしれないがとても勉強になった。

○統計の理解が難しかった。研修の演習では使うデータの導きがあったが、自部署では自分で集計から導き出さないといけないので自信がない。

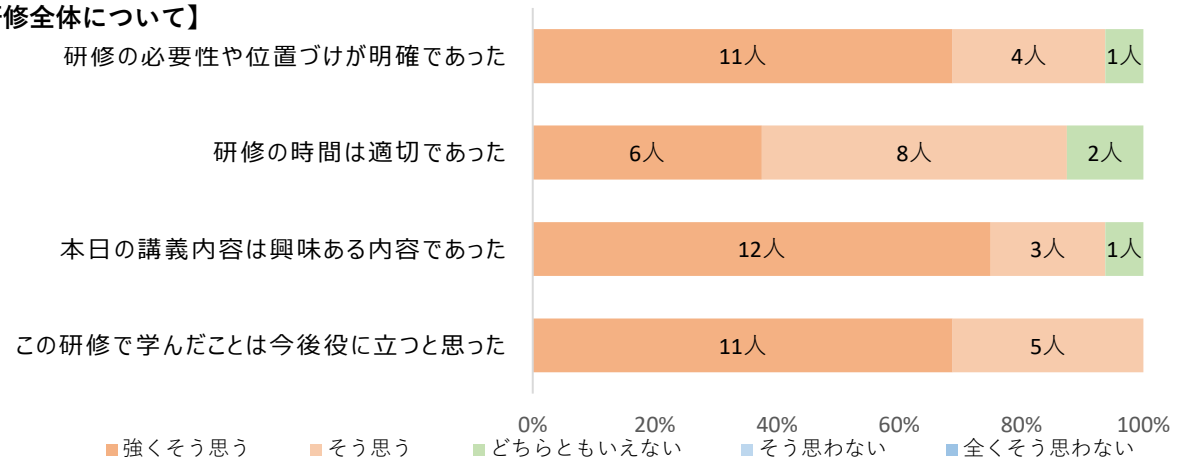
○事例を通して SPSS を操作する事でよりわかりやすかったが、もう少しゆっくりとより具体的な表の作成などできれば良かった。

○今まで曖昧だった検定の選定方法や実際の分析の方法について理解することができた。

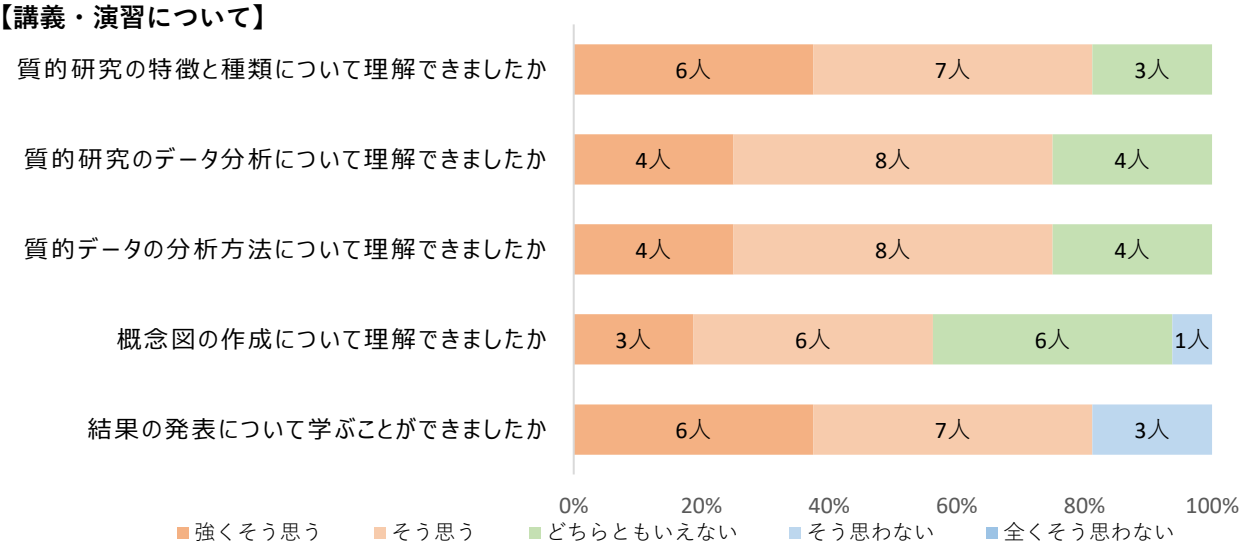
第３回 2024 年９月 18 日（水）「質的研究の特徴」伊藤尚子/「質的データの分析方法」伊藤尚子他

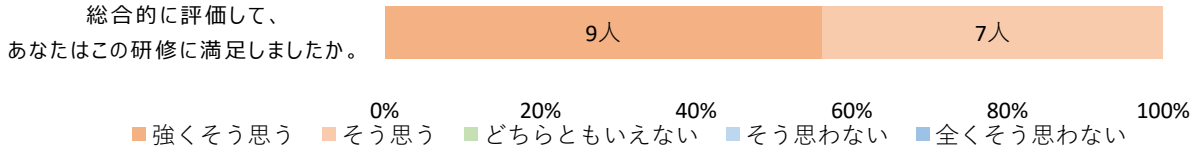
受講者：午前 19 名午後 19 名（回収率 84%）

【研修全体について】



【講義・演習について】





自由記述より：○看護パフォーマンスのボトムアップはもちろんこういった多種多様な視点をフィードバックすることで個々人の看護観にも深みがますので質的研究は素晴らしいなと思った。

○実際の分析を大勢の人とすると、様々な捉え方があると実感した。質的研究の良さを深めるためにも、スーパーバイズの意見や様々な人の意見を取り入れることが重要だと学んだ。

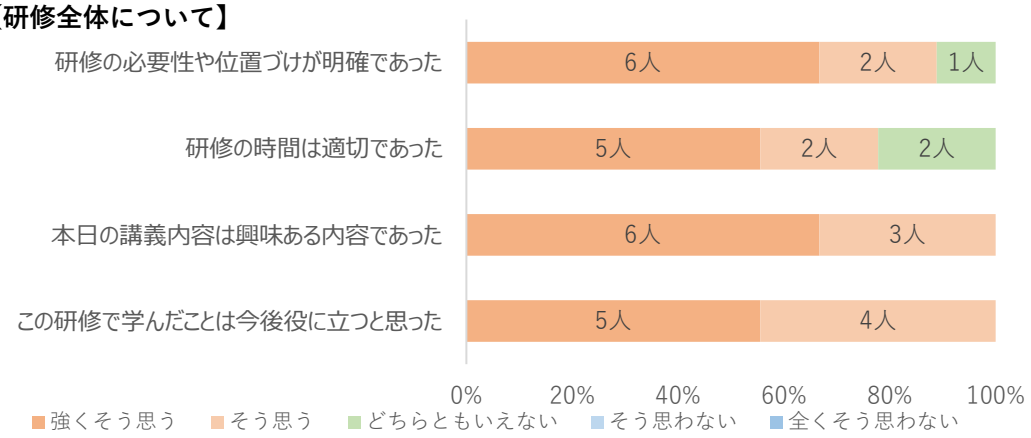
○インタビュー調査についての講義も聞きたかった。質的研究って奥深いんだなあと思った。

○グループワークが効果的であり学びが深まった。

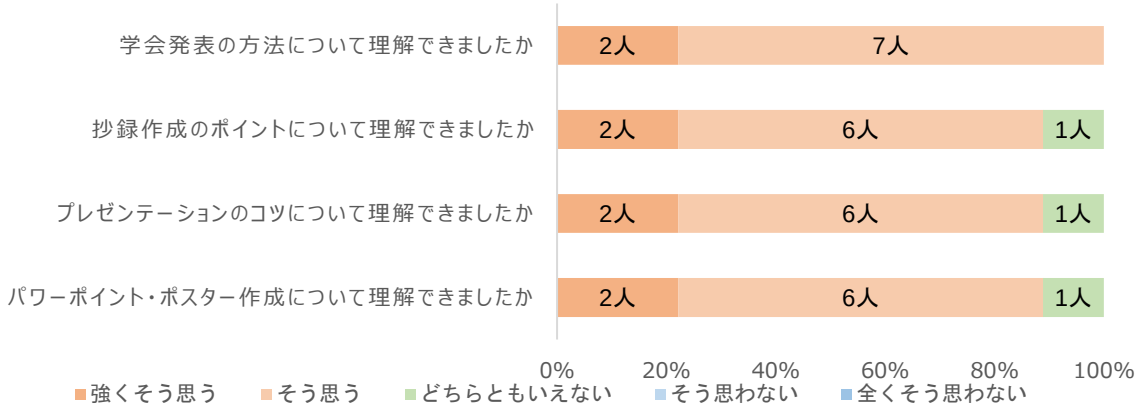
第４回　オンデマンド「学会発表の方法、抄録作成のポイント他」毛利貴子（配信期間：2024 年 9 月 18 日～9 月 30 日）

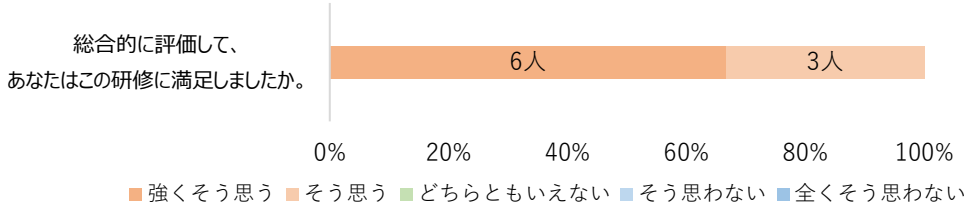
受講者：19 名（回収率 48%）

【研修全体について】



【講義・演習について】





自由記述より：○各回のテーマに沿って、要点をわかりやすく説明してくださったので、より理解が深められた。

○とても理解しやすかった。もうすぐ院内発表があるため、参考にできそうだと思った。

○提示された資料の書体や文字間など意識してみるとなるほどと感じた

○大まかな発表までの流れだけでなく、フォントの選び方や図の使い方など詳しく説明していただきとてもわかりやすく学びにつながった。

Ⅲ．看護研究支援研修全体の評価（最終回受講生アンケート自由記述より）

○卒業論文以来久しぶりに研究をすることとなり、基礎的なところから学ぶことができてよかった。

○全体の資料など講義を振り返りながら、実際の研究を進めていこうと前向きになれた。

○全体的にとてもわかりやすく、今まで看護研究について曖昧に捉えていたことに対する理解が深まった。今回の研修を、自部署に持ち帰り共有し、今後の看護研究に活かしたい。

○シリーズ化であったので理解しやすいのと前回の講義内容など質問がしやすい雰囲気の研修であった。

○今まで研究についてほとんど理解ができていなかったところから研究方法から発表方法、細やかなポイントについて知ることができた。

○質的研究、量的研究の両方を学べたことは大変貴重な機会だった。最後の学会発表のポイントに関する点も参考になった。

Ⅳ．今後の課題

今年度の当研修は、10 年ぶりに交代した主担当者による新しいプログラムと、プログラム有料化という新たな試みをもってスタートした。受講希望者は 15 名の定員を超えた 19 名となり、全 4 回ほぼ全員が参加することができた。

各回のアンケート結果のうち、「研修全体について」では研修の必要性や位置づけ、興味ある内容であったかどうか等で「強くそう思う」「そう思う」が 75%以上を占めており、受講生のニーズに沿った研修が展開できたと評価できた。しかし、各回の「講義と演習について」をみると、第 2 回「量的研究」において「SPSS によるデータ分析について理解できたか」で 52.9%が「どちらともいえない」、5.9%が「そう思わない」と回答している他、理解についての問いに「どちらともいえない」「そう思わない」と回答した受講生が 10 名前後みられた。質問紙調査とデータ分析は、臨床での看護業務内容と異なるため、理解が難しかったと考えられる。次回はデータ入力や図表の作成への時間配分を多くし、分析も一つ一つ手順を確認しながら行うようにしたい。質的研究は、YouTube で実際の患者の語りを用いて逐語録の作成を行い、グループワークで分析を進めたことや、普段の看護場面を想起しやすい研究手法であることから、研修の総合満足度も高かった。次年度も継続して実施したい。

受講対象は「Excel の基本的操作ができる方」としていたが、受講生の中には Excel の操作ができない方も含まれており、受講生のパソコン操作スキルに大きな差があった。理解度を確認しながら進め、講義・演習の進行に偏りがでないように配慮する必要がある。

京都府立医科大学医学部看護学科　看護実践キャリア開発センター　毛利貴子

6）ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業（社会的な要請に対応できる看護師の養成）

Project KPUM～重症患者に対応できるジェネラリストナース養成プロジェクト～

Ⅰ．事業概要

１．事業実施の背景

近年、我が国においては、新型コロナウィルス感染症を契機に少子高齢化の進展による医療ニーズの多様化、地域医療の維持についての問題が顕在化した。看護師に求められる能力や看護を提供する場は多様化し、社会的な要請に対応できる看護師の養成は急務である。このような背景をもとに、本事業は令和 6 年度文部科学省「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業（社会的な要請に対応できる看護師の養成）」に採択された。

京都府立医科大学は、1872 年の設立以降、医療・医学を担う人材育成と高度先端医療を牽引する役割をもつ大学である。附属病院は、地域における高度急性期医療基幹病院としての役割に加え、2024 年度には救命救急センターの新設、北部医療センターとの連携のもとドクターヘリ拠点病院としての整備が計画され、京都府内の救急・災害医療の充実を図ることが責務となっている。附属病院看護部では、三次救急医療機関としてクリティカルケア看護実践能力向上を目指した看護師教育プログラムの構築も行っている。また、2019 年度には特定行為研修指定研修機関の指定を受け、外科術後病棟管理領域コース、術中麻酔管理領域コース、新たに集中治療領域コースの 3 つの研修を開講し、22 名の修了生を輩出している。

今回、文部科学省新規事業募集の通知を受け、救急医療提供体制の充実・強化を図っているさなかである本学は、①救命救急センターの新設、②クリティカルケア看護師養成プログラムの再構築、③特定行為研修における集中治療領域コースの新設、④京都府で唯一の PICU を擁する医療機関等、複数の条件が合致したため申請し、採択に至った。長年にわたり、京都府内のジェネラリストナース教育に携わってきた看護実践キャリア開発センターが、本事業の事務局として管理運営を担い、重症患者に対応できるジェネラリストナース養成をめざす。本事業により、京都府下で急性期医療に従事する看護師のレベルアップと施設間連携が期待でき、新興感染症の流行、大規模自然災害、超高齢化・人口急減による急性期医療ニーズの変化に対応することが可能となる。また、京都府で唯一 PICU を擁する医療機関として、小児救急医療・看護の発展に大きく寄与することができる。

２．全体構想

本事業は、京都府立医科大学、附属病院、看護実践キャリア開発センターが一体となり、高度なクリティカルケアの看護実践能力を有する看護師養成およびネットワーク構築を目指すプログラムである。

【目的】

①高度なクリティカルケア実践能力をもち、医療ひっ迫時に派遣要請に対応できる看護師を養成する

②自施設のクリティカルケアにおいて指導的役割を担い、看護の質向上に寄与する看護師を養成する

③プロジェクトを通じて京都府内におけるクリティカルケア領域の看護師間・組織間のネットワークを構築する

④認定看護師、専門看護師、特定行為看護師につながるよう受講生のキャリア形成を支援する

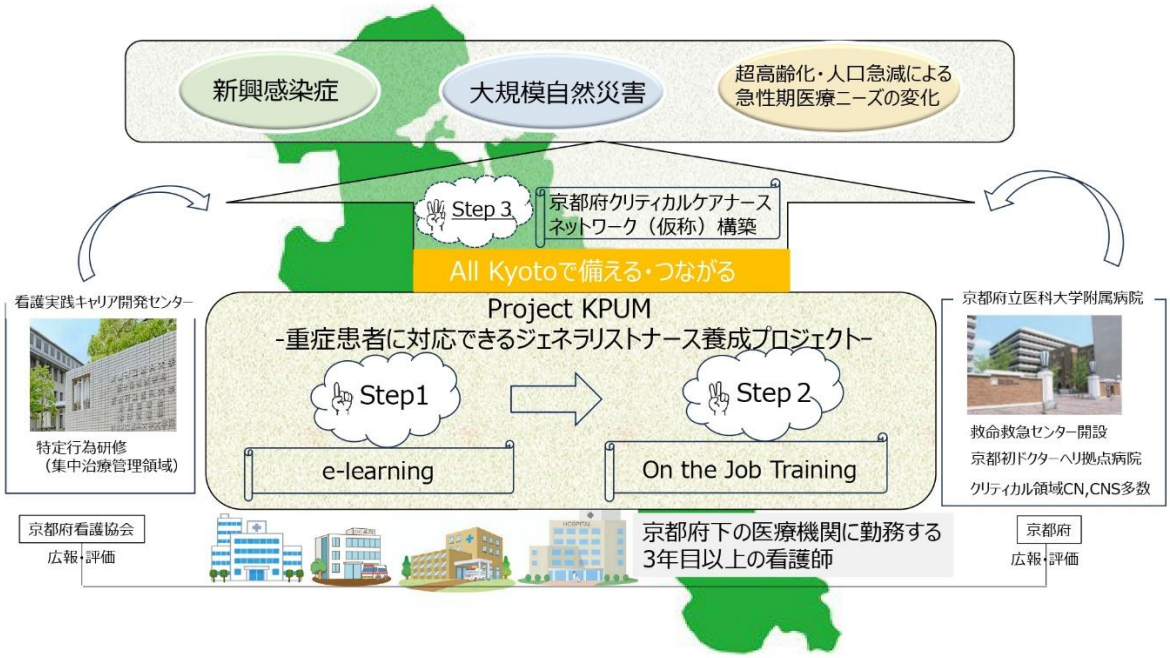
【対象】京都府下の医療機関に勤務する臨床経験 3 年目以上の看護師

【内容】成人系と小児系のクリティカルケアを学ぶコースを設定する。

Step1 e-learning と講義・演習

Step2 On the Job Training（以下 OJT）

Step3 研修修了後、京都府クリティカルケアナースネットワーク（仮称）の構築、情報交換や後進育成にあたる



Project KPUM 全体構想図

３．特定行為研修との位置付け

本事業は、本学附属病院のクリティカルケア看護師教育プログラムとコラボレーションを図り、地域のクリティカルケア支援体制の強化に貢献できるジェネラリスト看護師育成プログラムとして位置づける。また、当プログラムの受講を通して特定行為看護師等スペシャリストへのキャリアアップにつなげる。

クリティカルケア看護師教育プログラム
京都府立医科大学附属病院におけるクリティカルケアのスキルアップと質の向上プログラム

本事業
クリティカルケアの基礎的知識とスキルを修得したジェネラリストの育成

キャリアアップ →

特定行為研修
クリティカルケアスペシャリスト育成
（外科術後病棟管理領域コース
術中麻酔管理領域コース
集中治療領域コース
救急領域コース）

４．養成した人材の活躍に係る構想

１）個人の実践能力向上と教育的役割

自施設の病棟で、患者の急変や重症化に自信をもって対応できるようになることを目指す。心電図モニターの読解や不整脈出現時の対応と看護、人工呼吸器のメカニズムの理解と人工呼吸器装着中のケア、急変時の二次救命処置（気管内挿管の介助や電気的除細動の介助）ができ、後輩の指導にあたることができる。

２）京都府クリティカルケアナースネットワーク（仮称）の構築

当プログラムでは、個人の知識・技術を向上させるのみならず、他施設での実習、施設間留学を経験し、自施設や自身の看護を客観的に省察すること、施設内・施設間での看護師間連携を強化することを目指す。特に、現代は小児集中治療領域に対応できる看護師の不足が課題であり、人的リソースの活用のため、施設を越えた繋がりへのニーズは高い。ネットワークでは定期的な勉強会や研修会、情報交換会を開き、顔の見える関係づくりを形成する。クリティカルケア看護師ネットワークは、大規模自然災害時や新興感染症流行時の緊急派遣要請に大きな効果を発揮することが期待できる。

３）京都府立医科大学における看護体制の強化

本学では、クリティカルケア領域のスペシャリスト（認定看護師、専門看護師、特定行為看護師）が多数活動し、看護基礎教育における領域別臨地実習指導や、自施設の看護師教育（教育ラダーに則ったプログラムの実施・評価）を行っている。当プログラムにおいて、他施設で勤務するジェネラリスト看護師の教育に携わることで、本学の認定看護師、専門看護師、特定行為看護師の教育力（最新の知識を習得し、自身の実践を内省・言語化し、他者に伝え共有する力）向上を図る。スペシャリストの看護実践能力、教育力の強化は、本学附属病院看護部の教育ラダーに反映され、ジェネラリストのレベルアップに寄与できる。また、本学附属病院では、特定行為看護師の修了後研修が終わり、本格的な活動を始めるところである。特定行為研修修了者をクリティカル領域スペシャリストナースチームの一員として当プログラムに位置づけることで、院内での認知度を高め、組織横断的な活動を促進することができる。

５．教育内容

研修期間：１クール６ヶ月（年間４月～９月・10 月～３月の２クール設定）

教育内容とスケジュール

月/年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
R6	4/30 申請〆切		下旬 結果発表		受講生 公募開始	・開講式 ・e-learning	・OJT ・6か月の院内留学 ・附属病院Ns15名 ・期間中に技術演習3項目（二次救命処置、NPPV、MV） ・期間中に手術室見学（1日）とドクターヘリ拠点地見学（1日）					・成果報告会 ・閉講式 ・次期受講生決定
R7/R8	・開講式 ・e-learning		・OJT ・JNAラダーⅡ以上のNs15名 ・京都府下第三次救急医療機関にてOJT ・ICU系2週間、救急系2週間 ・期間中に技術演習3項目（二次救命処置、NPPV、MV） ・期間中に手術室見学（1日）とドクターヘリ拠点地見学（1日）			・成果報告会 ・閉講式 ・次期受講生決定	・開講式 ・e-learning		・OJT ・JNAラダーⅡ以上のNs15名 ・京都府下第三次救急医療機関にてOJT ・ICU系2週間、救急系2週間 ・期間中に技術演習3項目（二次救命処置、NPPV、MV） ・期間中に手術室見学（1日）とドクターヘリ拠点地見学（1日）			・成果報告会 ・閉講式 ・次期受講生決定 (R8終了)

６．運営体制

１）事業実施体制

氏名	所属・職名
（事業責任者） 毛利　貴子	看護実践キャリア開発センターセンター長 京都府立医科大学医学部看護学科教授
宮田　千春	看護実践キャリア開発センター副センター長 京都府立医科大学医学部看護学科教授
濵崎　一美	看護実践キャリア開発センターセンター員 京都府立医科大学附属病院看護師長、集中ケア認定看護師
越智　幾世	看護実践キャリア開発センター副センター長 京都府立医科大学医学部看護学科講師 がん看護専門看護師、がん化学療法看護認定看護師
田中　真紀	看護実践キャリア開発センター副センター長 京都府立医科大学附属病院看護部教育担当副部長
辻尾　有利子	京都府立医科大学附属病院看護師長、急性・重症患者看護専門看護師
吉岡　さおり	京都府立医科大学医学部看護学科教授　学科長
滝下　幸栄	看護実践キャリア開発センター副センター長 京都府立医科大学医学部看護学科准教授
原田　清美	看護実践キャリア開発センターセンター員 京都府立医科大学医学部看護学科准教授
山田　親代	京都府立医科大学医学部看護学科学内講師、集中ケア認定看護師
長谷川　景三	京都府立医科大学教育支援課課長
舛井　敬一朗	京都府立医科大学教育支援課課長補佐
山口　利香	看護実践キャリア開発センター非常勤職員

２）連携組織

病院施設等

京都府内三次救急医療施設（京都第二赤十字病院、宇治徳洲会病院、京都第一赤十字病院、京都医療センター、洛和会音羽病院、京都大学医学部附属病院、市立福知山市民病院、京都府立医科大学附属病院）

３）評価体制

・学校教育法第 109 条第 1 項に定める評価を実施する。「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業評価委員会」を組織し、当プログラムの内容や成果の評価、検証を行う。その結果は、本事業の報告書や、看護実践キャリア開発センター報告書等により、広く公開する。

・「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業評価委員会」は年に 2 回開催し、事業の遂行や内容の妥当性、評価について検討し、プログラムの改善につなげる。

・「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業評価委員会」委員は、医学部看護学科長、附属病院看護部長、本学教員、本学以外に所属する学識経験者を指名する。

令和６年度ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業評価委員会構成メンバー

氏名	所属・役職
今西　美津恵	元京都府看護協会会長
中川　雅子	元看護学科教授
大東　貢生	佛教大学社会学部現代社会学科准教授
吉岡　さおり	看護学科学科長　教授
藤本　早和子	附属病院副病院長　兼　看護部長
倉ヶ市　絵美佳	附属北部医療センター看護部長
毛利　貴子	看護学科教授
宮田　千春	看護学科教授
滝下　幸栄	看護学科准教授
田中　真紀	附属病院看護部副看護部長
越智　幾世	看護学科講師
原田　清美	看護学科准教授
白數　多恵子	附属北部医療センター総括看護師長
濵崎　一美	附属病院看護部師長
長谷川　景三	教育支援課課長
山口　健司	病院管理課課長
松本　文絵	病院管理課課長補佐
金田　博彦	教育支援課

７．年度別実施計画

令和６年度	① ７月	受講生募集開始
	② ９月	開講式、e-learning 開始
	③ 10 月	附属病院にて OJT 開始
		OJT 期間中に技術演習、手術室見学、ドクターヘリ拠点地見学を実施
		次年度受講生募集開始
	④ ３月	OJT 終了、発表会、修了式、評価委員会、報告書作成
令和７年度	① ４月	開講式、e-learning 開始
	② ６月	京都府下第三次救急医療機関にて OJT 開始
		OJT 期間中に技術演習、手術室見学、ドクターヘリ拠点地見学を実施
		後期受講生募集開始
	③ ９月	OJT 終了、発表会、修了式、報告書作成
	④ 10 月	開講式、e-learning 開始
	⑤ 12 月	京都府下第三次救急医療機関にて OJT 開始
		OJT 期間中に技術演習、手術室見学、ドクターヘリ拠点地見学を実施
		次年度受講生募集開始
	⑥ ３月	OJT 終了、発表会、修了式、評価委員会、報告書作成
令和８年度	① ４月	開講式、e-learning 開始
	② ６月	京都府下第三次救急医療機関にて OJT 開始
		OJT 期間中に技術演習、手術室見学、ドクターヘリ拠点地見学を実施
		後期受講生募集開始
	③ ９月	OJT 終了、発表会、修了式、報告書作成
	④ 10 月	開講式、e-learning 開始
	⑤ 12 月	京都府下第三次救急医療機関にて OJT 開始
		OJT 期間中に技術演習、手術室見学、ドクターヘリ拠点地見学を実施
		次年度受講生募集開始
	⑥ ３月	OJT 終了、発表会、修了式、評価委員会、報告書作成

Ⅱ．令和６年度実施報告

1．プロジェクトの概要

本事業が採択された令和6年度は、京都府立医科大学附属病院の看護師を対象とする教育プログラムを作成、実施した。すでに作成が進められていた附属病院の「KPUMクリティカルケア看護師養成プログラム」をアドバンスコース、スタンダードコースとし、ベーシックコースを新たに追加して令和6年度Project KPUMとして展開した。当プログラムは、臨床経験3年目以上の看護師の急性期・重症患者への看護実践能力向上を目指し、クリティカルケアの即戦力となる看護師の養成を目指す。

１）コースの概要

臨床経験3年目以上の看護師が個々のクリティカルケアの実践状況に応じて受講できる様に以下の3つのコースを展開した。

ベーシックコース

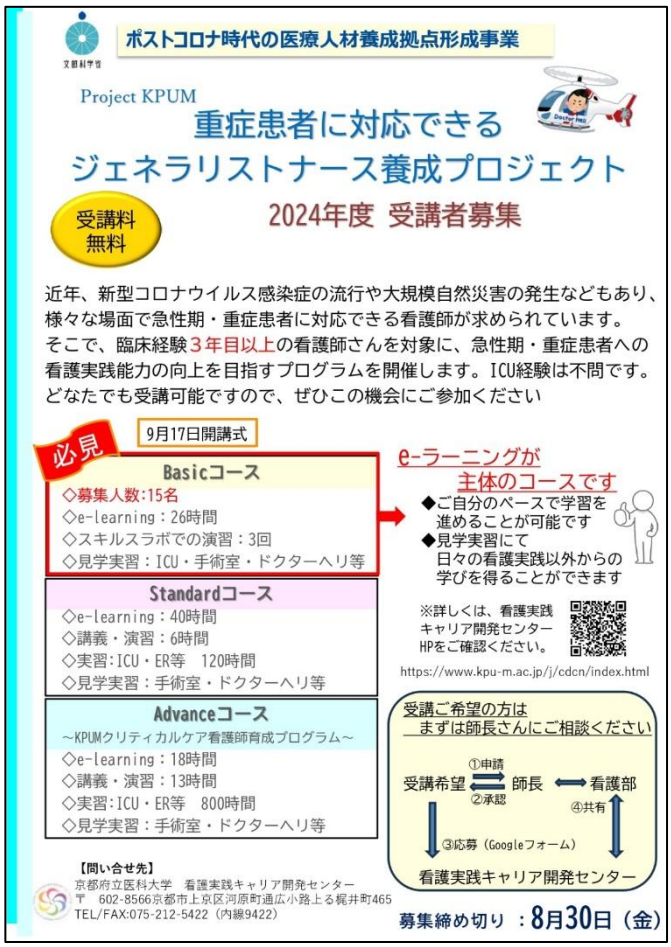
eラーニングによる学習、シミュレーション演習、講義聴講や施設見学実習に参加できる。

スタンダードコース

eラーニング、講義、演習と3日間の実習（OJT）、施設見学実習に参加できる。

アドバンスコース

eラーニング、講義、演習と本学のICU等で実習（OJT）を5か月間行う。施設見学実習に参加できる。



２）教育目標

ベーシックコース

(1) 到達目標

集中治療に携わる看護師のクリニカルラダー（日本集中治療医学会,2019）

レベルⅠ：集中治療領域の基本的な看護手順に従い必要に応じ助言を得て看護を実践する。

(2) 行動目標

① 助言を得て集中治療にある患者・家族や状況（場）のニーズをとらえることができる。

② 患者の病態生理を理解し、助言を受けながら患者・家族に基礎看護技術が提供できる。

③ 関係者から情報収集し、情報共有ができる。

④ 患者・家族や周囲の人々の意向を知る。

スタンダードコース

(1) 到達目標

集中治療に携わる看護師のクリニカルラダー（日本集中治療医学会,2019）

レベルⅡ：集中治療領域の標準的な看護計画に基づき自立して看護を実践する。

(2) 行動目標

① 集中治療にある患者・家族や状況（場）のニーズを自らとらえることができる。

② 患者・家族や状況（場）に応じた看護を実践し、評価できる。

③ 関係者の役割を理解した上で看護チーム内において情報交換ができる。

④ 患者・家族や周囲の人々の意向を看護に活かすことができる。

アドバンスコース

（1）到達目標

集中治療に携わる看護師のクリニカルラダー（日本集中治療医学会,2019）

レベルⅢ：患者の病態を把握し、患者・家族に合う個別的な看護を実践する。

（2）行動目標

① 集中治療にある患者・家族や状況（場）の特性をふまえたニーズをとらえることができる。

② 患者・家族に応じた看護実践の工夫ができ、適切なケアが実践できる。

③ 患者・家族やその関係者、多職種と連携ができる。

④ 患者・家族や周囲の人々に意思決定に必要な情報提供や場の設定ができる。

3）教育内容

教育内容の区分は、【共通科目】【専門科目】【演習】【実習】の４つの枠組みと選択科目を含む14の科目で構成される。

本プログラムの教育内容を以下に示す。

e-ラーニング：指定のｅラーニングツール（全日病 SQUE 看護師特定行為研修）を各自視聴

講　　義：京都府立医科大学にて実務家教員・実務家による対面講義を受講

演　　習：京都府立医科大学にて実務家教員・実務家による演習に参加

施設見学実習：ドクターヘリ拠点地病院、京都府立医科大学附属病院（手術室、ICU、PICU、救急室、EICU）のうち２カ所を選択し見学

ＯＪＴ：ICU、EICU にて実施。(スタンダード：3 日間　アドバンスコース：5 か月間)

教育課程の概要

※表の中の数字は時間数を示す

<table>
<tr><th colspan="2" rowspan="2">科目</th><th colspan="2">受講形式</th><th colspan="2">ベーシックコース</th><th colspan="2">スタンダードコース</th><th colspan="2">アドバンスコース</th></tr>
<tr><th>e-ラーニング</th><th>対面</th><th>必修</th><th>選択</th><th>必修</th><th>選択</th><th>必修</th><th>選択</th></tr>
<tr><td rowspan="7">共通科目</td><td>医療安全</td><td>3</td><td></td><td></td><td>3</td><td></td><td>3</td><td></td><td>3</td></tr>
<tr><td>医療倫理</td><td>3</td><td></td><td></td><td>3</td><td></td><td>3</td><td></td><td>3</td></tr>
<tr><td>臨床推論</td><td>9</td><td></td><td>9</td><td></td><td>9</td><td></td><td>9</td><td></td></tr>
<tr><td>フィジカルアセスメント</td><td>6</td><td></td><td></td><td>6</td><td></td><td>6</td><td></td><td>6</td></tr>
<tr><td>フィジカルアセスメント（症状別）</td><td>5</td><td></td><td>5</td><td></td><td>5</td><td></td><td>5</td><td></td></tr>
<tr><td>フィジカルアセスメント（小児）</td><td>3</td><td>1</td><td></td><td>4</td><td>1</td><td>3</td><td>1</td><td>3</td></tr>
<tr><td>臨床病態概論</td><td>8</td><td></td><td>8</td><td></td><td>8</td><td></td><td>8</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="4">専門科目</td><td>集中ケア看護論（アドバンス）</td><td>2☆</td><td>5</td><td></td><td>7</td><td>7</td><td></td><td>7</td><td></td></tr>
<tr><td>救急看護</td><td>3</td><td>3</td><td>4</td><td>2</td><td>6</td><td></td><td>6</td><td></td></tr>
<tr><td>災害看護</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr>
<tr><td>感染管理</td><td>1</td><td>1</td><td></td><td>2</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr>
<tr><td>演習</td><td>シミレーション演習</td><td></td><td>3</td><td>3</td><td></td><td>3</td><td></td><td>3</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="8">実習</td><td>施設見学実習:Drヘリ</td><td></td><td>8</td><td></td><td rowspan="5">16</td><td></td><td>8</td><td></td><td>8</td></tr>
<tr><td>手術室</td><td></td><td>8</td><td></td><td></td><td rowspan="5">8</td><td></td><td rowspan="5">8</td></tr>
<tr><td>ICU</td><td></td><td>8</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>PICU</td><td></td><td>8</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>救急室・EICU</td><td></td><td>8</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>施設実習（OJT）スタンダード</td><td></td><td>24</td><td colspan="2" rowspan="2">該当なし</td><td>24</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>施設実習（OJT）アドバンス</td><td></td><td>800</td><td></td><td></td><td>800</td><td></td></tr>
</table>

☆講師のオリジナル動画

４）修了の要件

履修においては、下記の必要出席時間数とレポートによる評価を得るものとする。

・講義：時間数の4/5以上の出席（受講)、課題レポートの評価

・演習：時間数の4/5以上の出席

・実習：時間数の4/5以上の出席、実習レポートの評価

※研修修了者には本学学長より修了証書を発行する。

２．会議等開催日程

運営会議

日時：令和６年4月23日	第１回運営会議	9月20日	第５回運営会議
5月28日	第２回運営会議	11月18日	第６回運営会議
6月27日	第３回運営会議	12月24日	第７回運営会議
7月23日	第４回運営会議	令和７年 1月31日	第８回運営会議

形式：Zoom　　参加者：実施体制メンバー、センター運営会議構成メンバー

評価委員会

令和７年３月３日（月）　18時00分～18時半　　会場：本学看護学舎　大講義室

形式：ハイブリッド開催　　参加者：評価委員会メンバー

R7 年度実習指導者ミーティング

日時：令和７年２月19日（水）　11時

形式：Zoom　　参加者：京都府内三次救急医療施設看護部長、教育担当副部長、看護師長

R6 年度担当者連絡会議

日時：令和７年２月27日（木）　16時　　会場：看護学舎　第１会議室

参加者：実施体制メンバー

３．教育プログラム

１）受講者内訳

コース名	受講者数	修了者数
ベーシックコース	12 名	12 名
スタンダードコース	１名	２名
アドバンスコース	３名	２名

２）進捗状況

（令和 6 年度開講期間　2024 年 9 月 17 日～2025 年 3 月 21 日）

９月	開講式
	e-learning・講義開始（全コース）
	令和 7 年度 OJT に向けての受入調査を実施
10 月	OJT 開始（5 か月間/アドバンスコース、3 日間/スタンダードコース）
11 月	キックオフ講演会開催
12 月	2025 年度受講生募集開始
１月	シミュレーション演習実施（ベーシックコース）
	施設見学実習（ドクターヘリ拠点地見学：済生会滋賀県病院）（全コース）
２月	施設見学実習（本学附属病院手術室、ICU、PICU、EICU）（全コース）
	「災害看護（DMAT）の技術演習実施（アドバンスコース・スタンダードコース）
	3 次救急病院指導者ミーティング
	担当者連絡会議
３月	評価委員会
	成果発表会
	閉講式

3）成果報告

（1） 教育プログラム内容

医療安全（選択）	教育目標	医療内容の複雑化、高度化、社会構造の変化、国際化などにより、医療現場ではさまざまなリスクが発生している。クリティカルケアの質保証することの大切さを認識し、医療安全の症例を通して理解する。		
	指導方法	e ラーニングによる自己学習。履修状況を講義確認テストの結果をもとに確認を行い、指導する。		
	授業内容	1	組織と医療安全	オンデマンド
		2	個人と医療安全	
		3	患者・家族と医療安全	
医療倫理（選択）	教育目標	医療内容の複雑化、高度化、社会構造の変化、国際化などにより、医療現場ではさまざまな倫理的問題に直面する。クリティカルケアの質保証することの大切さをふまえ、医療倫理について考える。		
	指導方法	e ラーニングによる自己学習の履修状況を講義確認テストの結果をもとに確認を行い、指導する。		
	授業内容	1	医療倫理・生命倫理の原則	オンデマンド
		2	患者の権利・医療安全	オンデマンド
		3	患者への説明と意思決定支援の理論	オンデマンド
臨床推論（必修）	教育目標	患者が訴える症候から疾患群を想起し、何が最も疑わしいかについて臨床推論を行う。疾病を病因や病態からとらえるのではなく、患者の示す様々な訴えや診察所見から疾病を定義・分類し、主要な症候から疾患の診断ができるようになるために、知識を統合し、関連する病態生理を理解し、得られる情報を用いて論理的に推論する能力を身につける。日常頻繁に使用されている臨床検査項目について、臨床的意義並びに検査値の基本的な考え方など、一連の診断プロセスと病態との関係を総合的に学習する。		
	指導方法	e ラーニングによる自己学習の履修状況を講義確認テストの結果をもとに確認を行い、指導する。		
	授業内容	1	診療のプロセスⅠ 「症候診断の基本的な考え方」	オンデマンド
		2	診療のプロセスⅡ「医学的診断の方法」	
		3	臨床推論「意識障害」	
		4	臨床推論「胸痛」	
		5	臨床推論「呼吸困難」	
		6	臨床推論「腹痛」	
		7	各種臨床検査の理論と演習「EKGⅠ」	
		8	各種臨床検査の理論と演習「EKGⅡ」	
		9	各種臨床検査の理論と演習「血液検査」	
フィジカルアセスメント（選択）	教育目標	日常的にみられる病態を系統的に理解し、より高度な看護実践に向け、病態生理学的状態をエビデンスに基づき判断できる知識・技術を身につける。多様な臨床場面における重要な病態の変化や症状をいち早くアセスメントできる基本的な知識を身につける。症例に関する適切な情報収集・分析を行い、病歴や身体所見などの情報を統合してアセスメントができ、今後必要となる処置や検査の予測ができる。		
	指導方法	e ラーニングによる自己学習。履修状況を講義確認テストの結果をもとに確認を行い、指導する。		
	授業内容	1	全身状態とバイタルサイン	オンデマンド
		2	胸部のフィジカルアセスメント	
		3	神経系のフィジカルアセスメント	
		4	心血管（胸部）のフィジカルアセスメント	
		5	呼吸（胸部）のフィジカルアセスメント	
		6	腹部のフィジカルアセスメント	

フィジカルアセスメント症状別（必修）	教育目標	日常的にみられる病態を系統的に理解し、より高度な看護実践に向け、病態生理学的状態をエビデンスに基づき判断できる知識・技術を身につける。多様な臨床場面における重要な病態の変化や症状をいち早くアセスメントできる基本的な知識を身につける。症例に関する適切な情報収集・分析を行い、病歴や身体所見などの情報を統合してアセスメントができ、今後必要となる処置や検査の予測ができる。		
	指導方法	e ラーニングによる自己学習。履修状況を講義確認テストの結果をもとに確認を行い指導する。		
	授業内容	1	発熱のフィジカルアセスメント	オンデマンド
		2	呼吸障害のフィジカルアセスメントⅠ	
		3	呼吸障害のフィジカルアセスメントⅡ	
		4	ショック状態のフィジカルアセスメント	
		5	意識障害のフィジカルアセスメント	
フィジカルアセスメント小児（必修・選択）	教育目標	日常的にみられる病態を系統的に理解し、より高度な看護実践に向け、病態生理学的状態をエビデンスに基づき判断できる知識・技術を身につける。小児領域の臨床場面における重要な病態の変化や症状をいち早くアセスメントできる基本的な知識を身につける。症例に関する適切な情報収集・分析を行い、病歴や身体所見などの情報を統合してアセスメントができ、今後必要となる処置や検査の予測ができる。		
	指導方法	e ラーニングによる自己学習は履修状況を講義確認テストの結果をもとに確認を行い、講義は看護学科の教員、実務家である専門看護師が担当する。		
	授業内容	1	小児のフィジカルアセスメントⅠ	オンデマンド
		2	小児のフィジカルアセスメントⅡ	
		3	小児のフィジカルアセスメントⅢ	
		4	小児重症患者看護	対面講義
臨床病態概論（必修）	教育目標	循環器疾患・呼吸器疾患・消化器疾患等、プライマリ・ケアの場において遭遇することの多い主要な疾患・症状に対しての、病態生理、臨床像、治療について基本的知識を学び、臨床診断プロセスに必要な思考過程を身につける。		
	指導方法	e ラーニングによる自己学習。履修状況を講義確認テストの結果をもとに確認を行い、指導する。		
	授業内容	1	循環器系の疾病と病態Ⅰ	オンデマンド
		2	循環器系の疾病と病態Ⅱ	
		3	呼吸器系の疾病と病態Ⅰ	
		4	呼吸器系の疾病と病態Ⅱ	
		5	脳血管障害の疾病と病態	
		6	急性心筋梗塞の疾病と病態	
		7	敗血症の疾病と病態	
		8	熱中症の疾病と病態	
集中ケア看護論（必修）	教育目標	①クリティカルケアの概念を理解し、重症患者への看護実践ができる。 ②重症かつ急性期にある患者の病状把握を迅速に行うことができる。 ③クリティカルケアにおける合併症予防について理解できる。 ④早期回復支援について立案、実施できる ⑤集中治療に関わる ME 機器の取り扱いとエラー対応ができる ⑥早期回復支援のための他部門（ICU、救急室、NST、外来等）との連携が理解できる。		
	指導方法	実務者である集中治療部医師、認定看護師、理学療法士、臨床工学技士による講義形式にて指導する。		
	授業内容	1	重症患者管理　動脈血ガス分析の読み方・考え方	対面講義
		2	人工呼吸器管理	
		3	周術期患者管理　侵襲時の生体反応と対処	オンデマンド
		4	重症患者看護 フィジカルアセスメントから始める急性期看護	対面講義

		5	早期回復支援①リハビリテーションの役割	対面講義
		6	早期回復支援②重症患者の栄養管理	
		7	重症患者の症状マネジメント　せん妄予防	オンデマンド
救急看護（必修・選択）	教育目標	さまざまな状況において突然に生じた傷害または急激な疾病の発症や急性増悪等によって、医療を必要とする人々に対する迅速かつ適切な看護実践である救急看護についての役割について学び、重要性、必要性を再考できる。		
	指導方法	e ラーニングによる自己学習、救急看護を専門としている教員および、実務者である認定看護師によるによる講義演習形式にて指導する。		
	授業内容	1	救急医療　1	オンデマンド
		2	救急医療　2	
		3	救急医療　3	
		4	（キックオフ講演会） 「重症・集中看護、救急看護における実践と教育」	対面講義
		5	救急看護の実際 「急変の予兆」の捉え方とその対応	
		6	小児救急看護 「小児の異変に気付く」	
災害看護（必修・選択）	教育目標	国内外で災害が発生した際に医療や看護の知識・技術を提供し、ほかの専門分野と協力・連携しながら行う災害看護について学び、果たす役割について考えることができる。		
	指導方法	e ラーニングによる自己学習、看護学科教員および、実務者である DMAT メンバーによる講義演習形式にて指導する。		
	授業内容	1	「災害時の医療と看護（スタッフ編）」	オンデマンド
		2	DMATメンバーとして果たす看護師の役割	対面講義・演習
感染管理（必修・選択）	教育目標	クリティカルケアにおける感染予防および感染症発生時の拡大防止、また、病原微生物に曝露した際に発症を予防するための対策について、その概要を学び基本的知識を修得する。また、感染症に関わる倫理的課題、患者・家族、医療従事者のメンタルヘルスについて学習し、その課題について考察する。		
	指導方法	e ラーニングによる自己学習、看護学科教員および、実務者である感染管理認定看護師による講義演習形式にて指導する。		
	授業内容	1	「感染対策の概要」	オンデマンド
		2	感染管理　各論 「ICUの患者のデバイス管理　他」	対面講義
シミュレーション演習（必修）	教育目標	クリティカルケアの必要がある生命の危機的状態（クリティカル期）にある重症患者に対して ER、ICU、外科系病棟で行われるケアについてシミュレーターを使用して学ぶ。ニーズに合った医療を提供できる力（実践力）を模擬的な状況の中で，学習者としての個人やチームで医療を経験し、最善の医療を実践するにはどのような専門的な知識・技術・態度を備えていなければならないのかを再考する。		
	指導方法	状況設定された高機能シミュレーターに対しクリティカルケアを実施し、適切な判断とそれに基づく行動ができたかどうかをメンバー内でフィードバックを行う。その内容を評価し指導する。個人のスキルにおいてはチェック表にて評価する。		
	授業内容	1	人工呼吸器管理	対面演習
		2	気管挿管介助と気道管理（口腔ケアを含む）	
		3	急変対応シミュレーション	
		4	急変対応とアセスメント	
		5	災害看護　演習	

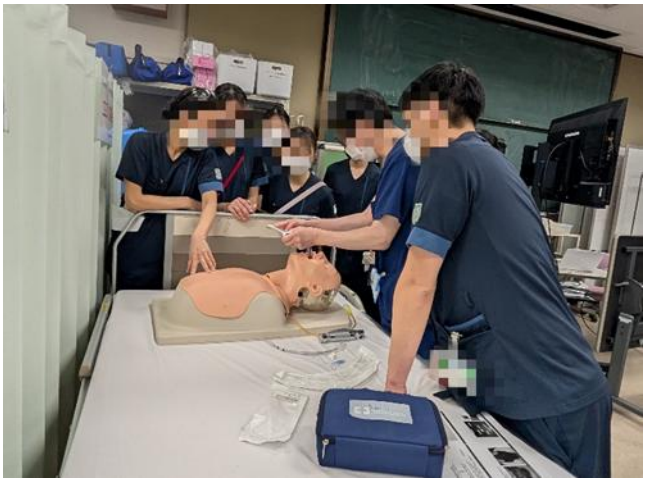
<table>
<tr><td rowspan="7">施設見学実習（選択）</td><td>教育目標</td><td colspan="3">急変・救急搬送・手術後などのさまざまな理由から生命の危機に直面している状態の患者においては状態のモニタリングや綿密なケアなどのクリティカルケアが非常に重要となる。Dr ヘリで搬送される実際、手術中の管理の実際、集中治療室での実際を見学することで生命を維持するためのケアの必要性や重要性を再考することができる。</td></tr>
<tr><td>指導方法</td><td colspan="3">実習における個々の目標に対して、達成できる様に場面を調整し、指導する。</td></tr>
<tr><td rowspan="5">授業内容</td><td>1</td><td>ドクターヘリ拠点地見学</td><td>済生会滋賀県病院</td></tr>
<tr><td>2</td><td>手術室の見学</td><td rowspan="4">附属病院</td></tr>
<tr><td>3</td><td>ICUの見学</td></tr>
<tr><td>4</td><td>PICU の見学</td></tr>
<tr><td>5</td><td>救急室・EICU の見学</td></tr>
<tr><td rowspan="4">施設実習（OJT）（必修）</td><td>教育目標</td><td colspan="3">高度急性期病院における集中治療において、クリティカルな状態にある患者の病態把握、早期回復支援の実際について学ぶ。また、大手術後や侵襲の大きな治療を受ける患者の生体反応とそれに応じた対応について学ぶ。</td></tr>
<tr><td>指導方法</td><td colspan="3">次の①～⑥のいずれかが経験できるよう調整をはかり、個々の目標達成において、自立して看護実践が行える様に指導する。
①大手術後の看護②侵襲的治療を受ける患者の看護③人工呼吸器離脱への支援（SBT）
④鎮静剤の調整⑤人工呼吸器装着中のリハビリテーション⑥多職種カンファレンス</td></tr>
<tr><td rowspan="2">授業内容</td><td rowspan="2">実習期間</td><td>スタンダード：10月から2月のうちの3日間</td><td rowspan="2">附属病院 ICU、EICU</td></tr>
<tr><td>アドバンス：10月から2月　（800時間）</td></tr>
</table>

＊シミュレーション演習の実際

災害看護　机上演習

早期回復支援②重症患者へのリハビリテーション

人工呼吸管理演習



気道管理演習

＊施設見学実習（ドクターヘリ拠点地見学）の実際

救命救急センター長による講義

ドクターヘリ帰還後の見学

（２）形成的評価

科目名【救急看護】対面講義・キックオフ講演会

日時：2024 年 11 月 1 日（金）17:30-19:00

講師：江口秀子先生（鈴鹿医療科学大学看護学部看護学科成人看護学教授）

会場：京都府立医科大学臨床講義棟南臨床講義室

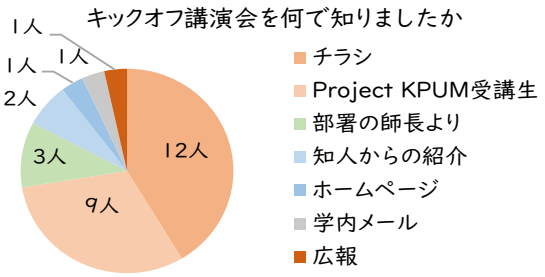
テーマ：「重症・集中看護、救急看護における実践と教育」

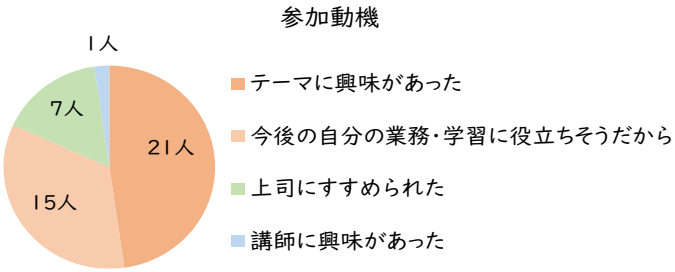
受講者 36 名（アンケート回答者 29 名/有効回答率 80%）

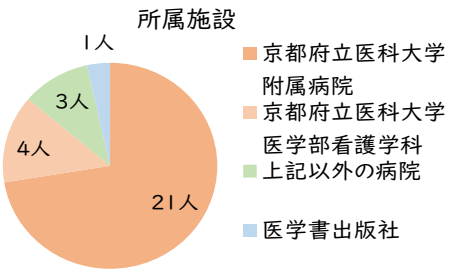
会場

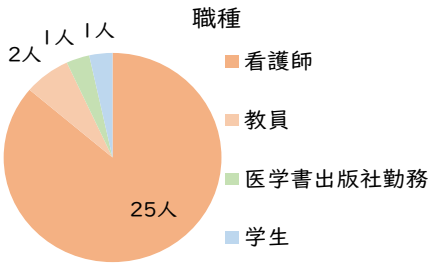
講演会ちらし

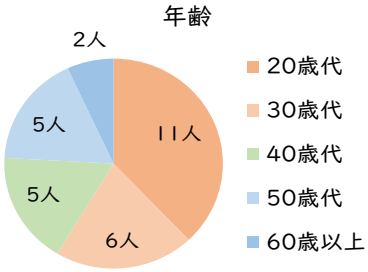
【受講者について】



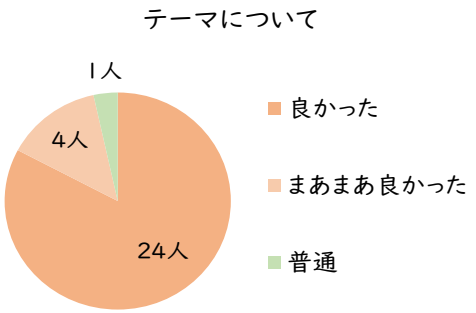


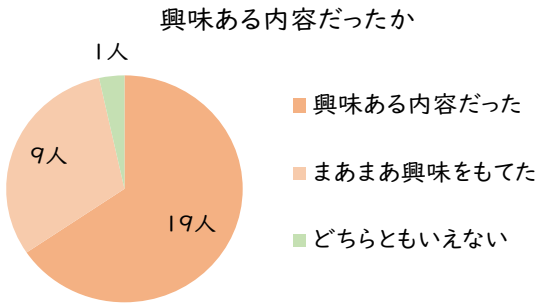


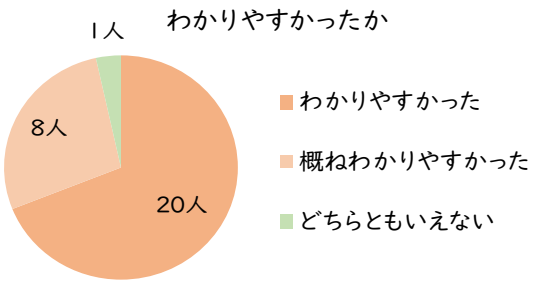


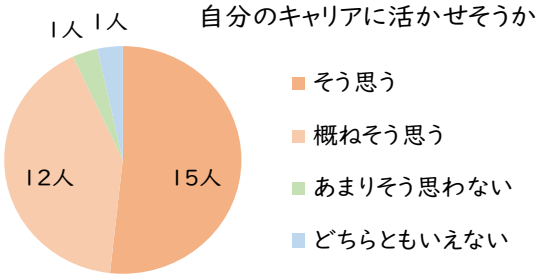


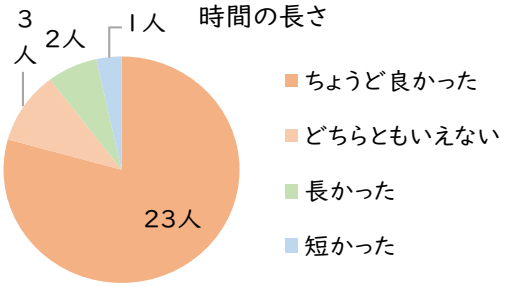
【講演について】

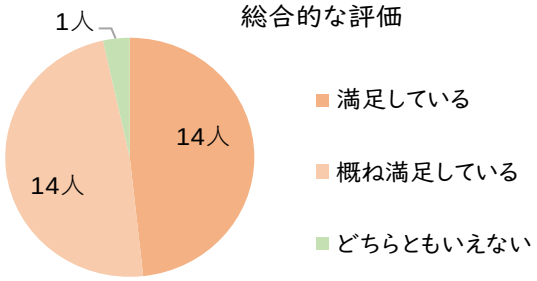












自由記述より：

・ご講義ありがとうございました。今後の看護へ繋げていけるよう、本日の講演を思い出し行動して行こうと思いました。

・ICU 勤務になって業務に当たる中で忘れかけていたクリティカルケアナースとしての役割を再確認する事が出来ました。

・重症・集中看護、救急看護の実践と教育について、その変遷や課題について良く理解できました。事例を交えながらご説明下さりとても分かりやすかったです。教員として、救急医療に興味を持つ学生と接する際の参考にさせて頂きたいと思います。ありがとうございました。

・PICS について理解でき患者の日常生活にもあわせてケア実践をしていく必要があると思いました。

・貴重なお話ありがとうございました

・経験の浅いスタッフや新人スタッフへの指導時の視点を、もっと聞きたかったです。

・キックオフにふさわしい講師の先生でした。今後の教育の方向性を考える上で示唆に富んだ内容だと思いました。

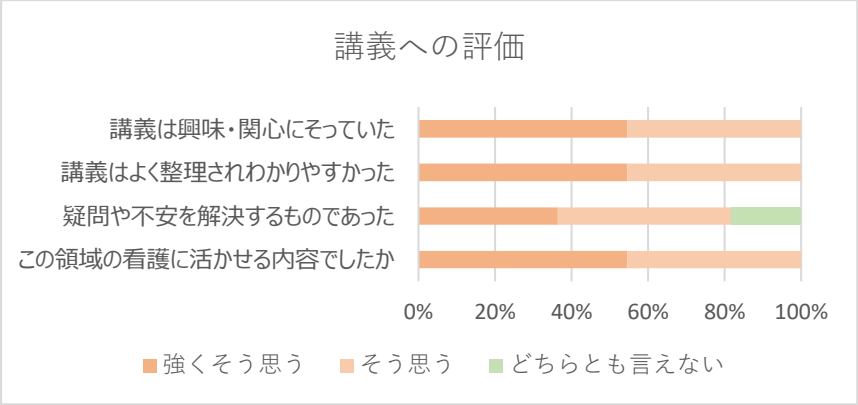
科目名【集中ケア看護論】対面講義

日時：2024 年 8 月 29 日（木）17:00~18:00

講師：小尾口邦彦先生（京都府立医科大学附属病院集中治療部部長）

テーマ：「重症患者管理　動脈血ガス分析の読み方・考え方」

受講者：アドバンスコース 2 名、スタンダードコース 2 名、一般受講生 4 名



自由記述より：

血ガスに関しては難しいイメージで苦手意識がありましたが、pH と乳酸だけでもまずは意識して確認していきたいと思いました。講義がとても分かりやすかったので、他の内容や他の検査データ値についても教えて頂きたいなと思いました。

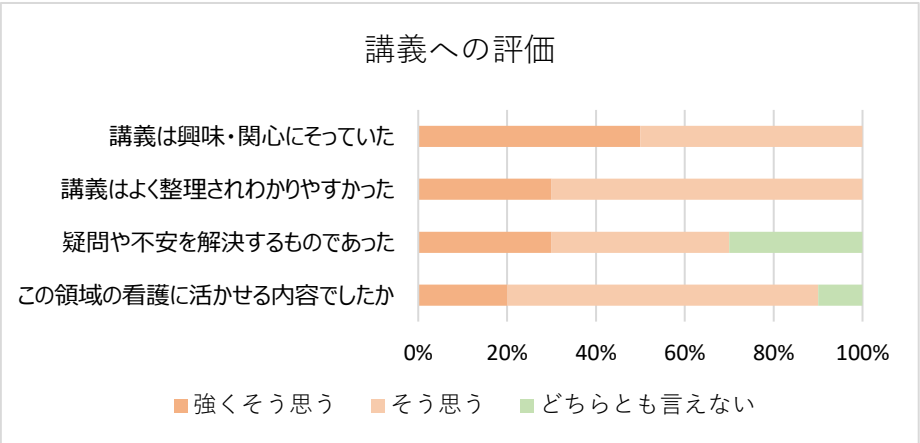
科目名【集中ケア看護論】対面講義

日時：2024 年 9 月 10 日（火）17:00~18:00

講師：畑中祐也先生（京都府立医科大学附属病院臨床工学部兼医療技術部臨床工学科副部長臨床工学技士長）

テーマ：「人工呼吸器管理」

受講者：アドバンスコース 2 名、スタンダードコース 2 名、一般受講生 13 名



自由記述より：

・波形の例を用いながら説明していただき非常に分かりやすかったです。ありがとうございました。

・人工呼吸器を使用する患者を最近受け持つ機会があり、人工呼吸器について自己学習しました。しかし、学習内容と看護を上手く繋げられていませんでした。具体的な数値や波形をもとに講義が進められるため、実際に経験した内容と結びつけやすく学びが深まりました。

科目名【集中ケア看護論】対面講義

日時：2024 年 11 月 12 日（火）17:00~18:00

講師：竹中千恵先生（京都府立医科大学附属病院看護師長・クリティカルケア認定看護師）

テーマ：「重症患者看護　フィジカルアセスメントから始める急性期看護」

受講者：アドバンスコース 2 名、スタンダードコース 2 名、一般受講生 13 名

自由記述より：

呼吸回数が大事、というのはよく耳にしますが、なぜ大事なのかというのを根拠を元に理解することができました。急変時に少しでも動ける、気づけるように臨床でも活かしていきたいと思います。

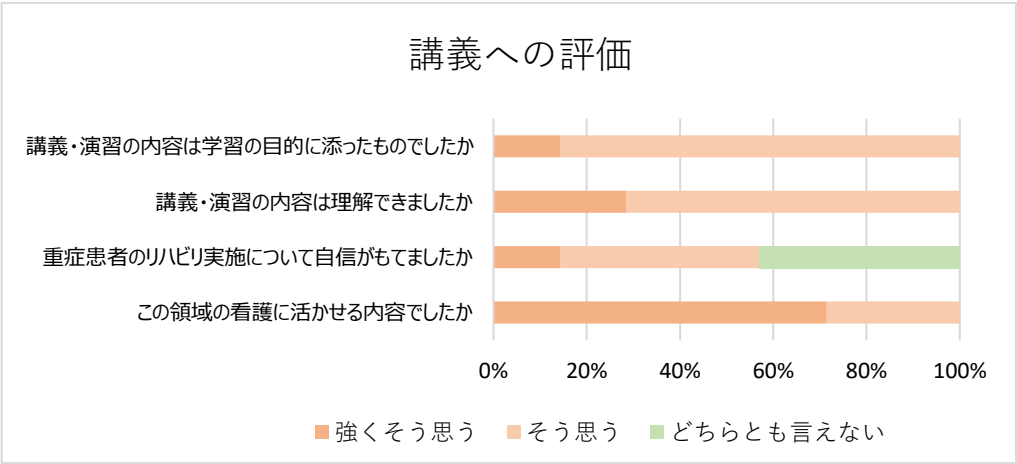
科目名【集中ケア看護論】対面講義・演習

日時：2025 年 1 月 23 日（木）17:00~18:00

講師：山端志保先生（京都府立医科大学附属病院理学療法士）

テーマ：「早期回復支援②リハビリテーションの役割」

受講者：アドバンスコース 2 名、スタンダードコース 2 名、一般受講生 9 名



自由記述より：

・開胸術後のリハビリなどで活用できそう。

・日常の疑問が解消される内容でした

・とてもわかりやすく、質問にも答えていただけたので、よく理解できました

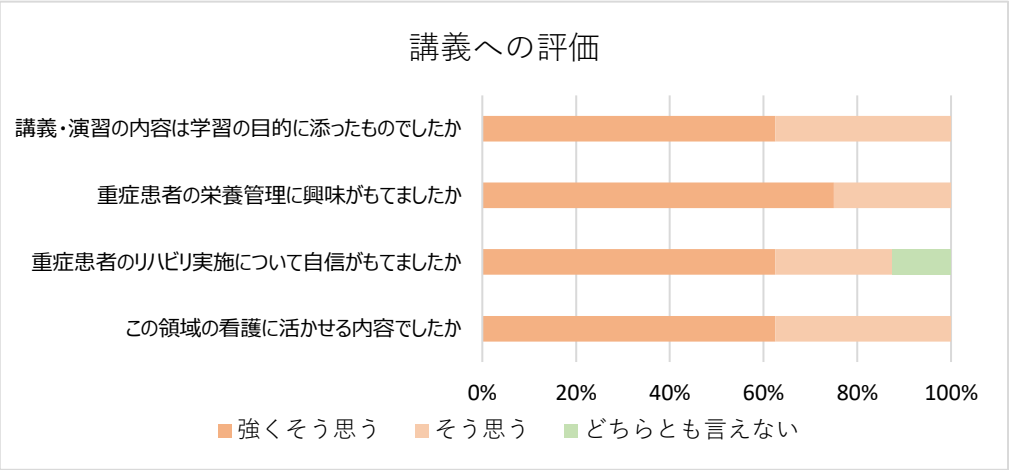
科目名【集中ケア看護論】対面講義

日時：2025 年 2 月 3 日（月）17:00~18:00

講師：笹井由起子先生（京都府立医科大学附属病院管理栄養士）

テーマ：「早期回復支援③重症患者の栄養管理」

受講者：アドバンスコース 2 名、スタンダードコース 2 名、一般受講生 4 名



自由記述より：

・経腸栄養のカロリー量に悩んでいたのでとても勉強になりました。

・GLIMやMUSTスコアを用いて、患者の低栄養状態を確認して、必要カロリー量を算出することを学んだ。

・術後の嚥下障害などで経腸栄養を継続する患者も多いがカロリーや栄養素などについて十分理解出来ていなかったのでMUSTなどを活用できるようにしていきたい

科目名【集中ケア看護論】オンデマンド

日時：2024 年 8 月配信（1 か月）

講師：山内薫先生（京都府立医科大学附属病院手術看護認定看護師、特定行為看護師）

テーマ：「手術侵襲が及ぼす生体への影響について」

受講者：27 名

自由記述より：実際に手術を実施するのは医師でも、手術侵襲をなるべく小さくするため、手術進行を円滑にすすめるという役目は、看護師にできることだと思った。

科目名【集中ケア看護論】オンデマンド

日時：2025 年 1 月配信（1 か月）

講師：安里智洋先生（京都府立医科大学附属病院看護師長、認知症看護認定看護師）

テーマ：「重症患者の症状マネジメント　せん妄予防」

受講者：32 名

自由記述より：

・せん妄について詳しく説明され、何がせん妄を引き起こすのか、看護としてできることは何か分かりやすく、臨床に活かしやすい講義でした。

・具体的な介入方法、使用薬剤の特徴など、すぐにでも臨床で活かせる内容だったから。

・認知症とせん妄の違いや薬剤の使用方法をわかりやすく説明して頂いて勉強になりました

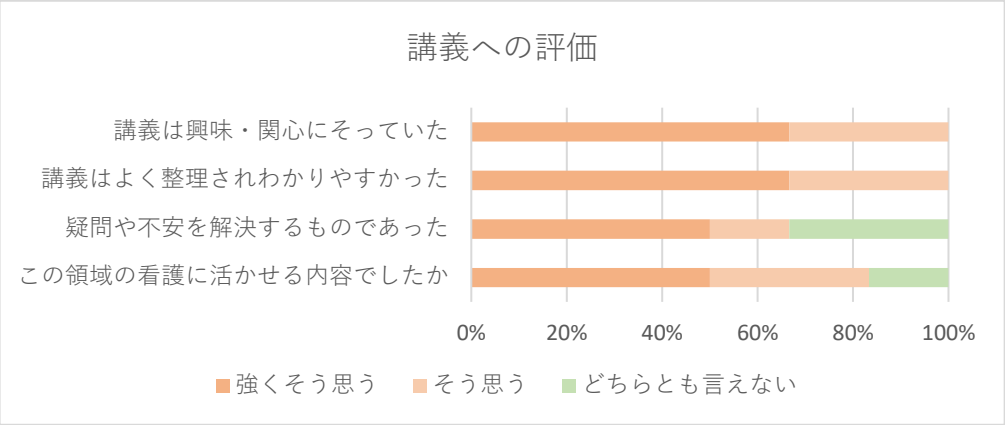
科目名【救急看護】対面講義

日時：2024 年 6 月 14 日（金）17:00~18:00

講師：杉美紀先生（京都府立医科大学附属病院副看護師長、クリティカルケア認定看護師、特定行為看護師）

テーマ：「救急看護の実際 『急変の予兆』の捉え方とその対応」

受講者：アドバンスコース 2 名、スタンダードコース 2 名、一般受講生 4 名



自由記述より：

・当院での呼吸数測定の実態から、急変時のサインとして呼吸数の変化が大切な指標になる事が改めて分かりました。

・急変時、緊張や焦りから普段通りに動けないので、普段からいつでも対応できるようシミュレーションが必要だと感じました。

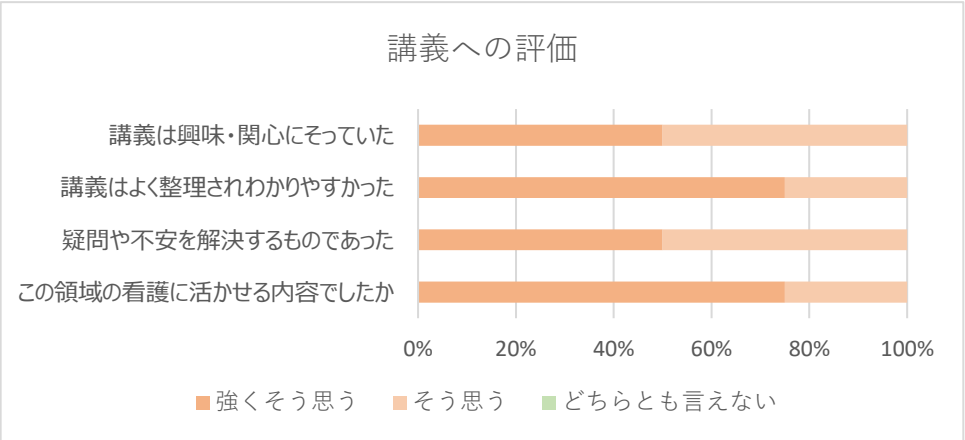
科目名【救急看護】対面講義

日時：2024 年 8 月 7 日（水）17:00~18:00

講師：辻尾有利子先生（京都府立医科大学附属病院看護師長、急性重症患者看護専門看護師）

テーマ：「小児救急看護『小児の異変に気付く』」

受講者：アドバンスコース 2 名、スタンダードコース 2 名、一般受講生 13 名



自由記述より：

・PICU に入室している患者さんの状態把握に必要不可欠なことばかりで、とても勉強になりました。今後に活かしていきたいと思います。ありがとうございました。

・日々の看護実践の場面で度々おこる事例に合わせたものでイメージしやすく分かりやすかったです。

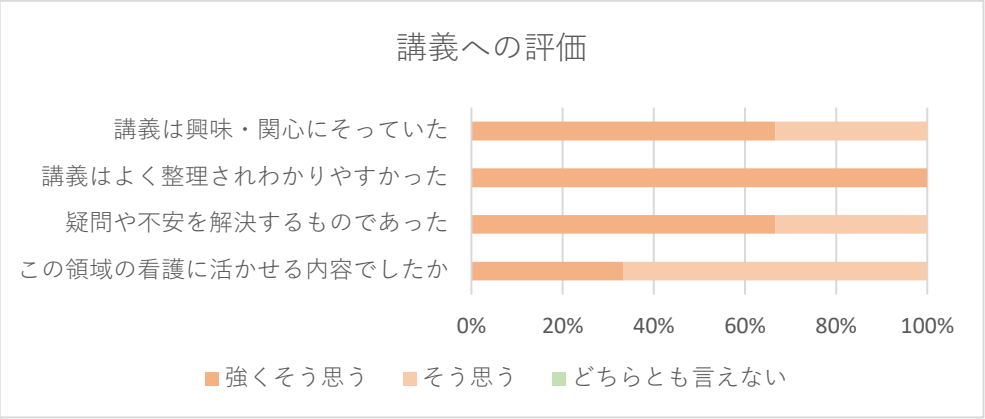
科目名【感染管理】対面講義

日時：2024 年 11 月 29 日（金）17:00~18:00

講師：菊地　圭介先生（京都府立医科大学附属病院感染管理認定看護師）

テーマ：「早期回復支援①～感染予防からはじまる重症患者看護～」

受講者：アドバンスコース 2 名、スタンダードコース 2 名、一般受講生 2 名



自由記述より：

・凄くわかりやすかったです

・実際に感染面での正しいルート交換(病棟ルールでない)間隔等を知れて良かった。

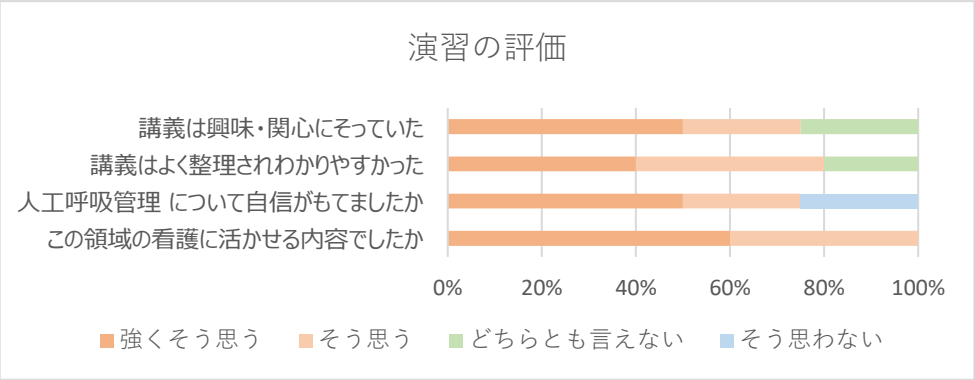
科目名【シミュレーション演習】

日時：2024 年 12 月 12 日（木）17:00~18:00

講師：畑中　祐也先生（京都府立医科大学附属病院臨床工学部兼医療技術部臨床工学科副部長臨床工学技士長）

テーマ：「人工呼吸器管理」

受講者：アドバンスコース 2 名、スタンダードコース 2 名、ベーシックコース 12 名



自由記述より：

・重症患者さんへの対応を的確に行うための how to を学ぶことができた

・グラフィックの正常と異常を見比べることができて、わかりやすく今後のアセスメントに活かせると思った。

・波形を具体的に見れてなかったのでとても勉強になりました

・実際に呼吸器の設定ごとに体験して患者さんがどうしんどいのかや、どうすれば楽にできるのかを実感できたので、臨床でもその経験を活かしてフィジカルアセスメントをしたいと思いました。

・病棟で先輩に教えてもらう内容に補足みたいな形で、新たに知った部分もあったから。

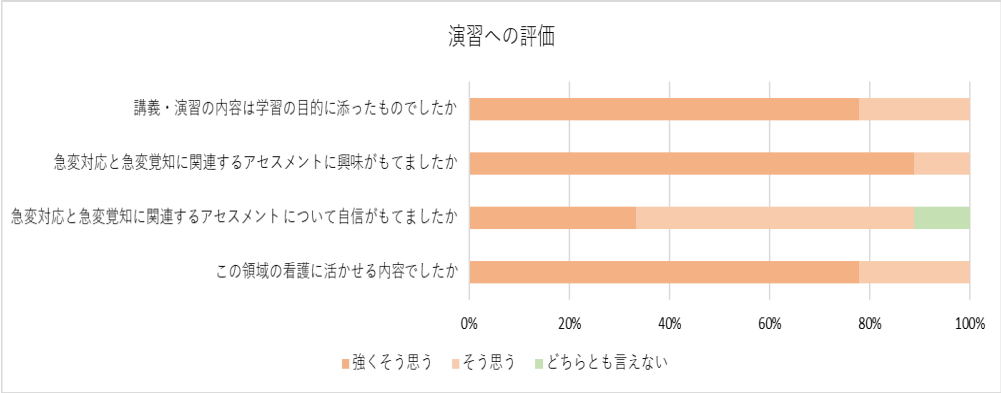
科目名【シミュレーション演習】

日時：2025 年 1 月 17 日（金）17:00~18:00

講師：山田　親代先生（京都府立医科大学医学部看護学科学内講師、集中ケア認定看護師）

テーマ：「急変対応とアセスメント」

受講者：アドバンスコース 2 名、スタンダードコース 2 名、ベーシックコース 12 名



自由記述より：

・さまざまな事例をみて、あらゆる可能性を考える機会となった。

・自身の診療科以外の疾患でのシチュエーションを想定しての演習で普段できない経験ができた

・疾患に基づいたアセスメントができ、全身状態を把握することで見えてくる予測、可能性などを広げていくことを学びました。

・実際の急変対応時は視野や思考が狭くなる傾向にあり、今回の演習も同じであった。周りのスタッフとも協力して、アセスメントや対応をおこなうことの重要性を改めて実感した。

・脳神経外科の病棟では心不全の患者も多いため心不全の患者が急変した時にどのような原因でどうなったのか考えながら急変対応出来て良かったです。何かあった時に行かせれるように頑張ります。

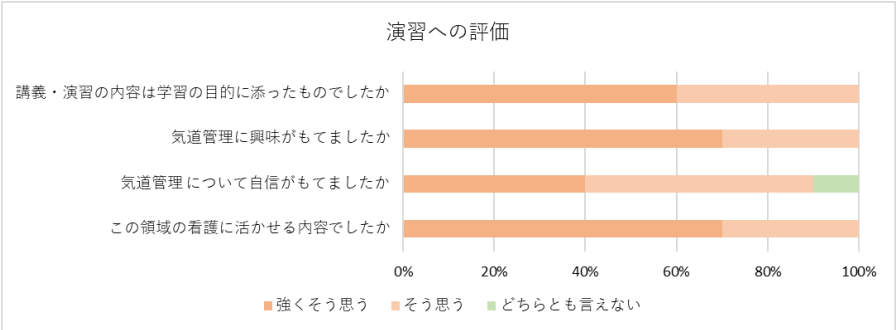
科目名【シミュレーション演習】

日時：2025 年 2 月 14 日（金）17:00~18:00

講師：濵崎　一美　京都府立医科大学附属病院看護師長・集中ケア認定看護師

テーマ：「気管挿管介助と気道管理（口腔ケアを含む）」

受講者：アドバンスコース 2 名、スタンダードコース 2 名、ベーシックコース 12 名



自由記述より：

・冷静に手順を教えてもらえたため

・実際にやってみることで、どのように介助したらやりやすいのか実感することができた。

・挿管管理について講義を受けたことはあるが、今回挿管管理に加え、気道管理の必要性、重要性、内容まで細かく学ばせてもらう機会となった。

・介助だけでなく、実際に挿管できて手技の流れや実際の手技中は手技に集中するため、周りの人が患者の状況を観察しておく必要があると実感した。

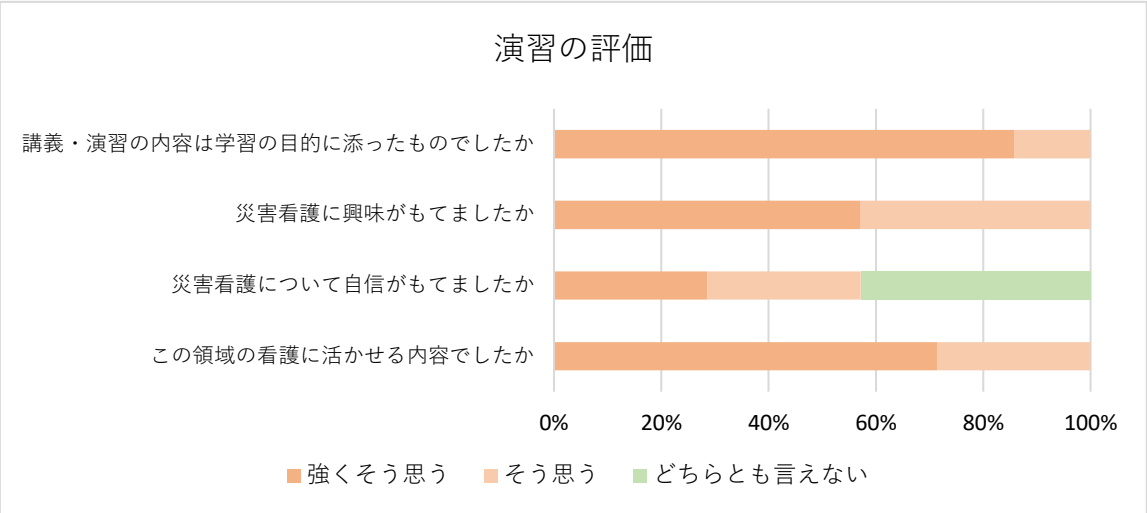
科目名【シミュレーション演習】演習

日時：2025 年 2 月 17 日（月）17:00~18:30

講師：鴨島　尚美先生　京都府災害医療コーディネーター　DMAT インストラクター

テーマ：「災害看護～地震発生時、私たち病棟看護師はどう動く～」

受講者：アドバンスコース 2 名、スタンダードコース 2 名、ベーシックコース 7 名、一般受講者 5 名



自由記述より：

・実戦に則した内容だった。普段からやっていない事は出来ないと、心理的なハードルを下げて貰いつつ、普段やっている事を最大限に生かせるように学習支援して頂いた。

・実際の演習を通して、リーダーとして病棟の患者を避難させることはもちろんだが、メンバーのフォローや必要な情報収集なども担えるようにならないといけないと感じた。近く発生するであろう災害に備えて、自部署内でも避難訓練等検討していきたいと思う。

・とても興味のある講座で、今回の講義の先、新規患者の受け入れや外来への応援なども学べる機会があれば是非参加したいです。

科目名【施設見学実習】済生会滋賀県病院

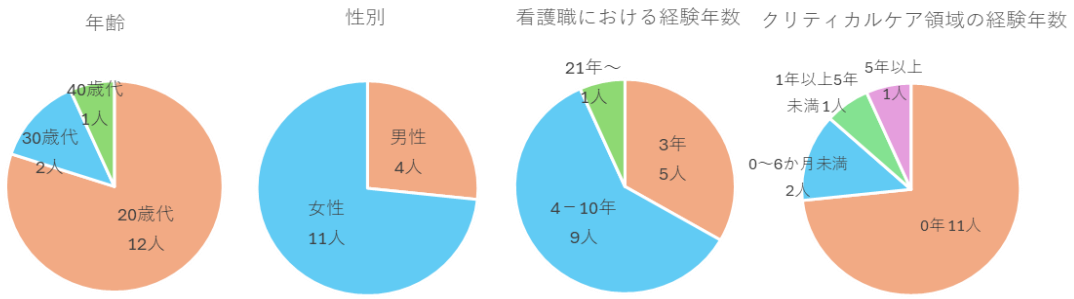
日時：2025 年 1 月 25 日（土）9:00-12:00

講師：越後整先生（済生会滋賀県病院救命救急センター長）

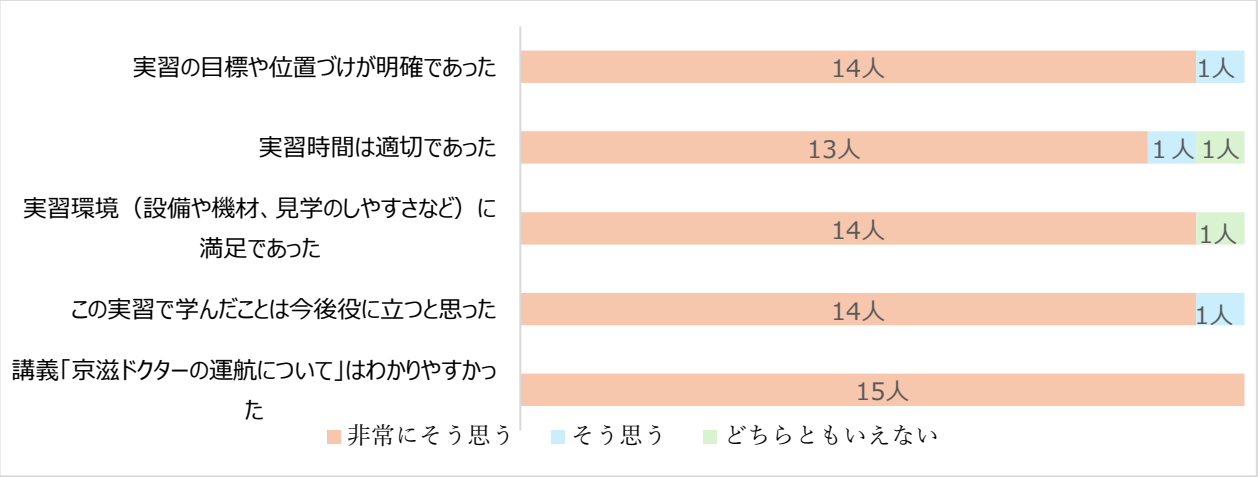
テーマ：「救急医療におけるドクターヘリの役割や運用の実際」

受講者：18 名（うち引率者 3 名）

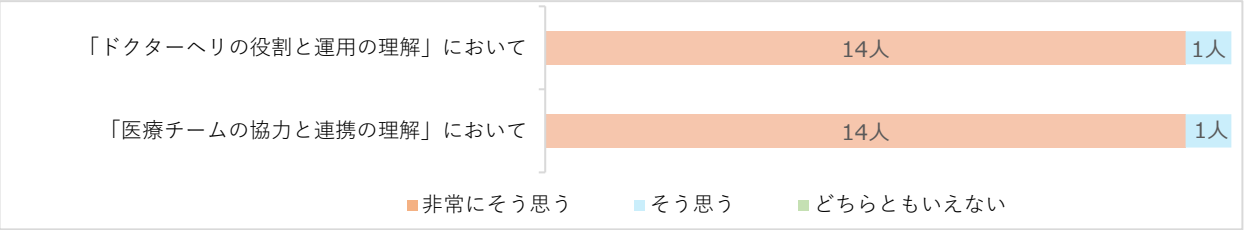
【受講生について】



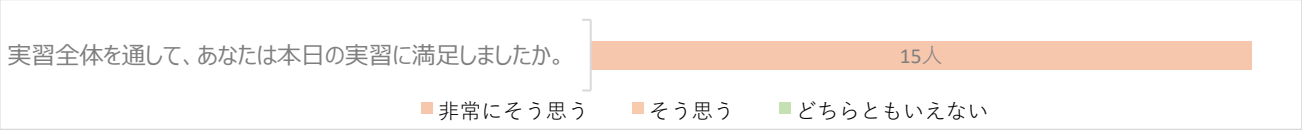
【実習内容について】



【実習の目標達成について】



【実習満足度】



自由記述より：

・現場に行って運ぶまでがドクターヘリの役割と思っていたが講義を受けて患者搬送が二次的な役割であることが印象に残っている。

・普段の環境や慣れたスタッフのいる環境でできること（慣れない環境・スタッフの力でできるためには）コミュニケーション力が大事。

・へき地でのドクターヘリは必要であり京都でもドクターヘリは必要だと感じた。

・人手、物品、時間が限られる中でのコミュニケーション、人間関係、連携が必要だと分かった。

Ⅲ．事業評価総括

１．本事業の実施体制

本事業の開始にあたり、運営体制として事業実施体制を構築した（5 頁参照）。京都府立医科大学看護実践キャリア開発センターを中心に、京都府立医科大学附属病院看護部、京都府立医科大学医学部看護学科と連携し、教育プログラムの作成・実施を進めた。令和 6 年度は附属病院看護師を対象とする教育プログラムであったため、内容のほとんどが附属病院内で完結するものであったが、キックオフ講演会における外部講師の招聘や、ドクターヘリ拠点地見学を実施するなど、病院外で学ぶ機会も設けることができた。令和 7 年度以降の教育プログラムには 4 週間の OJT が含まれるため、京都府内の高度救命救急センター2 か所と救命救急センター6 か所の看護部長・教育担当副部長との打ち合わせを重ね、安全で高い学習効果を得るための実習体制について検討をした。本事業の概要については、京都府健康福祉部医療課、京都府看護協会、京都府医学振興会担当者にも説明に赴き、連携・協力をいただく旨了承を得、万全の体制で事業を開始させることができたと考える。

２．事業の実施内容

令和 6 年度は、附属病院で既に計画立案中であったクリティカルケアナース養成プロジェクトと一部を共有する形で実施した。e-learning を中心とするベーシックコース、e-learning と講義・演習、1 か月の OJT を行うスタンダードコース、e-learning と講義・演習、5 か月の OJT を行うアドバンスコースである。教育内容は、【共通科目】【専門科目】【演習】【実習】の４つの枠組みと選択科目を含む 14 科目にて構成した。e-learning には、特定行為研修にて視聴している全日協 SQUE を用いて、より高度なアセスメント能力・臨床推論を習得できるように計画した。講義と演習では、附属病院における認定看護師、専門看護師、特定行為看護師によるエビデンスに基づく最新のクリティカルケア技術を学ぶ機会を設けた。e-learning にて知識を習得した後に講義・演習を設定したため、段階を踏んだ学習ができたと考える。

令和 6 年 4 月より 3 次救急医療機関となった附属病院では、重症患者に対応できる看護師の養成が急務であったが、院内用のクリティカルケアナース養成プロジェクトと本事業とが共に進行することで、附属病院看護師の重症・救急看護に関する能力向上に寄与できたと考える。病院全体が混乱し、看護師にとっても非常に多忙な中でのプログラム参加であったが、受講生は大変熱心に講義・演習、OJT に参加していた。認定看護師や専門看護師など、スペシャリストから直接指導を受け、日々の看護実践に直結する学びができたこと、スキルスラボで高機能シミュレータを用いた演習を実施したこと、ドクターヘリ拠点地見学や長期間にわたる OJT を実施したことで、クリティカルケアへの関心が一層高まり、今後の看護師としてのキャリアパス形成に影響をもたらすことが期待できる。

３．事業の成果評価

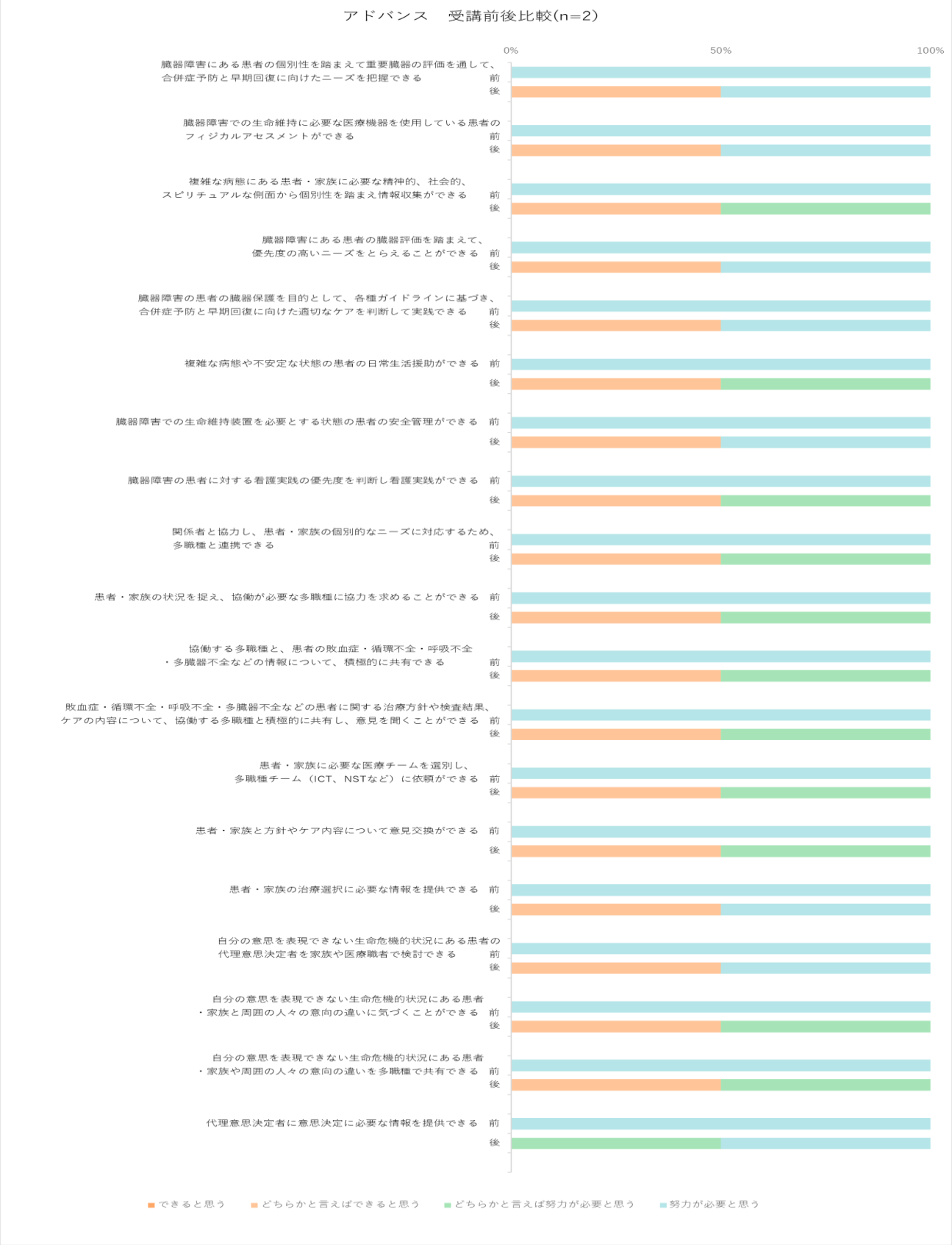
当初、令和 6 年度の受入目標人数を 15 名と設定していた。附属病院のクリティカルケアナース養成プロジェクトと一部を共有したプログラムであったため、アドバンスコース 2 名、スタンダードコース 2 名は決定しており、新たに本事業開催にあたり 12 名の参加者を募り、計 16 名でのスタートとなった。

講義や演習への参加はほぼ完遂できたが、e-learning の視聴が途中で終わっている受講生が散逸していた。計画的に視聴を促す声かけを実施したが、勤務の合間に行う e-learning 継続の困難さがみられた。

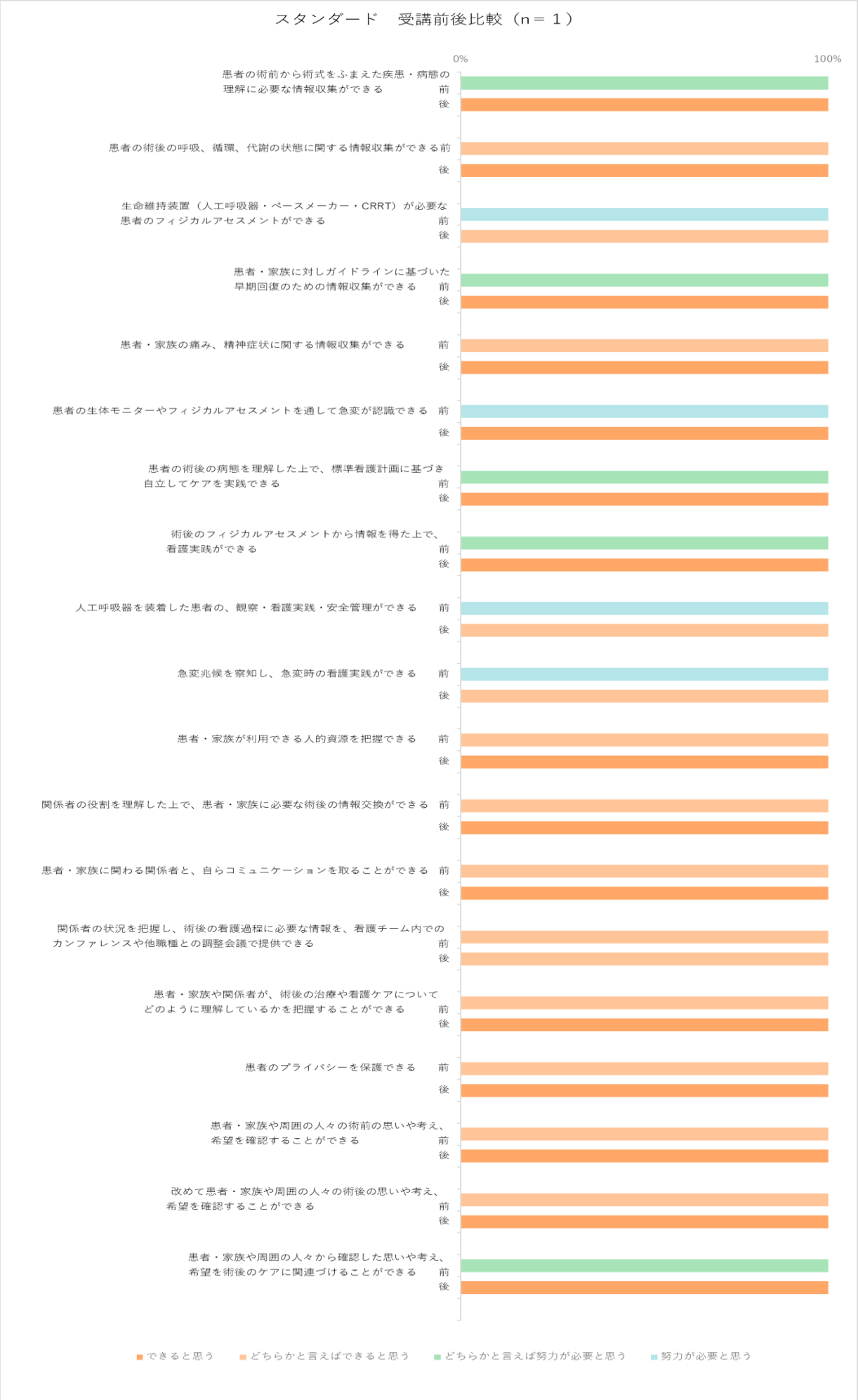
形成的評価では、演習後のアンケートの回収率が低い項目があり、受講生の自己評価を正しく反映させているとはいえない状況にあるが、回答者は概ね「理解が深まった」「看護に活かせる内容であった」と評価していた。自由記述においても、「普段の臨床での実践でわからなかったことを解決できた」「臨床でのイメージがしやすくわかりやすかった」等高い評価が得られていた。

今年度の日本集中治療医学会でのクリニカルラダーレベル到達度を示す。

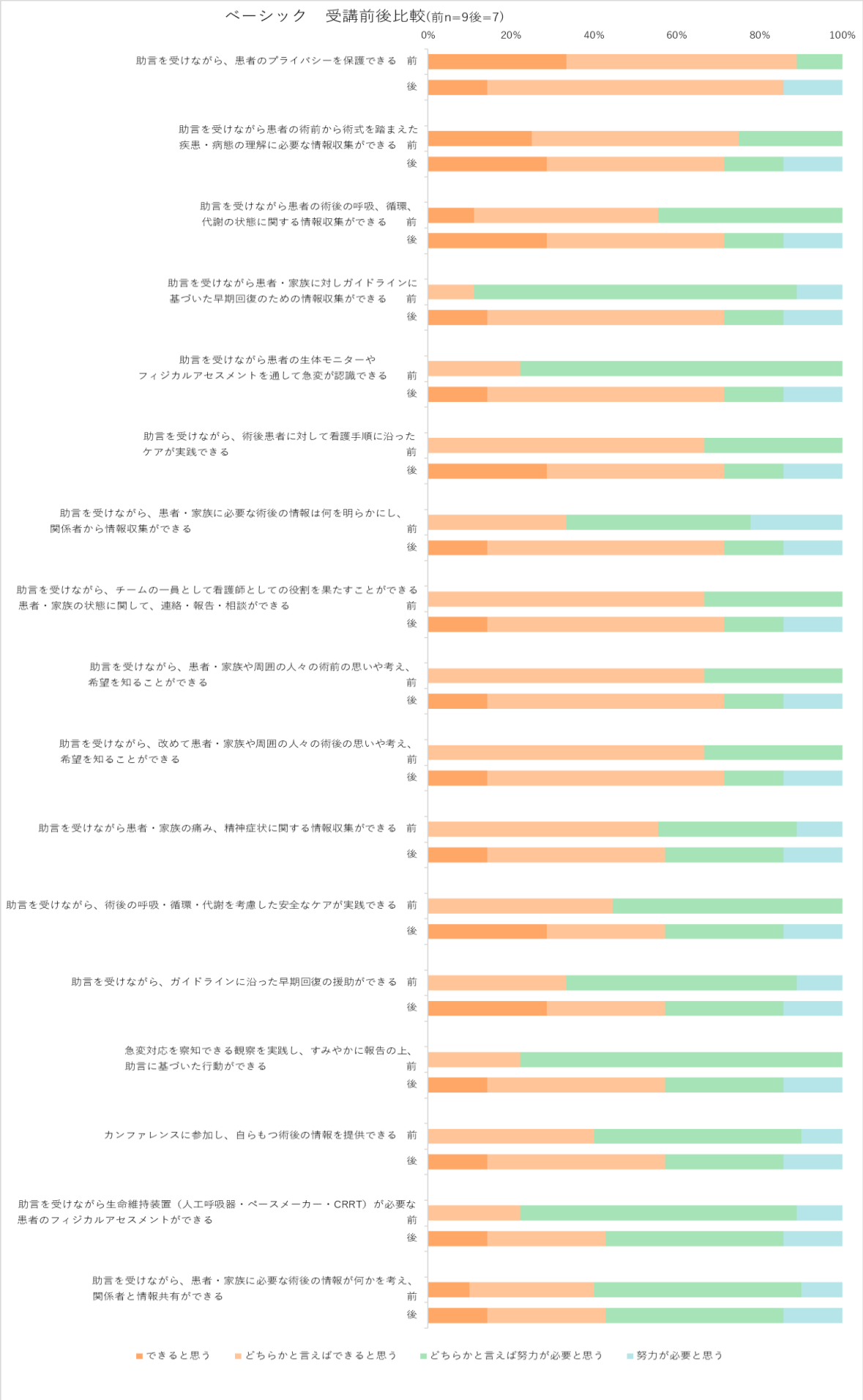
1）アドバンスコース



2）スタンダードコース


スタンダード　受講前後比較（n＝１）
0%
100%
患者の術前から術式をふまえた疾患・病態の理解に必要な情報収集ができる
患者の術後の呼吸、循環、代謝の状態に関する情報収集ができる
生命維持装置（人工呼吸器・ペースメーカー・CRRT）が必要な患者のフィジカルアセスメントができる
患者・家族に対しガイドラインに基づいた早期回復のための情報収集ができる
患者・家族の痛み、精神症状に関する情報収集ができる
患者の生体モニターやフィジカルアセスメントを通して急変が認識できる
患者の術後の病態を理解した上で、標準看護計画に基づき自立してケアを実践できる
術後のフィジカルアセスメントから情報を得た上で、看護実践ができる
人工呼吸器を装着した患者の、観察・看護実践・安全管理ができる
急変兆候を察知し、急変時の看護実践ができる
患者・家族が利用できる人的資源を把握できる
関係者の役割を理解した上で、患者・家族に必要な術後の情報交換ができる
患者・家族に関わる関係者と、自らコミュニケーションを取ることができる
関係者の状況を把握し、術後の看護過程に必要な情報を、看護チーム内でのカンファレンスや他職種との調整会議で提供できる
患者・家族や関係者が、術後の治療や看護ケアについてどのように理解しているかを把握することができる
患者のプライバシーを保護できる
患者・家族や周囲の人々の術前の思いや考え、希望を確認することができる
改めて患者・家族や周囲の人々の術後の思いや考え、希望を確認することができる
患者・家族や周囲の人々から確認した思いや考え、希望を術後のケアに関連づけることができる
前
後
できると思う
どちらかと言えばできると思う
どちらかと言えば努力が必要と思う
努力が必要と思う

3）ベーシックコース



量的・質的に得られた評価を次のプログラムに反映させ、京都府の重症患者に対応できる看護師養成に貢献したい。

４．今後の課題

本事業の課題は、受講生の確保である。附属病院のみならず、地域の医療機関は慢性的に人員不足で外部に看護師を研修に出す余裕のないところが多い。勤務を続けながらプログラムを受講できるよう、オンデマンド科目の設定や、講義・演習の時間帯の工夫を行ったが、令和 7 年度前期受講希望者は 5 名となった。その理由には、医療機関の人員不足の他に、広報の不足や時期の問題（4 月開講は年度末の退職や異動の影響を受け研修に出ることが難しい）がある。令和 7 年度後期に向けては、新聞等の媒体を使って幅広く本事業を周知し、SNS（インスタグラム等）を活用した広報活動を展開していく必要がある。また、京都府看護協会や関係機関にもちらし配布の協力を依頼していく。新型コロナウィルス感染症パンデミックの記憶がまだ新しい今、感染症対応や自然災害時の支援、高齢者の増加により変化する急性期医療のニーズに対応できるよう、学びへの意欲をもつ看護師は多く存在すると考えられる。生涯学習の一環として本事業を選択してもらえるよう、周知していく必要がある。

令和 7 年度は、初めて京都府内の看護師を受講生として受け入れ、4 週間という長期間の OJT を実施する。受講生・キャリアセンター・OJT 協力病院が密に連携し、クリティカルケアナースとして確実にレベルアップできるよう、支援をしていきたい。本事業は、修了後にクリティカルケアナースのネットワークづくりを目標の一つと挙げている。半年毎のプログラムを修了した看護師が、修了後も自施設で後輩看護師の教育に携わり、自身の研鑽を継続できるよう、情報交換会や研修会を開催していくことを目指している。長期的視野のもと、重症患者に対応できる看護師養成プログラムを構築する必要がある。

報告者：京都府立医科大学医学部看護学科　看護実践キャリア開発センター　毛利貴子

3．教育･研究支援連携推進部門

1）　e-learning

【看護学科実績報告】

I.　活動内容

・新入生（23 期生）オリエンテーションにて:e-learning 使用方法説明、ID･パスワードの配布（4 月 5 日）
　使用方法については、パワーポイントによる説明を行った。
・オンラインによる講義や実習･演習に利用推進（4 月～1 月）
・アクセス状況確認、報告書作成（1 月）
・ID･パスワード紛失の対応（随時）
・リニューアル状況の確認と関係者への周知（随時）

II.　看護学科コンテンツ数

・30 アイテム利用可能であるが、20 アイテムの登録がされており、現在 9 アイテムを使用中
・使用領域は、基礎看護学Ⅰ・Ⅱ、成人看護学、小児看護学、在宅看護、老年看護学、母性看護学･助産学Ⅰ～Ⅳ

III.　利用件数

看護学科生･教員利用者数は表 1 のとおりである。

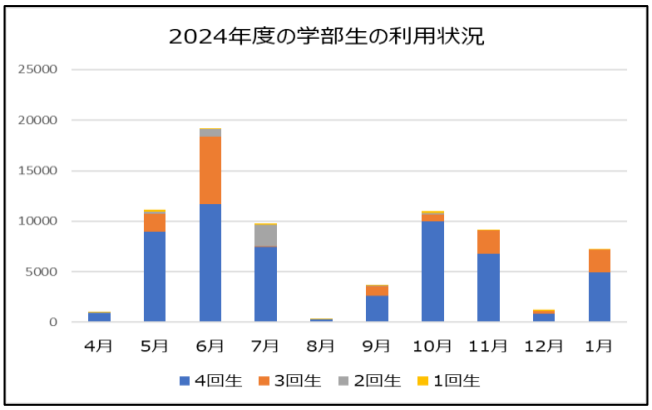
表1 看護学科学生･教員月別利用状況　　(利用件数)

アクセス数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	合計
2021（R3）	1,087	5,715	5,177	1,871	382	2,125	5,424	5,177	1,889	3,842	32,689
2022（R4）	2,245	4,505	2,525	2,894	469	1,362	6,555	4,144	1,947	4,501	31,147
2023（R5）	593	4,921	3,656	4,995	223	1,184	4,055	3,895	395	2,546	26,463
2024（R6）	303	4,041	8,065	2,446	70	1,433	5,901	2,857	443	2,381	27,940
4回生（20期生）	896	8,962	11,721	7,441	293	2,617	9,956	6,752	838	4,927	8,041
3回生（21期生）	19	1,752	6,632	75	17	968	723	2,326	299	2,233	15,044
2回生（22期生）	38	210	772	2,114	18	31	131	13	0	6	3,333
1回生（23期生）	33	222	94	162	9	22	195	114	126	122	1,099
教員	13	80	84	52	0	58	73	25	18	20	423

IV．コンテンツ閲覧数：看護学学生 1－4 回生

手技の視聴は経腸栄養：経鼻胃管（1013）食事援助（979）母性看護学･助産学Ⅱ（948）ストーマ装具交換（人工肛門）（873）食生活支援（829）経腸栄養：胃ろう（798）の順に多くアクセスされていた。動画講義の視聴は、バイタルサインの評価（419）看護補助者対象講義～実践編～（53）感染対策の具体-すぐに役立つ 10minutes レクチャー（14）迅速なフィジカルアセスメントで行う急変予測と対応　(8) 看護記録～基礎編～（8）の順で多かった。

＜表２：2024 年４月～2025 年１月 31 日現在 ＞



V．まとめ

・ ログイン ID 再発行以外の利用者からの問い合わせはなく、円滑に運営できている。
・ 昨年度に比べて 1477 件視聴回数の増加がみられる。コンテンツは随時更新され e-ラーニングの内容が充実しているため、授業の事前課題として計画するなど活用を推進していく必要がある。特に、1 回生の利用者数はきわめて少ないことから、担任と連携し促していく様にする。＜表２＞

報告者：京都府立医科大学医学部看護学科　看護実践キャリア開発センター　越智　幾世

【附属病院「e-learning」実績報告】

Ⅰ．活動内容

1）新規採用看護師に対し、e-learning の使用方法を説明した。

2）院内研修の受講者向けに、事前学習や講義の一環として e-learning を活用した。

3）次年度から導入予定である新キャリアラダーに対応した教育プログラムに、e-learning を組み込んだ。

4）看護補助体制充実加算に伴い、全看護師を対象に e-learning の受講を推進した。

Ⅱ．利用件数及び閲覧状況

	年度	講義動画	手技動画
全看護師総アクセス数	2024 年度	10297	14954
	2023 年度	53093	16937

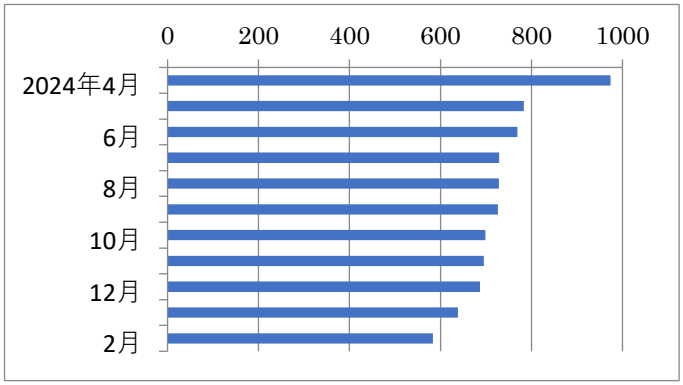


図１　2024 年度講義動画視聴件数　（件）

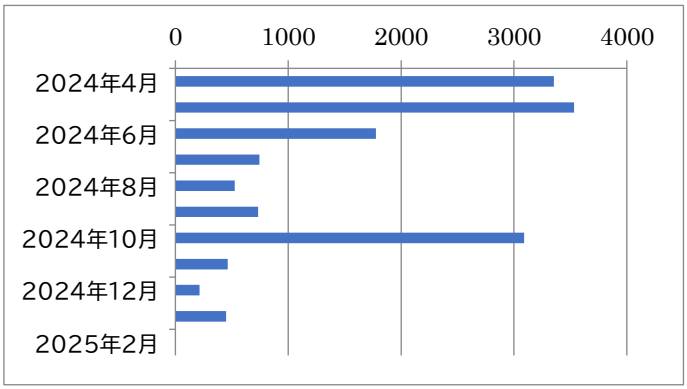


図２　2024 年度手技動画視聴件数　（件）

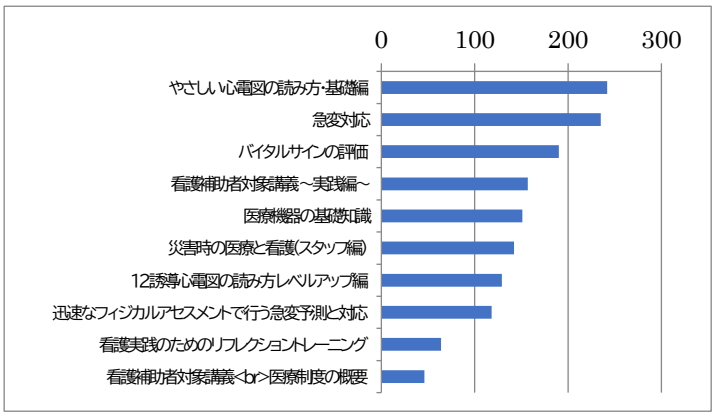


図３　2024 年度テーマ別動画講義視聴件数上位　（件）
（看護補助体制充実加算に伴う研修除く）

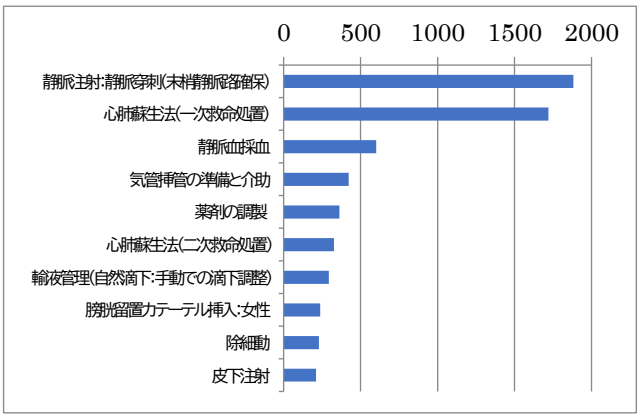


図４　2024 年度テーマ別手技動画視聴件数上位　（件）

Ⅲ．まとめと今後の課題

昨年度、看護補助体制充実加算に伴い、e-learning の受講を全看護師に必須としたことで、受講が昨年度に集中した。このため、昨年度と今年度の講義動画の視聴件数に大きな差が生じている。また、1 年目･3 年目の看護師に対しては、院内研修の事前学習や研修中のプログラムに e-learning を組み込んだことで、視聴件数の増加に影響を与えたと考えられる。

次年度からは、新キャリアラダー導入予定であり、各ラダーレベルに応じたテーマの動画視聴を教育プログラムに取り入れる予定である。新キャリアラダーの導入を機に、全看護師が e-learning を効果的に活用できる環境を推進していきたい。

報告者：京都府立医科大学附属病院看護部（田中真紀･神澤暁子･宇山珠美）

【北部医療センター 「e-learning」 実践報告】

【活動内容】

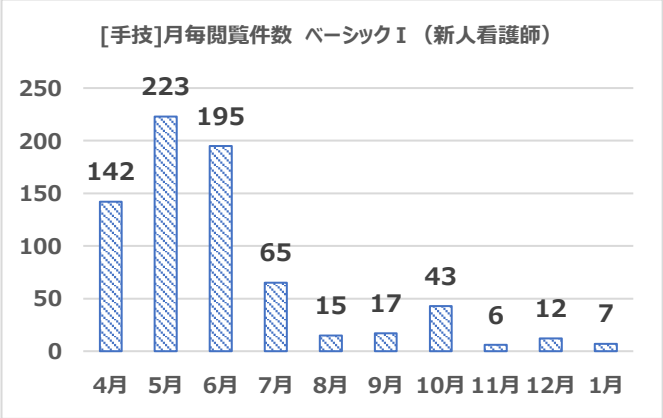
1）新規採用者（看護職員・看護補助者）に対し e-ラーニングの使用方法を説明した

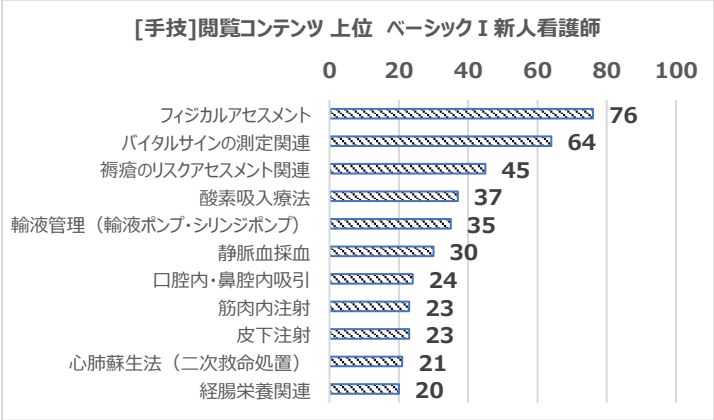
2）看護職員の院内研修で研修講義の事前学習・事前課題として活用した

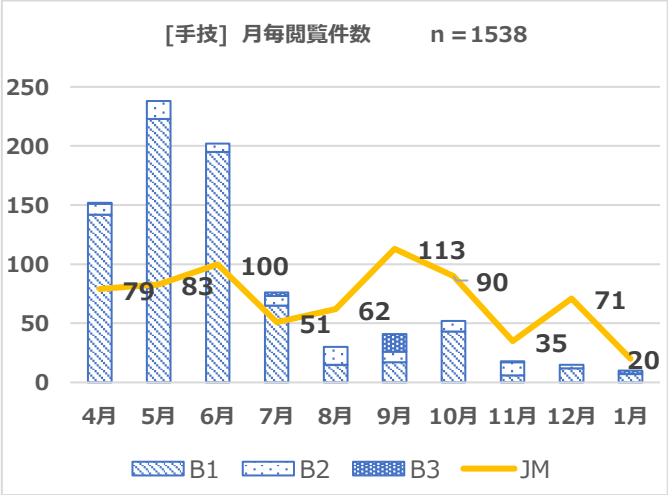
3）看護補助者の指導用マニュアルとして活用した

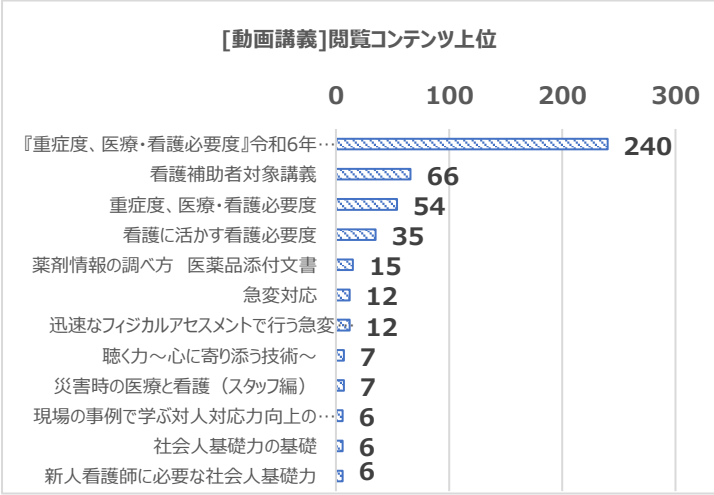
【利用件数　閲覧状況】令和６年４月～令和７年１月

	総アクセス件数（R6 年度）
ベーシックⅠ（B1）新人看護師	725 件
ベーシックⅡ（B2）	86 件
ベーシックⅢ（B3）	23 件
ジェネラリスト　マネジメント（JM）	704 件
看護補助者	18 件
総アクセス件数	1556 件









【まとめ　今後の課題】

新人看護職員は４月から６月の利用が集中し、主に、基本看護技術の閲覧が多かった。またベーシックⅠ研修の事前、事後課題としての利用や学習ツールとしての活用を継続した。また、看護補助者を対象とした講義の利用が増加した要因としては、指導者用マニュアルとしての利用や、看護補助者による業務手順の確認のための利用が増えたことがあげられる。今後、さらなる活用を推進するために、研修内の事前事後課題としての利用に加え、ジェネラリストの活用の推進、病棟異動者への教育指導や看護補助者の技術教育への活用を継続して推進していく。

報告者：京都府立医科大学附属北部医療センター　　白數多恵子

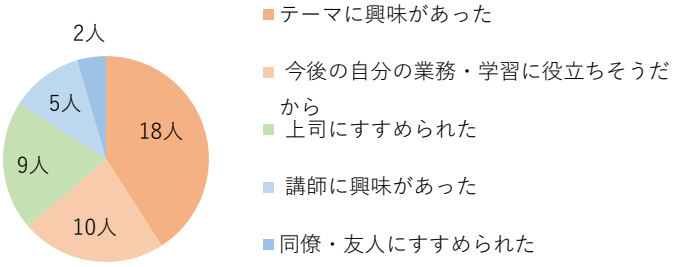
2）看護職キャリア交流会

1． 目的：看護管理の基本を学び、人材育成における組織および看護管理者の役割について機会とする
2． テーマ：「看護管理ことはじめ」
3． 対象：京都府内医療機関の看護職および医療関係者
4． 開催日時：2024 年 11 月 9 日（土）13 時～15 時 30 分
5． 会場：京都府立医科大学看護学舎大講義室
6． 企画運営者：毛利、宮田、滝下、田中、越智、原田、濵崎（敬称略）
7． タイムスケジュール

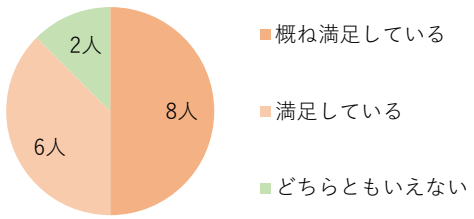
13:00～13:15	開催挨拶　：京都府立医科大学　学長　夜久　均
13:15～14:55	主旨説明挨拶：京都府立医科大学看護実践キャリア開発センター センター長　毛利貴子 【第 1 部講演】 講演「看護管理の基本と人材育成」 京都府立医科大学　大学院保健看護学研究科　看護倫理・看護管理学 教授　宮田　千春
15:15～16:40	【第 2 部ワークショップ】 ワークショップ:テーマ「人材育成の課題について情報共有し解決策を模索しよう/看護管理者のキャリア開発支援とスタッフのキャリア発達の視点から」 参加者の所属施設の人材育成における課題について意見交流の場とした。4 グループに分け、課題の抽出とそれに対する解決策についてディスカッションをした。 ブースA　ファシリテーター：看護実践キャリア開発センター　師長　濵崎　一美 ブースB　ファシリテーター：京都府立医科大学　大学院保健看護学研究科　原田　清美 ブースC　ファシリテーター：看護実践キャリア開発センター　副センター長　越智　幾世 ブースD　ファシリテーター：京都府立医科大学　大学院保健看護学研究科　宮田　千春
	閉会挨拶　：京都府立医科大学医学部看護学科　学科長　吉岡　さおり

8． 参加状況：受講者：30 名（講演 30 名、ワークショップ 26 名）
9． アンケート結果：回答者：19 名（回答率　63%）
1） 所属：アンケート回答者の内訳は、京都府立医科大学附属病院　11　人（57.8%）他施設の医療機関　7　人（36.8%）であった。訪問看護ステーションからの参加もあった。
2） 職種：看護師が 17 人（89.4%）、学生 1 人(5.2%)、臨床工学技士 1 人（5.2%）等であった。
3） 参加動機：「テーマに興味があった」18　人（40.9%）、次いで、「今後の自分の業務・学習に役立ちそうだから」10 人(22.7%)であった。交流会全体の満足度について「おおむね満足している」「満足している」で 85%を超えた。

参加動機（複数回答）

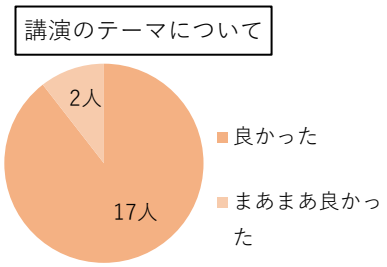


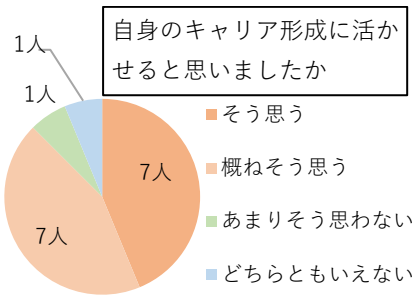
交流会全体の満足度



4)　講演会について（n＝19）

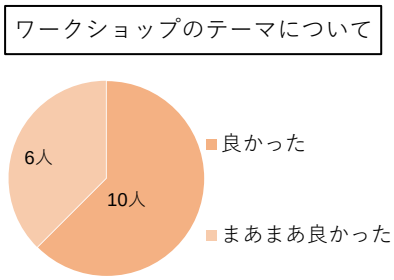
講演テーマの選定では「良かった」が 89.4%であり、講演内容に関しては、「わかりやすかった」が 73.6%、講演時間についても「ちょうどよかった」が 68.4%と高評価であった。また、自身のキャリア形成に活かせると思いますかについては、「そう思う」が 68.4%、「概ねそう思う」が 21%を占めた。

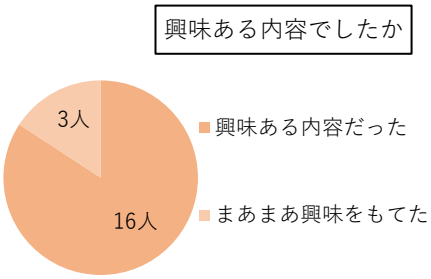




5)　ワークショップについて（n＝16）

テーマおよび内容について、全員が「良かった」もしくは「まあまあよかった」と高評価であった。





【自由記載の内容】

・是非次回の看護管理テーマの講演にも参加させていただきたいです。看護管理者が思い悩む事象を理論を基に整理し、事象の分析や解決策等に結びつけられたらと思います。現場で悪戦苦闘している看護師長たちの良き理解者であり、相談相手になれるよう研鑽に努めたいと考えております。本日は誠にありがとうございました。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

・講義が早口でスピードが早かったので、もう少しゆっくりしっかり聞きたかったです。ワークショップは司会を決めていたけれど、最後まで導き出せるようファシリがリードされてもよかったのかなと思います。

・講義はとてもわかりやすく、聴きながら色々な場面が頭に浮かび、反省点や改善点が理解できたように思います。ワークショップでは、他施設での課題や取り組みを聞くことができとても有意義でした。

・わかりやすく講義とワークショップですぐに実践に活かせそうだと思いました。ありがとうございました。

・自身の今の悩みにピンポイントにあった内容であり、とても多くのヒントをいただけるご講義を聞くことが出来ました。もっと、詳しくご講義を聞きたいと思いました。ワークショップでは、同じような立場の方々と同じような悩みを共有し、共感を得られることが出来ただけでも救われたような思いになりました。現状をすぐに打破することは難しいですが、日々、自身のできる範囲で試行錯誤していきたいと思います。また、このような機会があれば参加していきたいと思います。本日は、とても貴重なご講演を受ける機会が得られたことに感謝の思いでいっぱいです。ありがとうございました。

・講義の内容はもう少し深く学びたい。ワークショップの内容が出席者の現状と合っていない。

・会場も広くてとても参加しやすかった。

・ワークショップを行う事によって、考え方が広がり、具体的な方法等も良く解り、とても参考になりました。ありがとうございました。

・キャリア支援の考え方の足掛かりになり、よかったです。他の病院とのディスカッションも参考になりました。

・先生のお話をもう少しお聞きしたかったです。時間がなくて短縮されたところは、資料をいただければありがたいなあと思いました。

・他施設の師長さんの管理の考え方などを知れて勉強になりました。

10.　今年度の課題と今後の展望

○　課題：研修内容については高評価であったが、多くの内容を盛り込みすぎた。もう少しテーマを絞ってより理解できるような丁寧な説明が必要であった。

展望：次年度のテーマについては、臨床の看護職のニーズを踏まえ、看護管理の視点から看護の質の向上に向けたテーマを検討していく。

○ 課題：グループワークの導入やファシリテートに改善の必要性がある。

展望：グループワークの導入時の目的や進行要領、使用する資料などを丁寧な説明を実施する。ファシリテーター間での事前打ち合わせにおいて、ファシリテート時の注意点や認識の統一を図り、円滑かつ有益なワークショップを目指す。

報告者　京都府立医科大学医学部看護学科　看護実践キャリア開発センター　宮田千春

4.評価プロジェクト部門

【評価プロジェクト部門　活動報告】

Ⅰ.　評価プロジェクト部門の役割

■キャリアセンターの設置目的に照らし、キャリアセンター事業の評価を担う

① 各プログラムの成果評価

② アドバイザリーボード委員会の開催

③ 事業全体の評価

Ⅱ．今期の活動

1）法人中期計画内容に従い、評価

2）2024 年度　評価ブリーフレポートの作成

3）新規事業：ProjectKPUM 重症患者に対応できるジェネラリストナース養成プロジェクト評価計画策定支援

4）事業評価概要表の作成

Ⅲ．事業評価概要表

部門	事業名・活動内容	評価方法	評価内容		評価時期
			管理機能評価	教育アウトカム評価	
キャリアパス構築	キャリアパス全体構想	ドキュメント評価：委員会報告、事業報告書他	法人第3期計画進捗評価 センター目標、事業進捗の管理 事業評価表（基本項目6件、細項目9件）項目の点検、		年度当初、センター運営会議時、年度末他
	キャリアセンター将来構想				
教育プログラム開発・運営部門	看護学科キャリア教育	質問紙調査（授業評価） 授業時の意見交換他		学習目標到達度 学習内容	授業時毎
	看護倫理ベーシック研修	質問紙調査 グループ討議内容	属性　参加動機　研修満足度　講演内容評価　研修運営評価	グループ討議発表内容 自由記載内容	研修終了時
	臨地実習指導に携わる看護師のための支援研修	質問紙調査 グループ討議内容 レポート評価	研修内容　研修時間　満足度	実習指導上の困難感尺度 研修終了後レポート グループワーク内容 質問紙の自由記述	授業時毎 研修終了時
	看護専門分野別講座	質問紙調査 テスト（対面演習時） 受講者数調査 スキルチェック表	属性　参加動機　講座情報取得方法　講義・演習満足度　講義内容評価　講義運営 受講者数（テーマ別、所属別、月別）	ミニテスト　スキルチェック表　自由記載	講義、演習終了時　視聴終了時毎
	看護研究支援研修	質問紙調査	属性（参加動機　研究経験研究の予定　研究への思い）　満足度　講義内容評価　研修運営　研修難易度	研修内容の理解度　目標到達度　自由記述内容	授業時毎
教育・研究支援連携推進部門	e-learning整備・活用	利用実績評価	コンテンツ視聴件数 コンテンツ種別視聴件数 所属別利用者数 月別視聴動向		センター運営会議時、年度末他
	看護職キャリア交流会	質問紙調査 グループ討議内容	属性　参加動機　研修満足度　講演内容評価　研修運営評価	属性　参加動機　研修満足度　講演内容評価　研修運営評価	交流会終了時

（続き）

部門	事業名・活動内容	評価方法	評価内容		評価時期
			管理機能評価	教育アウトカム評価	
教育・研究支援連携推進部門	研究支援の調整（研究サポート）	研究進捗、研究発表他のチェック			随時
評価プロジェクト部門	各プログラム成果評価	評価ブリーフレポート収集	事業・活動別統括評価表（ブリーフレポート）：対象・キーワード・計画・実践・評価方法・成果・課題、今後に向けての項目に分け短報記載		センター運営会議時、年度末他
	評価委員会の開催	ドキュメント評価	会議録内容の類型化		
	事業全体の評価	15項目評価素点抽出	評価表（1点～4点）評価者平均を算出　評価者コメントの類型化		
委託事業	特定行為研修教育課程	質問紙調査 OSCE テスト・ミニテスト	授業・教材・実習における16項目の尺度評価 自由記述内容	OSCE筆記テスト 症例記録　尺度の一部	授業毎 OSCE終了時 課程終了時
	スキルスラボ管理・整備	利用実績調査	利用者数　利用者属性　利用目的　シミュレーター別利用件数、備品別、月別利用件数		センター運営会議時、年度末他
Project KPUM： 重症患者に対応できるジェネラリストナース養成プロジェクト		質問紙調査 レポート	属性　参加動機　講義・演習満足度　講義内容評価 講義運営他	日本集中治療医学会のクリニカルラダーレベルによる到達度評価	研修終了時

Ⅳ．まとめ

評価プロジェクト部門では、「キャリアセンターの設置目的に照らし、キャリアセンター事業の評価を担う」とする部門役割に鑑み、今期は新規事業の評価体制の構築を行った。

今期から「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業（社会的な要請に対応できる看護師の養成）Project KPUM～重症患者に対応できるジェネラリストナース養成プロジェクト～」が始まった。今期は、附属病院看護師を対象とする教育プログラムを作成、実施した。教育プログラムの効果を測定する評価指標として、日本集中治療医学会のクリニカルラダーレベルを取り入れ、到達度を評価した。結果は現在分析中であるが、ベーシックコース、スタンダードコース、アドバンスコースにおいて到達度の上昇が期待できる。

次年度より、Project KPUM は京都府内の看護師を対象とし、実践コース・学習コースと教育内容も変更して展開する。教育プログラムの評価については適宜検討し実施していく予定である。また、キャリアセンター事業の中間評価に備え、各部門での事業評価も進めていく。

報告者：京都府立医科大学医学部看護学科　看護実践キャリア開発センター　滝下幸栄

Ⅲ. 委託事業

1．特定行為研修

本研修は 2019 年度に厚生労働省より看護師特定行為研修指定研修機関の指定を受け、2020 年度に外科術後病棟管理領域コースの研修を開始し、2021 年度には術中麻酔管理領域コースの研修を開始した。さらに、2022 年には、厚生労働省教育訓練給付制度 専門実践教育訓練講座の指定を受けることができた。今年度は 2 領域コースの併用開催 4 年目となった。また、今年度の修了生を含め、外科術後病棟管理領域コースは 10 名、術中麻酔管理領域コースは 14 名、計 24 名の特定行為研修修了看護師を輩出することになる。

Ⅰ．研修生　外科術後病棟管理領域コース　5 期生　1 名
　　術中麻酔管理領域コース　　4 期生　1 名

Ⅱ．年間研修スケジュール

2024 年 4 月 3 日	開講式
～8 月 27 日	・e-ラーニング受講 ・スクーリング（共通科目：6 月、区分別科目：8 月） ・科目修了試験 ・解剖学実習
9 月 7 日	・OSCE 外科術後病棟管理領域コース：5 行為 術中麻酔管理領域コース：3 行為
2024 年 10 月 1 日～ 2025 年 2 月 7 日	・臨地実習 外科術後病棟管理領域コース：23 行為 術中麻酔管理領域コース：14 行為
2025 年 3 月 5 日	特別講義（役割についてのプレゼンおよび実習終了後の手順書の見直し）
	閉講式（PM）

Ⅲ．研修内容について

1．　e-ラーニング

1）　共通科目 192 時間に加え、区分別科目は、外科術後病棟管理領域コースでは 143 時間、術中麻酔管理領域コースでは 79 時間であった。術中麻酔においては NPPV を研修から削除したことで 4 時間学習時間が減少した。

2）　共通科目において、4 月は病院の業務に携わりながらの受講であったが、期日までに修了することができていた。

3）　毎週、進捗状況を報告してもらいサポートを行ったが、就労しながらの学習は辛いとの報告も受けていた。

2．　スクーリング

1）　1Ｆカンファレンスルームにて、共通・区分別科目すべて対面で行った。

2）　演習の症例検討等においては、研修生に予め事前課題として提示し、講義時間の短縮化と医師の説明時間の充当に努めた。

3）　今年度初の取り組みとして、区分別科目「侵襲的陽圧換気の設定の変更」を修了生にて教授していただいた。

4）　腹部や胸部のシミュレーターを使用し、フィジカルアセスメントにおいて演習を通して学べるように整えた。

3．　科目修了試験

1）　共通科目の試験日程：共通科目は 6 科目であった。再試験の該当者はなかった。

日程	科目
6 月 24 日	臨床病態生理学、医療安全学/特定行為実践、疾病・臨床病態概論
6 月 25 日	臨床推論、フィジカルアセスメント、臨床薬理学

2）区分別科目の試験日程

区分別科目においては、外科術後病棟管理領域コースは、13 科目、術中麻酔管理領域コースは 6 科目であった。再試の該当者はなかった。

日程	コース	科目			
8月21日	外科術後病棟管理領域	呼吸器（気道確保に係るもの）関連+術後疼痛管理関連	呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連	循環動態に係る薬剤投与関連	
	術中麻酔管理領域	呼吸器（気道確保に係るもの）関連+術後疼痛管理関連	呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連	循環動態に係る薬剤投与関連	
8月22日	外科術後病棟管理領域	胸腔ドレーン管理関連	呼吸器（長期呼吸療法に係るもの）関連+腹腔ドレーン管理関連	栄養に係るカテーテル管理（中心静脈カテーテル管理）+栄養に係るカテーテル管理（末梢留置型中心静脈注射用カテーテルカテーテル管理）	創部ドレーン管理関連+心嚢ドレーン管理関連
8月23日	外科術後病棟管理領域	動脈血液ガス分析関連	栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連		
	術中麻酔管理領域	動脈血液ガス分析関連	栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連		

4. OSCE

1） 外科術後病棟管理領域コースは 5 行為、術中麻酔管理領域コースは 3 行為について行った。2 名とも高評価で合格できた。

2）自己研鑽ができるようにスキルスラボの環境を整え、看護部の協力を得て、研修修了生から直接指導を受けられるように調整、リハーサル指導も行った。

3）PICC においては、事前に業者における講義と演習を実施した。

4）OCSE 当日はシミュレーターの準備に不備が無い様にメーカーの方のサポートを得え、トラブルに備えて、待機をしてもらった。

5. 臨地実習

1） Wi-Fi ルーターを取り付けてネット環境や、研修生 2 名分の電カル PC、プリンター、ホワイトボード等、実習環境を整えた。

2） キャリアセンター専任師長と協働し、実習のサポート体制を整えた。

3） スキルの研鑽が随時できるように、カンファレンスルームにシミュレーターを設置した。

4） 実習時間については、術中麻酔は 8 時から 16 時、外科術後は 9 時から 17 時とし、多少の時間のスライドは可と伝えた。最も遅くなったのは 20 時で手術室での行為であった。麻酔からの離脱については実習時間内での症例に関わるようにできていた。

5）同意取得は研修生主体で行ったが、特に問題なく行え、拒否される患者はいなかった。

6） リスク管理においては、侵襲を伴う特定行為に関わった場合、研修生はオリエンテーションに基づき、実施後当日、さらに翌日も異常がないことを確認するよう指導し、トラブルは無かった。PICC 留置の際には、必ず尺側皮静脈からのアクセスのみ穿刺する様に伝え、誤挿入は無かった。

7） 実習におけるオプションとして、手術室麻酔器の説明（研修医の説明時に参加）、循環器の勉強会の機会を設けた。NST カンファレンス・ラウンドの参加・同行は PICU で行った。

8）症例習得に要した期間は、術中麻酔管理領域コースは 3 か月半、外科術後病棟管理領域コースは 4 か月であった。臨地実習の実際については以下にまとめる。

① 実習期間：2024 年 10 月 1 日~2025 年 2 月 7 日

実習開始は 10 月 1 日からであったが、指導して頂く先生方へは事前に挨拶にいく様にスケジュールを立て、初日から実習が稼働する様にした。1 月初旬には術中麻酔管理領域コースの研修生は修了できた。症例は 5 症例で概ね修

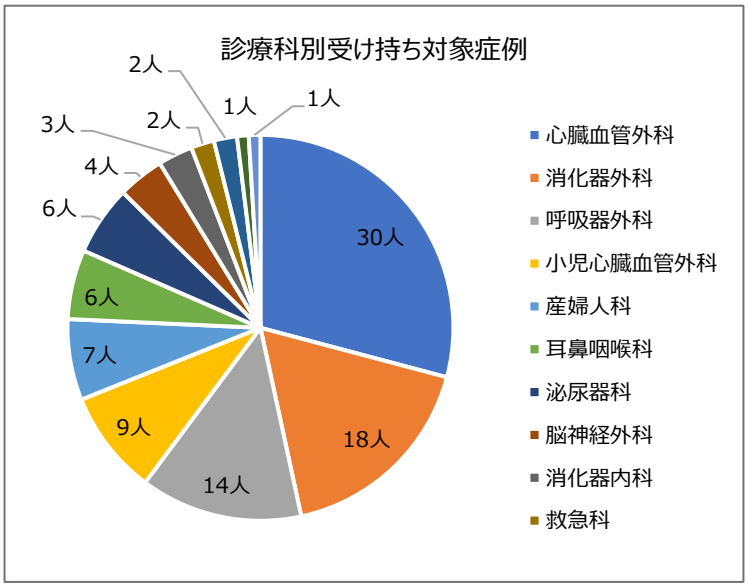
了できたが、スキル研鑽の目的にて動脈ライン確保においては 1 症例、PICC 留置は 2 症例、心嚢ドレーン抜去は 1 症例追加した。

② 実習場所

コース	外科術後病棟管理領域	術中麻酔管理領域
特定行為数	13 領域 2 3 行為	6 領域 13 行為
実習場所	ICU PICU HCU EICU 循環器センター 消化器センター 呼吸器外科病棟 泌尿器科 耳鼻咽喉科 中央手術部 放射線診療部 救急外来	中央手術部 ICU HCU PICU EICU 呼吸器外科病棟 消化器センター 女性センター

③ 対象症例

症例は延べ数で 103 名であり、男性は 70 名、女性 33 名、年齢は 0 歳から 90 歳であり、年齢中央値は 70 歳であった。0 歳の疾患は総肺静脈還流異常、90 歳は胸部大動脈瘤であった。受け持ち診療科においては、昨年と同様に、心臓血管外科と消化器外科で約半数を占めていた。今年度の特徴は、研修生の背景が影響しており、小児心臓血管外科の症例が 4 番目に多かった。



Ⅳ. 研修のアンケート結果

実習終了時点でアンケート調査を行った。アンケートの回収率は 100%であった。

1. 授業・教材・実習についての尺度による評価

16 項目について尺度 1～9 で評価をしてもらい、平均値を明示した。表の＊1~4 については次のとおりとした。

＊1：e-ラーニングについての授業・教材評価

＊2：スクーリングについての授業・教材評価

＊3：OSCE についての授業評価

＊4：臨地実習に関しての実習評価

〈結果〉スクーリングと臨地実習では高スコアーであったが、e-ラーニングでは高スコアーは得られなかった。例年と比較すると今年度は臨地実習で高スコアーであった。自身の目標が明確できていることでより積極的に興味を持って実習に取り組んでいたことが結果からも判断できる。受講上の 4 段階評価においては、OSCE の運営において「あまり適切ではなかった」と評価していた。OSCE についての授業評価から見ても興味についてはどちらともいえないレベルであることから、OSCE のすすめ方などの改善が必要と考える。

		非常に			どちらとも言えない					非常に		*1	*2	*3	*4
1）	つまらなかった	1	2	3	4	5	6	7	8	9	面白かった	6.5	9	6	9
2）	眠くなった	1	2	3	4	5	6	7	8	9	眠くならなかった	6.5	9	7	9
3）	好奇心をそそられなかった	1	2	3	4	5	6	7	8	9	好奇心をそそられた	6	9	7.5	9
4）	マンネリだった	1	2	3	4	5	6	7	8	9	変化に富んでいた	5.5	9	6.5	9
5）	やりがいがなかった	1	2	3	4	5	6	7	8	9	やりがいがあった	8	9	7.5	8.5
6）	自分には無関係だった	1	2	3	4	5	6	7	8	9	自分に関係があった	8.5	9	8.5	9
7）	どうでもいい内容だった	1	2	3	4	5	6	7	8	9	身に着けたい内容だった	8.5	9	8.5	9
8）	途中の過程が楽しくなかった	1	2	3	4	5	6	7	8	9	途中の過程が楽しかった	8	8	6.5	8
9）	自信がつかなかった	1	2	3	4	5	6	7	8	9	自信がついた	6	7	7	8.5
10）	目標があいまいだった	1	2	3	4	5	6	7	8	9	目標がはっきりしていた	6.5	7	7.5	9
11）	学習を着実に進められなかった	1	2	3	4	5	6	7	8	9	学習を着実に進められた	6.5	6.5	7.5	8.5
12）	自分なりの工夫ができなかった	1	2	3	4	5	6	7	8	9	自分なりの工夫ができた	5.5	5.5	8	8.5
13）	不満が残った	1	2	3	4	5	6	7	8	9	やってよかった	8.5	8.5	8.5	7
14）	すぐに使えそうもない	1	2	3	4	5	6	7	8	9	すぐに使えそうだ	7	7	8.5	8
15）	できても認めてもらえなかった	1	2	3	4	5	6	7	8	9	できたら認めてもらえた	7	7.5	8.5	8
16）	評価に一貫性がなかった	1	2	3	4	5	6	7	8	9	評価に一貫性があった	6.5	7.5	8	7

2．受講上の感想

1）e-ラーニングについて

・孤独な学習であるため、気分転換が難しかったです。業務と並行して実施した時期もありましたが、8 時間/日分を学習に充てることは、集中力の持続が難しく、5- 6 時間／日 程度で学習するのが程よいペースだと感じました。
・基礎講座の内容も非常に勉強になりました。
・区分別の方は、外科術後領域の方が受講数も多く復習したい部分も多々ありました。

2）スクーリングについて

・医師側が感じている要望や疑問についても聞かせて頂くこともあり、貴重な機会となりました。外部施設から来ていただいた先生方からは、普段知り得ない他病院の実際を教えて頂けて、自身の視野を広げられる良い機会となりました。
・S-QUE の動画に沿った授業にとどまらず、現場の実例に伴う関心高いお話をして頂くことも多かったですし、シミュレーターを使用したフィジカルアセスメントの授業もあり、楽しく学ぶことができました。
・輸液・脱水・TPN についてはどの公式を用いて 患者状態を評価するのかが難しく、e ラーニングを振り返っても理解不十分で、もう少し授業時間をとって頂きたかった内容でした。来年度に聴講する機会があれば、再確認のため聴講させて頂きたいものもありました。
・解剖実習においても、2 名という少ない実習生にも関わらず、多くの時間を割いて貴重な授業をして頂けたこと、大変感謝致しております。
・共通科目のスクーリングに関しては、事前学習を行う時間が確保されておらず、3 月から休日を利用して e－ラーニングを開始していた分でようやくという状況でした。

3）OSCE について

・試験は緊張しましたが、試験に向けて実技練習を重ね、緊張する中でも練習通りに行えるという自信は、その次の実習に繋げられるものとなり、意義のあるものでした。休日での開催であり、評価者の方々に申し訳なく感じました。開催日再考の余地ありと思います。
・試験官の先生方からご指導頂いた視点は、臨地実習の視点に生かすことが出来ました。
・準備物品を試験と同様の形に準備したかった。
・練習に備える時間配分に関して、もう少し計画的にしてもらえると、無駄な時間がなくて良かったかなと感じます。

４）　臨地実習に関して

・どの麻酔科医師も熱心にご指導下さるので今後もチームとして一緒に働かせて頂く実感の持てる有意義な実習でした。
・知らない部署での同意書の取得には非常にストレスを感じました。
・症例の難しさや容易さも含めて、事前にどのような症例でどのような特定行為をとれるのか等、特定行為研修修了生の方から情報・アドバイスをいただきたかったです。
・キャリアセンターとしての関り方や立ち位置がはっきりしていると良いかなと思いました。

3．自己学習、技術演習に関するご意見や要望

・この研修修了後も eーラーニングを視聴出来る状態にあると、再確認やより知識やエビデンスを基にした特定行為や看護ケアが実践でき、他の看護師の指導・知識向上につなげられるのではないかと思いました。

4．特定行為研修を受講するにあたって困難であった状況・内容、改善案

・臨地実習に出る前に、進め方が全く分からなかった。研修を終えた方から情報を得たり、実際に 1 日一緒に臨地実習に行って頂いたりなどのサポートをお願いしたい。
・初めに 1 症例２．３行為と指定されましたが、外科術後領域では間に合いませんので、最大 5 項目くらいまでは許容して頂きたい。
・同意書の取得方法（医師への依頼方法）、1 症例に対して実施する項目等、外科と麻酔では違うため、明確にして頂きたかった。
・実習時間は調整可能ですが、9－17 時設定では困難です。ICU カンファ、放射線科カンファはもちろん、カルテからの情報を得て患者のアセスメントし、日程を調整するには 8 時にはカルテからの情報収集が必要でした。

5．1 年間の研修を通して気になったことなど

・看護師人員不足な中、長期間の研修は必要なのかという疑問も湧きますが、実際に学んでみて、医師目線の視点を看護師が学ぶには、まだまだ時間的にも経験的にも足りないということを実感します。
・研修開始前、看護師として医師の視点を知ることで更なる安全な医療 に繋げたいと思っていました 。それに関して、何らかの寄与ができるくらいには成長できた気がしています。
・現場においては 、何より円滑なチーム医療の遂行が大事だと思います 。各医療職の要として、特定行為看護師が重要な立ち位置になっていくことができれば、ご指導ご協力いただいた皆様方への恩返しになるという想いで、今後の活動の志しとしたいと考えます。
・今回の研修で、知識や技術の習得を進めるだけではなく、多くの診療科、部署、多職種と関わらせていただき、個として看護や特定行為を遂行することと、組織として連携することについて考える経験となりました。

Ｖ．次年度に向けた課題

1．　環境面について

1）　次年度も手狭ではあるが、カンファレンスルームでスクーリングができる様に準備をしていく。
2）　ネット環境は整備できたため、電子黒板等などの利用にて学習を充実させる。
3）　研修生のサポートの強化を図るために修了生の協力を得てメンターシップをシステムに組み入れる。

2．　学習内容について

1）　e-ラーニングにおいては、次年度に向けて 3 月ごろから取り組めるように準備と説明を行う。
2）　スクーリングの事前課題を漏れることなく早めに渡し、学習が効果的にできる様にする。
3）　学習指導と実習指導、評価の医師の統一化を図るように調整を行う。

3．　実習内容について

1）　実習要項については理解が十分にできるように詳細に説明する時間を設ける。
2）　術中麻酔においては、実習指導体制等について、あらためて打ち合わせを行い、実習で関わる前に担当医とディスカッショ

ンが十分にできるようなシステムを考えていく。

3） 症例カンファレンスの様な形式を取り入れ、研修生全員でディスカッションを行える機会を設け、達成感を強める。

4） 今年度初の現研修生の実習での取り組みの発表を次年度も行えるように実習中から備えるように指導をする。

Ⅵ．修了生フォローアップ研修＆研修特定行為研修セミナー

1． 修了生フォローアップ研修について

フォローアップ研修は、研修修了生が特定行為のスキルの研鑽を行う事や、今年度の研修生と交流をしながら OSCE の指導ができる様にするという目的があるが、今年度は研修生が少なかったこともあり、開催は見追った。

次年度の検討課題として、フォローアップ研修の在り方を検討していく必要がある。次年度は研修生が 3 名ということもあり、OSCE の指導が目的でもあるこの研修は、時間対効果を考えると見合わせても良いかと思われる。

2． 特定行為研修セミナー

京都府立医科大学で行っている特定行為研修について現況報告し、周知を図ることと、特定行為研修を修了した看護師の院内活動の実態や看護師を支援していく方策を病院間で共有し、特定行為研修制度を臨床現場に定着させる目的にて、特定行為研修に興味のある看護師・管理者ならびに修了看護師のいる施設の管理者を対象としてセミナーを開催した。

特に、今年度は、初の試みであるが、現研修生の実習での取り組みについて報告する機会とした。

1）開催日時：2025 年 2 月 28 日（金）16：00～18：00

2）会場：看護学学舎

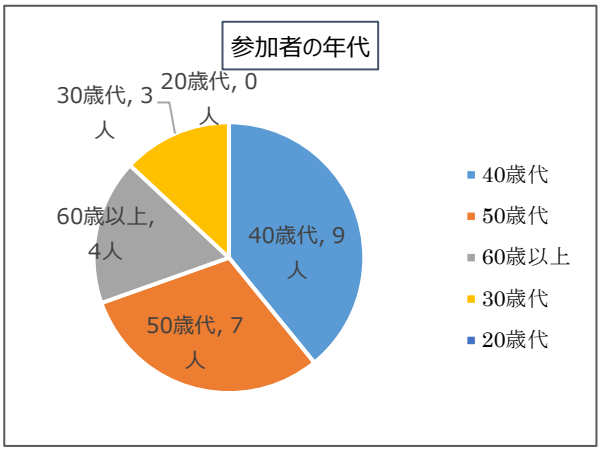
3）方法：ハイブリッド形式（対面+オンラインライブ：Zoom）で開催

4）内容

開会挨拶　京都府立医科大学附属病院　病院長 佐和　貞治	
第 1 部『講　演』 「手順書の作成過程とその活用」	滋賀県健康医療福祉部次長　切手　俊弘　氏
第 2 部『特定行為看護師修了生による活動報告及び実践状況』	
1）術中麻酔管理領域コース	大阪鉄道病院　蔭山　恵子　氏
	京都第一赤十字病院　谷山　智子　氏
『特定行為研修研修生による研修症例報告』	
1）外科術後病棟管理領域コース	京都府立医科大学附属病院　辻元　早苗　氏
2）術中麻酔管理領域コース	京都府立医科大学附属病院　髙橋　美穂　氏
閉会挨拶　京都府病院協会会長　若園　吉裕	

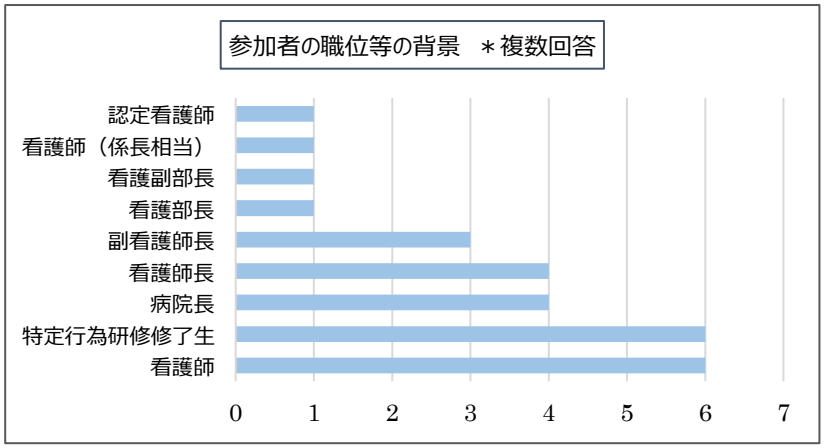
5）結果（アンケート）参加者は 59 名であり、多くは Zoom での参加であった。

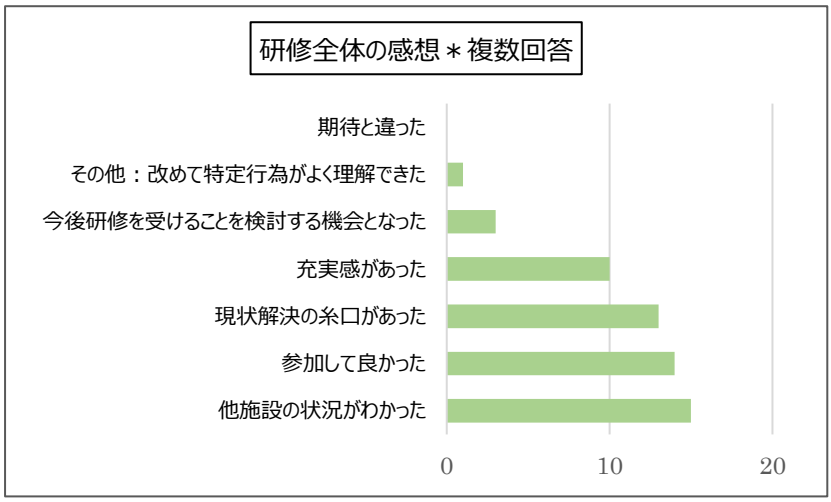
アンケートの回答は 23 人、回答率は 39%であった。



参加者の年代については、40 歳代が最も多かった。20 歳代は 0 人で 30 歳代は 5 人あり、若い世代は興味が薄いことが読み取れる。参加者の職位については特定行為研修修了生、ジェネラル看護師が最も多かった。取得している特定行為については呼吸器関連 3 区分 6 行為、呼吸器（長期呼吸に係るもの）関連、栄養および水分管理に係る薬剤投与関連、外科系基本＋創傷管理コース、救急、集中領域、栄養　血糖コントロール、術中麻酔（2 名）などであり、区分別の特定為を習得されている人が多かった。研修全体の感想として、今後研修を受けることを検討する機会となったと回答している人が 3 名であったことから、このセミナーが少しでも特定行為研修に興味を持ってもらうことに貢献できたと考える。

また、1 部の講演『手順書の作成過程とその活用』については、関心があったと回答した人 91.3%であり、「実際に手順書を自施設で作成し運用しているが、手順書に関することを再度しっかり学習させていただく機会となった」等、関心があった理由を述べていた。第 2 部の『特定行為研修修了生による活動報告及び実践状況』では関心があったと回答した人 95.7%であり、「他の施設の方がどのような活動をされているのかを聞くことで、自施での活動の参考になるため」等、また、今年初の試みである『特定行為研修研修生による研修症例報告』では関心があったと回答した人 91.3%であり、「どのようなことを感じて研修を受けているのか知りたかった」と関心があった理由を述べていた。ただ、プログラムの時間配分については時間が延長したこともあり、良くなかったと 2.3%答えていた。次年度はセミナーを時間厳守して運営できる様にしていきたい。





Ⅶ. 次年度の研修予定

2025 年度生の選考試験を 2024 年 9 月 7 日に行い、術中麻酔管理領域コースでは 5 期生 2 名、集中治療領域コース 1 期生 1 名の計 3 名が研修予定である。研修生の人数も少ないが、その分これまでの研修を振り返りながら、今後の研修のあり方、臨地実習の自施設での実施など検討をしていく。

報告者　京都府立医科大学医学部看護学科　看護実践キャリア開発センター　越智幾世

2. スキルスラボ

本学、医師、看護師、学生等の学習を支援する場として、スキルスラボが有効かつ適正に使用できるよう、教育支援課より委託業務として担当している。

1．活動目標

① スキルスラボ内の整備

② 予約システムのルールの見直し

2．成果

1）使用実績

①スキルスラボの使用件数は 158 件であり、その内訳は研修での使用が 58 件と最も多かった。（表１）

②学内使用者の職種は、医科学生 1269 名、看護師が 934 名であった。（表２）

③学外使用者は、オープンキャンパスやハンズオンセミナー等のスキルスラボを使用してのイベント参加者が多かった。（表３）

④目的外使用の内訳は、健康診断、採用試験、ワクチン接種等であった。健康診断では 1 回あたり 9～12 日間と長期間の予約となっており、その間は他の予約が制限される。

⑤シミュレーターの使用頻度については、採血シミュレーターが上位を占めた。（表４）

⑥スキルスラボ使用報告書の回収率は 57%と低い現状にある。

表１ スキルスラボ目的別使用件数

使用目的	件数
授業	44
自己学習	17
研修	58
特定行為研修	17
目的外使用（健診等）	22
合計	158

表２ スキルスラボ職種別使用者数（学内）

使用者数（職種）	人数
医学科学生	1269
看護師	934
看護学科生	0
医師	175
特定行為研修生	26
臨床検査技師	12
看護学科教員	16
臨床工学技士	1
歯科衛生士	12
薬剤師	12
理学療法士	2
その他（事務員等）	131
目的外使用	3252
合計	5842

表３ スキルスラボ職種別使用者数（学外）

使用者数（職種）	人数
医師	15
その他（業者・イベント等）	458
目的外使用	30
合計	503

表４ シミュレーター貸出件数上位 10 件

シミュレーター名	件数
動脈採血シミュレータ	116
シンジョーⅡ 採血・静注シミュレータ	34
Qちゃん 吸引シミュレータ	26
CPS実習ユニット	24
SimMan	22
IPエコー	21
気道管理トレーナ	20
レサシアン ファーストエイド（旧）	19
PICCシミュレータ	17
DAMシミュレーター	9

2）スキルスラボの整備について

① 不要な物品や在庫などは、教育支援課の支援を受けて廃棄、または倉庫へ移動することで、スキルスラボ内を整理整頓し、教育活動が行いやすい場所と動線を確保した。

② ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業への参加に関連し、看護実践キャリア開発センターとして複数台のシミュレーターを購入し、利用しやすいよう配置した。

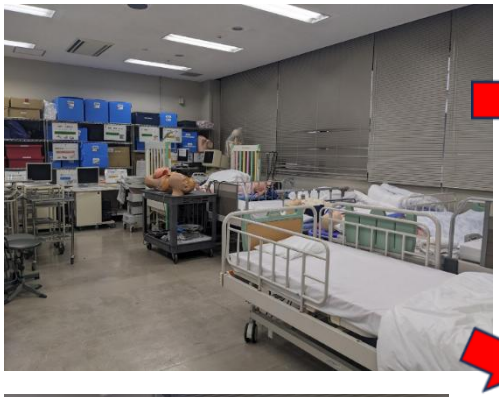
③ スキルスラボ内での、シミュレーター等の不適切な取扱いや、予約外の物品の使用などがあり、備品管理の視点から高額のシミュレーター設置場所には立ち入らないよう、パーテーションでのエリア分けを行った。

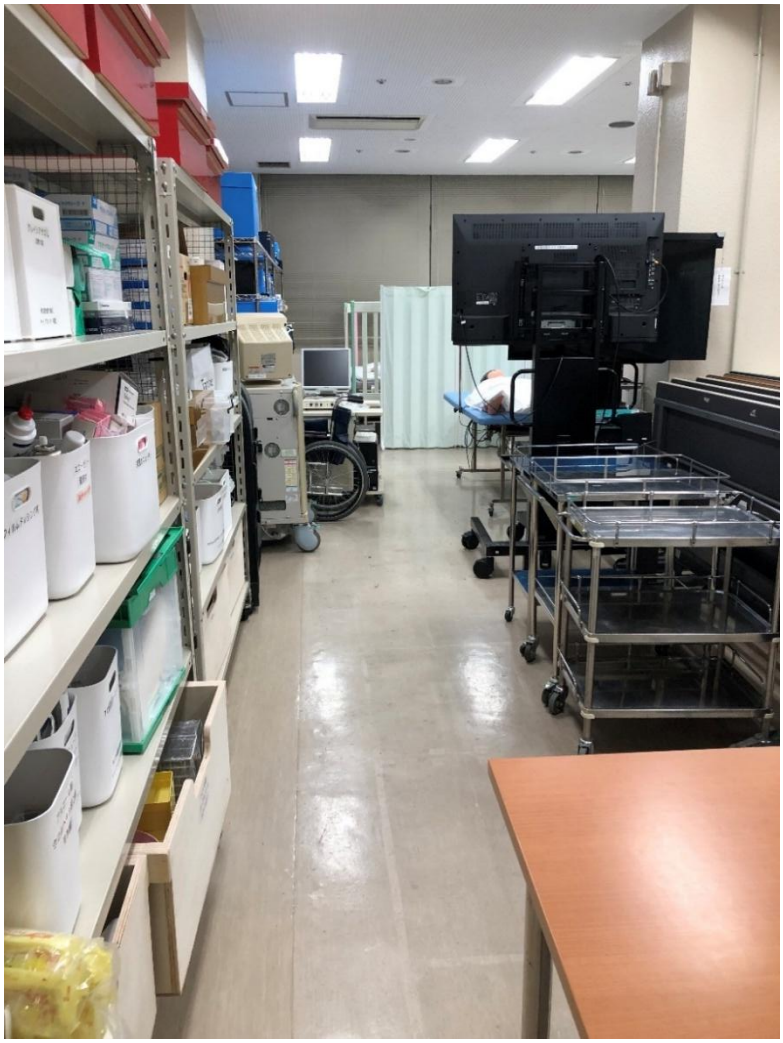
3．今年度の課題と今後の展望

スキルスラボの予約については、大学 HP よりスキルスラボ予約システムにログインし、必要事項を入力し行う。その際、所属長氏名と連絡先の入力が必要であるが、所属長への事前連絡なしに無断で入力し予約をとるケースがあった。キャリアセンターとしては、予約時にチェックを強化し、必要時は差し戻しを行う方針とする。また、予約していない備品の使用、借用備品の紛失等の問題が発生している。上記、高額シミュレーターの不適切な取扱い等もあり、管理者が常駐できない現状においては、利用者のモラルに頼った管理となっており限界もある。適正使用のアナウンスをどのように行うか、予約管理をどのように行うか今後の対策を検討する必要がある。

新事業開始もあり、スキルスラボ利用数は増加傾向にある。しかし、健康診断等の、目的外の長期使用により、他の予約ができない、備品の借用などでスキルスラボへ立ち入ることもできないなど、本来の教育目的の使用に制限が生じるケースが散見している。適正利用が行えるよう関係各所と協議しシステムの見直しを行うことが今後の課題となる。

シミュレーター保管エリアと演習エリアをパーテーションで仕切り、動線を確保した。





シミュレーター保管エリアを整頓し、シミュレーターが容易に取り出しやすい環境を作った

報告者：京都府立医科大学附属病院　看護実践キャリア開発センター　濵崎　一美

発行：京都府公立大学法人　京都府立医科大学　看護実践キャリア開発センター

〒602-8566　京都府京都市上京区河原町通り広小路上る梶井町 465
E mail　careinfo@koto.kpu-m.ac.jp
URL　https://www.kpu-m.ac.jp/j/cdcn/